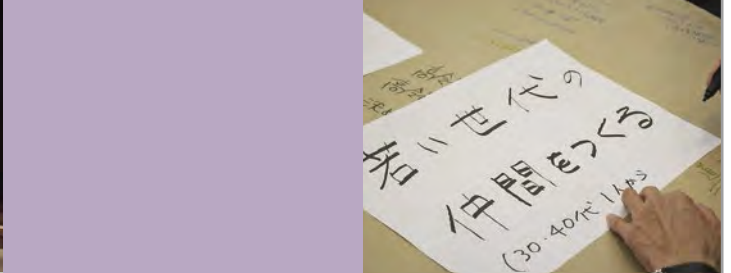


平成30年度

事業  
報告



THE ASAHI SHIMBUN SOCIAL WELFARE ORGANIZATION

# 朝日の社会福祉 2018

# はじめに

## 支え合う安心社会の実現に向けて

2018年、私たち朝日新聞厚生文化事業団は創設90周年の節目を迎えました。事業団に対してこれまで、寄付などの形で温かいご支援をいただいた多くの皆さま、社会福祉活動や公益活動で私たちにお力添えいただいた多くの皆さまに向けて、まずはこの場をお借りいたしまして、厚く御礼を申し上げます。

事業団は、関東大震災時の被災者救援の活動をきっかけに設立されました。その後も大地震や水害に遭った被災地への支援事業に力をいれてきましたが、特に18年度は7月の西日本豪雨、9月の北海道地震など災害が多発する年となりました。救援金を広く募ったほか、学生たちのボランティア活動を支える助成事業を実施いたしました。東日本大震災や熊本地震などの災害についても引き続き復興支援事業に力を入れました。

そのほかにも18年度は「中期計画2020」にそって、着実に福祉活動を実施した1年となりました。精神障害者やその家族を支援する事業に本格的に取り組み始めたほか、児童養護施設や里親家庭の高校生に奨学金を贈る「進学応援金」、子どもの貧困の解消に向けて活動する団体支援、認知症関連の事業、パラリンピック関連の事業など、様々な事業を展開いたしました。

この事業報告書から、私どもの社会福祉活動の内容や、福祉にかける思いをより知っていただければ幸いです。

事業団は19年度も、地域福祉の向上につながる「地域づくり」、福祉を支える人材を育む「人づくり」、そして「支援の輪の拡大」という中期計画が掲げる三つの軸にそって、「お互いに支え合いたれもが安心して暮らせる社会」の実現のために精いっぱい取り組んでいく所存です。財務体質も高めながら、常に福祉の最前線のニーズをとらえることを心にとめてチャレンジし、全力で社会福祉事業を行ってまいります。

これからも温かいご支援、ご協力をなにとぞよろしくお願い申し上げます。

2019年5月  
社会福祉法人 朝日新聞厚生文化事業団

目

次

はじめに	
子どもの福祉	3
被災地支援	9
障害のある人の福祉	15
高齢者の福祉	25
福祉啓発・公衆衛生	35
チャリティー事業	39
主な後援・協賛・協力事業一覧	45
チャリティー美術展に出展いただいた皆さま	50
ご寄付をいただいた皆さま	58
中期計画2020	66
障害者就労支援の取り組み	71
朝日福祉ガイド DVD・本のご案内	72
朝日新聞厚生文化事業団のあゆみ	74
2018年度事業活動計算書(抜粋)	77
理事・監事・評議員名簿	78
ご寄付の方法	79
お問い合わせ・職員名簿	80

# 子どもの福祉



## C O N T E N T S

朝日こどもの未来 ブロック大会(九州・東北) ..... 4

児童養護施設・里親家庭の高校生進学応援金、  
応援生のつどい ..... 6

第65回朝日夏季保育大学(長野) ..... 8



# 朝日こどもの未来 ブロック大会(九州・東北)

～立場を超えたつながりが生む新しい支え合いのかたち～

事業団主催

厚生労働省が発表した16年の国民生活基礎調査によると、18歳未満の子どもの貧困率は13.9%で、およそ7人に1人が貧困状態にあるとされています。経済的な問題はもちろん、それにより生じる社会とのつながりや自信の欠如などは、周囲から見えづらく、子ども自身も気づきにくいと言われています。

そうした状況を受け、子どもの居場所づくりをはじめとした、地域の子どもや子育て世帯を支える活動が全国的に増えています。支援に取り組む人たちが、互いにできること、協力してほしいことを示し合い、子どもたちへの多様な関わりや、出会い、経験、時間を提供する「連携」が求められています。地域ごとに大きく事情も異なることを踏まえつつ、各地でその輪づくりに取り組む皆さんを応援するため、今年度より地域ブロックごとの研修会を開催しました。

## ●九州ブロック大会

10月21日、熊本市・熊本学園大学を会場に、九州・沖縄・山口で居場所づくりなどを行っている民間団体や、スクールソーシャルワーカー、行政や社会福祉協議会の職員など、多様な立場から子どもの貧困問題に取り組んでいる約70人が集いました。



まず、社会活動家で法政大学教授の湯浅誠さんが「子どもへの支援が地域のインフラとして根付くために」と題し、7人に1人と言われている子どもの貧困問題を、黄信号・赤信号などに例えながら説明。居場所づくりなどの民間の担い手が増える中、“新しい支え合いのかたち”という視点から、「すべての活動が背中合わせで、双方が機能して初めてうまくいく。自分たちがどんな社会を目指し、どの部分を担っていくのかを考えると」と会場に投げかけました。

午後からの分科会では、三つの分科会に分かれて学びや議論を深めました。講師には、栗林知絵子さん(NPO法人豊島子どもWAKUWAKUネットワーク理事長)、谷口郁美さん(滋賀県社会福祉協議会<滋賀の縁創造実践センター>事務局次長)、梶谷優子さん(福岡市スクールソーシャルワーカー)らが、子どもたちが安心して地域の大人に見守られながら過ごせる環境づくりの必要性を訴えました。

最後のプログラムでは、早瀬昇さん(特定非営利活動法人日本ボランティアコーディネーター協会副代



表理事)が「“参加の力”が創る共生社会」というテーマで講演。先進事例を紹介しながら、ボランティアや支援者らが自発的・誘発的に取り組みを始めることで、誘発的な創造が起こることを強調。「参加」という方法で課題解決に取り組む機会を提供していくことが、互いに助け合える社会につながると力説しました。

すべてのプログラムを終えた後、一日を通しての気づきや学び、今後の事業展開などについて参加者同士が意見を出し合い、講師の湯浅さんと早瀬さんにそれぞれコメントをいただきながら、会が締めくくられました。

## ●東北ブロック大会

19年2月24日には、仙台市・東京エレクトロンホール宮城で東北ブロック大会を開催し(宮城県、仙台市後援)、北海道・東北の7道県から約80人が参加しました。



講師には、湯浅誠さん、栗林知絵子さん、谷口郁美さん、早瀬昇さんのほか、宮城県内でスクールソーシャルワーカーを務める望月晃二さんを迎え、単独では解決の困難な子どもの貧困問題に対して、各団体の強みと弱みを理解した先にある地域内でのネットワークづくりのあり方や、各地の地域事情について互いに意見や情報を出し合いました。



会が終了し、参加者からは、「地域全体として社会資源の把握や整理、役割分担など見直し、これから何をどうするのか具体的に考えていきたい」「同じ思いを持っている多くの人とつながりました。考えていることを仲間に話し、活動の広がりをつくっていききたいと思います」といった今後の活動への意気込みが寄せられました。

また、今回のブロック大会では、それぞれの地域から実行委員を募り、意見を交わしながら当日を迎えました。実行委員としてご協力いただいた団体は次の通りです。(順不同)

【東北ブロック大会】子育てわかち愛会(北海道)、インクルいわて(岩手県)、せんだいこども食堂(宮城県)、ビーンズふくしま(福島県)

【九州ブロック大会】周南市役所(山口県)、うきは市社会福祉協議会(福岡県)、ボナパティ(福岡県)、熊本学園大学(熊本県)、ハンズハンズ(熊本県)、森の玉里子ども食堂(鹿児島県)

それぞれの思いや行動が連動し、子どもの幸せを願う活動を前に進める力になれば幸いです。

## 児童養護施設・里親家庭の高校生進学応援金・応援生のつどい

事業団主催 原田積善会協賛

児童養護施設や里親家庭などの社会的養護で暮らし、将来に向けて大学や専門学校に進学する方に対して応援金を贈る「児童養護施設・里親家庭の進学応援金」は、今年で11回目となりました。この事業は多くの方々から寄せられたご寄付と山岡こども応援資金や原田積善会などの皆様の善意に支えられて実施しています。おかげさまで16年度から贈呈額と贈呈する人数を増やすことができました。入学金(実費)に加え「学生応援金」として年間60万円(最大360万円)を卒業するまで贈るもので、本内容での事業実施は3年目を迎えました。また、今年度からは、自立援助ホームで暮らす方も対象となりました。



19年3月19日、20日には、「進学応援生のつどい」を神奈川県で開催し、19年度の内定者51人のうち、辞退者など19人を除く32人が全国各地から参加しました。また、16、17年度の先輩応援生9人も学業の合間を見て参加し、その元気な姿を見せてくれました。

19日は神奈川県横須賀市にある猿島に渡り、チームビルディングプログラム「無人島×謎解き」を行いました。参加者全員が6つのグループに分かれ、島内の各地にある謎解きに協力して取り組みました。和気あいあいとした雰囲気の中で、プログラムは行われ、交流を深めることができました。

その後は、神奈川県三浦市内のホテルへ移動し、夕食後にグループトークを行いました。自己紹介プログラムで、参加者全員がそれぞれの特徴を理解した後、先輩応援生による学生生活に関する体験談を聞きました。その後グループに分かれ、テーマごとにそれぞれの考えや思いを伝え、最後にグループごとに発表を行いました。

20日は、バスで神奈川県横浜市みなとみらいにある「カップヌードルミュージアム・ファクトリー」に行き、ミュージアム見学と自分だけのオリジナル「マイカップヌードル作り」を体験しました。その後、横浜中華街に移動し中華料理を味わいました。

昼食後は、横浜中華街を散策し、たくさんのお土産を買うことができました。今回のつどいで知り合えた仲間を大切にしていけるよう、これからの支援に取り組んでいきます。



当事業団の進学応援金は、入学から卒業をするまで対象者に応援金を贈ることから、在学中も連絡を皆さんと取り合っていきます。そして、いつでも応援生のサポートができるような体制づくりを進めていけるよう、取り組みを進めていきたいと思えます。

## ● 応援生からのメッセージ

<19年3月で卒業を迎えた応援生より>

- \* 小さい頃から私は保育士になりたいと思っていたのですが、高校3年生の夏、今後の進路を決めるときに金銭面で進学は難しかったのですが、応援金をいただくことができ進学することができました。そして今年卒業します。ずっとなりたかった保育士になれるということです。不安はいっぱいありますが夢が叶いました。3月から研修が始まるので色々なことに挑戦しながら頑張りたいと思います。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございます。
- \* 2年間応援金をいただきありがとうございました。応援してくださったみなさまのおかげで、私は専門学校に通うことができました。4月からは社会人になりますが、いつか必ず立派な社会人になって、自分と同じように夢を持った子どもたちが専門学校や大学など進学する道を選択できるように、少しでも恩返しをしていきたいです。
- \* 2年間本当にありがとうございました。支援していただいたおかげで、ここまで頑張ってくれました。これから多くの壁にぶつかることがあると思いますが、逃げずに立ち向かっていきたいと思っています。今まで多くの支援・応援ありがとうございました。

<在学中の応援生からの近況報告>

- \* たくさんの方々のおかげで、私は自分の実現したい夢に向かって日々勉強をすることができています。将来は私のように家庭環境が複雑な子どもたちが自立していけるように支援していく立場になり社会の役に立ちたいと思っています。本当にありがとうございます。
- \* この1年間大きな事故や病気もなく、無事に過ごせました。これらは全て寄付をしてくださっている皆様や、それを支えてくださっている皆様のおかげです。だからこそ、施設を出ても大学生として安定した生活を送れているのです。本当にありがとうございます。これからも一生懸命学業に励みますので、どうか経済的援助をしていただければと思います。よろしくをお願いします。
- \* 私は看護学を学んでいます。今は1回生で一般教養が主ですが1週間に1度看護の専門の勉強をしています。実際に患者さんを看護する時大切なのは看護する者の心の持ち方だと思っているので、これから身につけていけたらと思っています。
- \* いつもご支援いただき本当にありがとうございます。そのおかげでアルバイトのみに追われることなく大好きな語学の勉強に時間を割くことができたり、友人と過ごす時間が高校生の時よりも増えたりと、充実した日々を送っています。こんなに恵まれていいのだろうかという気持ちでいつもいっぱい、皆さんからのご支援を無駄にすることのないよう、残り2年間の学生生活でも新しいことに挑戦していきたいと思っています。また、自分自身も誰かを支援できる立場になりたいと感じ、インドネシアでのボランティアを行うことに決めました。やりたいことを、やりたいと思ったその時に出来る環境を作っていただき、とても感謝しています。



## 第65回朝日夏季保育大学(長野)

事業団主催、長野県諏訪市共催

保育士や幼稚園教諭ら、乳幼児の育ちにかかわる人たちが実技講習や最新の子どもたちに関する動向を学ぶ「第65回朝日夏季保育大学」が7月20・21日、長野県諏訪市の諏訪市文化センターで、約450人が参加し開かれました。「子どもが安心できる環境」を大きなテーマに、保育にかかわる大人に何ができるのかを探りました。

重点講座「子どもたちが安心と希望をもって生活するために」では、精神疾患のある親をもつ子どもやその家族への支援を行っている専門家や当事者の話を聞きました。

大阪大学大学院准教授で保健師の蔭山正子さんによる講演では、精神疾患は「ありふれた疾患」であること、疾患を抱えながらの結婚・育児における困難を説明。支援のために連携できる公的機関や、メンタルヘルス不調のある親とのコミュニケーションの工夫などを紹介しました。また、子どもの成長を促すことなど、保育園の役割を生かした支援への期待を語りました。



その後当事者として、子ども、親、祖母の立場の3人が登壇しました。

疾患を持った母親のもとで育った52歳の女性は、極端な言動に振り回された時に感じた違和感や理不尽、誰にも相談できなかったという孤独な気持ちを語りました。3児を育てている女性は、具合が悪い時は冷凍食品を電子レンジで温めることすらできず子どもに食事を出せない、徒歩3分の保育園にも登園できないなど、疾患があるゆえの困難を訴えました。また母乳育児や抱っこの奨励など育児の世界の「理想論・精神論」に追い詰められ、心を閉ざしてしまった経験を話しました。統合失調症を発症した長女の子育てを支えている岡田久実子さん(さいたま市精神障がい者もくせい家族会)は、保育士経験者の視点から支援のあり方を掘り下げました。

参加者からは「子ども、保護者について考えが変わるような内容だった」「各家庭の背景を知り、価値観を押しつけないこと、そして障害に対して正しい知識を持つことの大切さを感じた」などの感想が寄せられました。

テーマと講師、スケジュールは次の通り。

**7月20日** 10:10-10:30開校式▽10:30-12:30「久保田雅人の工作研修～身の回りにあるものでひと遊び」久保田雅人(工作伝道師)▽13:30-15:00「なくそう!子どものしあわせ格差」浅井春夫(立教大学名誉教授)▽15:15-16:45「ケロポンズの歌って踊ってもっともっと楽しく♪」ケロポンズ(ミュージックユニット)

**7月21日** 9:00-12:15重点講座「子どもたちが安心と希望を持って生活するために」①「精神疾患のある親をもつ子どもとその家族への支援」蔭山正子(大阪大学大学院准教授・保健師)②「当事者の語りから考える」石井百合(仮名・精神疾患の親をもつ子どもの会)、平野由佳(仮名)、岡田久実子(さいたま市精神障害者もくせい家族会、保育士)▽13:00-14:30「発達の気になる子どもへのサポート～子どもの理解と子どものための保護者支援～」江口寧子(特定非営利活動法人それいゆ副理事長)▽14:45-16:15「子どもの最善の利益を保障するために～保育所保育指針を福祉の視点から読み解く～」柏女霊峰(淑徳大学総合福祉学部教授・同大学院教授)

# 被災地支援



**西日本豪雨災害への救援金 ご協力を**

西日本豪雨で甚大な被害を受けた被災者のため、朝日新聞社と朝日新聞厚生文化事業団は、救援金を8月9日まで受け付けます。日本赤十字社などを通じて救援活動に役立てます。

ご寄付は郵便振替(0092 0・6・301395、加入者名・朝日新聞厚生文化事業団)

朝日新聞社  
朝日新聞厚生文化事業団

で、通信欄に「西日本」と明記してください。紙面掲載で匿名扱いの希望や寄付金控除に使う書類が不要な方は、その旨も書きください。手数料はご負担願います。物資はお受けできません。

## C O N T E N T S

熊本地震被災地復興支援活動助成(熊本) .....	10
西日本豪雨災害大学ボランティアセンター助成.....	10
西日本豪雨災害・北海道地震救援金.....	11
こども応援金.....	11
東日本大震災へのご寄付.....	11
朝日のあたる家(岩手) .....	12
復興支援プロジェクト(福島) .....	13
南三陸復興支援(宮城) .....	14
グリーンサポート(宮城) .....	14

## 熊本地震被災地復興支援活動助成(熊本)

事業団主催

2016年の熊本地震の発災から2年が経過した中、継続して被災地での復興支援活動に尽力されている団体への支援を目的とした公募による助成事業を実施しました(合計12団体、総額約500万円)。

7月12日には、助成団体の方々を招き、朝日新聞熊本総局で贈呈式を行いました。当事業団の飯田真也理事長からの各団体への目録贈呈や各団体による活動内容の発表が行われ、それぞれの理解を深め、交流の輪を広げました。

今後も災害に対しての迅速かつ効果的な支援を被災地にお届けできるように取り組みを進めていきます。

【助成団体】一般社団法人ACTくまもと、緒方整体院、熊本おじゃめの会城南支部、熊本学園大学ボランティアセンター、熊本シニアネット、P3、レスキューアシスト熊本、フレンドシップ(以上熊本市)、ハンズハンズ(嘉島町)、南阿蘇ふるさと復興ネットワーク、南阿蘇ヘルプセンター(AAAアジア&アフリカ)、ロハス南阿蘇たすけあい(以上南阿蘇村)



## 西日本豪雨災害大学ボランティアセンター助成

事業団主催

7月に発生した西日本豪雨災害は、岡山県内をはじめ広範囲にわたり甚大な被害をもたらしました。事業団では被災地域で今後の継続した生活支援活動を行う大学ボランティアセンターを対象に、公募による助成事業を実施しました。助成を通じて学生の支援活動の幅をさらに広げ、様々な交流や学びを経験してもらうことでの人材育成や、各団体間のネットワークづくりを目的としています。

選考の結果、10団体に1団体30万円を上限に総額280万円を助成しました。また2019年5月には助成団体が集まり、それぞれの活動を報告する報告会の実施を予定しています。今回の助成団体の皆さまと今後も引き続き協働をしていきながら、迅速な災害支援活動につなげていきたいと思っております。

【助成団体】中央大学ボランティアセンター(東京都)、ボラセンCWクラブあすなろ(愛知県・名古屋学院大学)、名城大学ボランティア協議会(愛知県)、大阪府立大学ボランティア・市民活動センターV-station(大阪府)、神戸大学持続的災害支援プロジェクトKont-i(兵庫県)、関西国際大学セーフティマネジメント教育研究センター(兵庫県)、松山東雲ボランティアセンター(愛媛県)、筑紫女学園大学国内震災ボランティア(福岡県)、長崎国際大学ボランティアセンター(長崎県)、熊本学園大学ボランティアセンター(熊本県)

## 西日本豪雨災害救援金 北海道地震救援金

7月に発生した西日本豪雨で被災された方のため、朝日新聞社と事業団が窓口となり受け付けた救援金は3カ月間で計6287件、1億4613万4726円に上りました。また、9月に起きた北海道地震へは2カ月間で計2192件、5057万4662円が寄せられました。この全額を日本赤十字社に寄託しました。



西日本豪雨災害救援金の目録を大塚義治・日本赤十字社副社長に渡す事業団の飯田真也理事長

## こども応援金

事業団主催

震災で両親を亡くした子ども（孤児）に「東日本大震災こども応援金」を届ける事業を継続しています。金額は未就学児・小学生が1人当たり300万円、中学生が200万円、高校生相当年齢が150万円。「自由に使えるお金」として、対象の子どもたちに直接渡してきました。

11年7月から贈呈を始め、19年3月末までに対象と見込んできた220人の9割を超える202人に総額4億8850万円を贈ることができました。

### 東日本大震災へのご寄付、18年度は770万円

朝日新聞厚生文化事業団の東日本大震災救援事業へ18年度に寄せられたご寄付は、774万7348円に上りました。

東日本大震災救援募金（震災直後から12年3月末まで実施）も含めたご寄付の累計は、19年3月末で約9万件、総額37億3971万9604円となりました。

【年度別】10年度 17億1703万9856円▽11年度 17億9627万3050円▽12年度 1億1362万4052円▽13年度 4572万1384円▽14年度 2359万9869円▽15年度 1847万7091円▽16年度 955万8676円▽17年度 767万8278円



## 朝日のあたる家(岩手)

事業団、NPO法人福祉フォーラム・東北主催

朝日のあたる家は、当事業団の震災救援事業に寄せられた寄付金により、2013年2月に誰でも気軽に立ち寄り、情報交換をしたり地域に根ざしたイベントを開催する場として岩手県陸前高田市米崎町に開設されました。開設からこれまでNPO法人「福祉フォーラム・東北」の方々と共に歩みを進めてきました。19年2月で6周年を迎えました。

朝日のあたる家では、「福祉フォーラム・東北」のスタッフが常駐し、運営しています。木造平屋建て床面積約240平方メートルの建物には、大小4つのホールや和室、キッチンがあり、グランドピアノやプロジェクター、音響設備なども備えています。



朝日のあたる家では、地域の方々と一緒に数々のプログラムを開催しています。

認知症の方やそのご家族、地域の方に自由にご参加いただき、認知症の方が住み慣れた地域での暮らしを継続できるよう願う「アップルカフェ(認知症カフェ)」、食べる・作る・会う・参加するすべての楽しみを味わいながら元気を持続していくこと願う「みんなでごはん」、身体の維持だけでなく、心の豊かさを作り上げる「いきいき百歳体操」などを実施しています。その他にも夏まつりや芋煮会など、季節感を取り入れたイベントも実施しています。これからも地域の方々のニーズを取り入れ



ながら、実りのあるプログラムを作っていくことはもちろん、地域の方々の交流の場として、引き続き、朝日のあたる家に来られた方が心地よく過ごせるような雰囲気づくりをしていきたいと思えます。

15年5月に敷地内の小高い丘に作られ、憩いの場として多くの子どもたちに楽しんでいただいている「虹の架け橋」、さらに、17年度より実施している「生き生き朝日」(陸前高田市通所型サービスB事業)も利用者の増加に伴い、開催日を週1回から週2回に増やすなど活動も充実してきています。



また17年度に購入した車両を利用して利用者の方々の送迎の機会を増やし、利便性の向上を図っています。

今後も陸前高田市の住民の方々はもちろん、地域の関係機関の方々とともにさらに連携を深めながら、朝日のあたる家が地域の資源として根付き、豊かな社会作りに寄与できるよう取り組みを進めていきます。

## 復興支援プロジェクト（福島）

事業団主催 ジャパンアーツ協力

「復興支援プロジェクト」がスタートして2年目を迎えました。今年も世界で活躍する人気バイオリニストの千住真理子さん、ピアニストの丸山滋さんにご協力をいただき、福島第一原子力発電所事故の影響で生活再建に苦勞している方たちへ、バイオリンとピアノの美しい音色をお届けしました。

福島県では震災から8年がたった今もなお、事故の影響で自宅に戻れずに生活する人たちがいます。たくさんの人たちが仮住まいの生活を余儀なくされ、不安定な生活を続けています。避難エリアは段階的に解除されてきましたが、立ち入りが制限されている地域も多く、生活再建さえもままならないのが現状です。県内に住む人たちにとってはこれからも解決していかなければならないことが山積みになっています。

そのような中で、日々復興に向けて地域で格闘し続けている方々に、心が安らぐひとときをお届けしようと継続して行っているのが、この復興支援プロジェクトです。

千住さん、丸山さんが10月5日～6日にかけて福島県を訪問し、2日間にわたって県内各所で演奏を行いました。18年4月に再開したばかりの川俣町の山木屋小中学校では、近くに暮らす人たちも体育館にお招きして演奏を行いました（小中学校に演奏に訪れましたが、小学校は生徒数の減少に伴い残念ながら19年4月から休校になりました）。

このほか、葛尾村立葛尾小中学校、浪江町立なみえ創成小中学校、浪江地域スポーツセンター、双葉町の医療拠点として新設された双葉医療センター、高野病院など福島県内6カ所で演奏を行いました。

浪江町立なみえ創成小中学校の音楽室で5日に開かれたリサイタルでは、丸山さんの伴奏に合わせて千住さんがバッハの「G線上のアリア」やモーツァルト作曲の「トルコ行進曲」、ホルストの「ジュピター」などの名曲を10人の生徒の目の前で演奏しました。

同校の中学一年、遠藤雪姫（えんどうゆめ）さんは、「世界的に有名な千住さんの演奏をこんなに間近で見ることができ、とても幸せな気持ちになりました」と話していました。

事業団は今後も復興に尽力されている被災エリアの皆様を応援する取り組みを継続していきます。



山木屋小中学校



浪江地域スポーツセンター



なみえ創成小中学校

## 南三陸復興支援（宮城）

事業団主催

東日本大震災で大きな被害を受けた宮城県南三陸町に今年度も助成を実施しました。

2018年3月に完成した南三陸町社会福祉協議会「地域ささえあいモール・結の里」（以下「結の里」）。事業団が建設費用の一部を助成）の地元での運用が進み、地域住民の交流の場として広がってきました。当初想定したよりも早くに「結の里」が地域住民に親しまれる施設となり、施設の名前のとおり、地域に住む子どもから高齢者の方々までの幅広い年齢層の人たちが集い、支えあう場所として順調に機能し始めています。

今年度は新たに、育児中の人たちが利用する赤ちゃん用「おむつの交換台」とイベントを実施する際の「音響設備」、そして「結の里」施設開設1周年に向けて「結の里」のインフォメーション看板の設立に協力しました。これらの助成については、設置に関連してより地域交流の幅を広げる様々なワークを実施することを趣旨としており、一連のワークを通して新たな交流を生み出したり、施設への愛着を深めてもらったりすることで、南三陸町の復興支援の一助とさせていただいています。

## グリーフサポート（宮城県）

事業団、東松島子どもグリーフサポート主催

東日本大震災以降継続して行っている、津波と地震を経験し、身近な人をなくした子どもたちを対象にした心のケアを目的とした事業です。18年度も宮城県東松島市の皆さんとともにグリーフケアのプログラム「あそびのいえ」を実施しました。

「あそびのいえ」は、子どもたちが安心と希望を持って暮らすために、あそびを通して自分自身のさまざまな感情を受け入れ、自分なりに整理していくプロセスをともに歩むプログラムです。

18年度は活動の定着に向けて、地域の有志グループ「東松島子どもグリーフサポート」を主体として隔月で開催する体制が整いました。定期的な実施体制が整ったことで、子ども、スタッフともに常連の参加者として来る人も増えてきています。

また、メンバーの1人である、木村直隆さんの運営しているパーラーの協賛をいただき、子どもたちを対象にしたお菓子作り講座や、日帰り遠足の事業を実施することも19年度に向けて検討されています。



# 障害のある人の福祉



## C O N T E N T S

精神保健福祉地域生活支援事業(東京、札幌) 精神疾患のある親をもつ子どものつどい、学習会……………	16
精神保健福祉地域生活支援事業(東京) 講演会「精神障害のある人へのアウトリーチによる支援の実際と課題」…	17
みんなで行なひピック……………	18
高次脳機能障害講演会(東京・大阪) 「医療と連携、リハビリから就労へ」……………	19
第35回全国高校生の手話によるスピーチコンテスト(東京)	20
自閉症カンファレンスNIPPON 2018(東京) ……	21
視覚障害の大学生のための聖明・朝日盲大学生奨学金(東京)	22
ポッチャ体験&福祉ちょこっと相談会(東京) ……	22
第37回肢体不自由児・者の美術展(東京、福岡) ……	23
第39回障害者歩くスキーの集い(北海道) ……	23
第39回朝日九州車いすバスケットボール選手権大会(沖縄)	24
第30回九州車いすツインバスケットボール選手権大会(熊本)	24



## 精神保健福祉地域生活支援事業(東京、札幌) 精神疾患のある親をもつ子どものつどい、学習会

精神疾患の親をもつ子どもの会「こどもぴあ」、事業団等主催

精神障害のある人やその子どもたちが安心して暮らせる地域社会を目指し、2018年1月に発足した、精神疾患の親をもつ子どもの会「こどもぴあ」とともに活動を始めました。

### ●精神疾患のある親をもつ子どもの立場

うつ病や統合失調症などの精神疾患は、誰にでも起こる可能性がある身近な病気です。そして精神疾患のある人が子どもを持つことも、あたりまえのことです。

しかし、社会に十分な環境が整っていないため、精神疾患のある親を持つ子どもたちが困難を抱えることも少なくありません。例えば、幼少期に十分な養育が受けられなかったり、小さい頃から介護者として家事などを担いながら育ち、他の家庭の子どもが経験していることをあきらめたりしている場合もあります。また、親が病気だと知らずに育つケース、親自身にも病識がなく、未治療のまま何の支援にもつながらず孤立している家庭もあります。

全国に精神障害のある人の家族会はありますが、そのほとんどが障害のある子どもをもった親の立場の人の参加となっています。子ども同士が出会い、自分の家庭の話を打ち明けることができる場はほとんどありませんでした。そのため孤独な気持ちで生きている人が多いのが現状です。

### ●精神疾患の親をもつ子どもの会「こどもぴあ」との共同事業

精神疾患の親に育てられた人たちが、お互いの経験を語ることで支えあおうと18年1月に「精神疾患の親をもつ子どもの会『こどもぴあ』」を発足させました。埼玉県立大学の横山恵子教授(精神看護学)らが15年から開く子どもの立場向けの家族学習会などで出会い、交流を続けてきたメンバーによるものです。

子どもの立場の人が出会える場・集える場をつくり、今現在困難な状況にある子どもたちがSOSを発するきっかけをつくっていけるよう、当事業団は、「こどもぴあ」とともに活動を開始しました。「こどもぴあ」の運営会議をともに開催するなど、会の立ち上げ時期を応援させていただきながら、子どもの立場の「つどい」(東京)と「家族学習会」(東京と札幌)をともに開催しました。

子どもの立場の当事者活動を全国に広げ、精神障害のある人、その子どもが適切な支援を受けながら、親子一緒に健全な家庭を築いていけるよう環境を整えていくことを目的としています。

### <精神疾患をもつ親に育てられた人のための「つどい」「家族学習会」>

10月14日、19年1月27日に、精神疾患をもつ親に育てられた人のための「つどい」を、朝日新聞東京本社・読者ホールで「こどもぴあ」とともに開催しました。

同じような体験をした仲間と語り合えるこの「つどい」には、定員を超える方々からの問い合わせがあり、10月は約40人、1月は約30人が参加し、体験を語り合いました。

また、7月から11月にかけて、子どもの立場の「家族による家族学習会」を、朝日新聞東京本

社内の会議室で開催しました。1回3時間、全5回を通して、精神疾患や各年齢期での体験の例などが記載されているテキストにそって、自身の体験を振り返り、メンバー内で語り合います。話の進行役は研修を修了している「こどもぴあ」のメンバーが担当します。

これまで語ることさえできなかった自分の気持ちを、この場で言葉にすることで整理できたり、新しい考え方や物の見方に気が付いたり、自身の強みに目を向けられ、これからの人生を歩んでいく力につながったりしています。

### <「こどもぴあ・札幌」の立ち上げ>

子どもの立場の当事者活動を全国に広げていき、困難な状況に置かれている子どもたちがどこに住んでいても仲間とつながり、適切なサポートを受けられるよう、「こどもぴあ」の活動を他の地域でも展開していければと考えています。

18年度は、北海道で活動をしている、精神疾患の親を持つ子どもの会「星の家」と「こどもぴあ」とともに、短期集中型の「家族学習会」を、全国精神保健福祉会連合会みんなねっと、北海道精神障害者家族連合会等の協力のもと、19年2月2日、3日に札幌医科大学で開催しました。この学習会は、「星の家」が「こどもぴあ」の仲間として活動する最初の取り組みとなりました。今後も学習会の継続が検討されており、当事業団でも引き続き札幌での活動を応援していきます。

精神障害があっても、適切な支援があれば、親子一緒に安心した生活が送れます。「こどもぴあ」との活動を通じ、そのような環境を整えていけるよう取り組んでいきます。

## 精神保健福祉地域生活支援事業（東京） 講演会「精神障害のある人へのアウトリーチによる支援の実際と課題 ～地域での暮らしを豊かにするために～」

事業団主催  
地域精神保健福祉機構、全国精神保健福祉会連合会後援

精神障害のある人が入院に頼らず地域で暮らしていくために必要な支援を考えるための講演会を、19年1月12日に、朝日新聞東京本社・読者ホールで開催し、約100人が参加しました。

千葉県にある訪問診療を中心としたメンタルヘルス診療所しっぽふぁーれ院長で、精神科アウトリーチ医療のパイオニアである伊藤順一郎さんが、包括型地域生活支援（ACT）の取り組みの意義や考え方、必要な環境について話しました。続いてACTを実践しているクリニックの医師岡崎公彦さん（岡崎クリニック院長）、訪問看護ステーションの看護師増子徳幸さん（一般社団法人てとてリンクよこはま訪問看護ステーション副管理責任者）、ピアサポーターの大喜田聡さん（医療法人社団宙麦会相談支援事業所PHARE相談支援専門員）がそれぞれの立場から現状や課題を語りました。地域と積極的につながることを通して理解者を増やし、訪問支援を実現させたさいたま市精神障がい者もくせい家族会副会長の佐藤美樹子さんによる報告もありました。

最後に、全講師によるパネルディスカッションもあり、「地域を耕していく」ために必要なことを探りました。

## みんなでパラリンピック 高齢者施設でボッチャ体験会、児童養護施設の児童を ブラインドサッカー・ワールドグランプリに招待

事業団主催

2020年に開かれる東京パラリンピックを高齢者施設と児童養護施設で生活する方々に親しんでいただこうと正式種目・ボッチャ体験会とブラインドサッカーのワールドグランプリ観戦を実施しました。

障害者スポーツに触れる機会が少ない施設の入所者にその楽しさを知ってもらい、さまざまな障害への理解を深め、心のバリアをなくし交流してもらうことなどを目的に18年度からスタートしました。

### ●高齢者と中学生と一緒にボッチャ体験

「床上のカーリング」とも呼ばれるボッチャ。ロンドンパラリンピック日本代表・秋元妙美選手と同監督で日本ユニバーサルボッチャ連盟・古賀稔啓理事長を講師にお招きし、19年3月25日に社会福祉法人浴風会（東京都杉並区）でボッチャ体験会を催しました。浴風会関連施設（軽費老人ホーム松風園、浴風会ケアハウスほか）、地元住民に声をかけ、約80人が参加し一緒にボッチャを楽しみました。



「皆さん、楽しくやっていました。動けなくても楽しく遊べる老人にいい競技です。雨露関係ないのが良い。ぜひ、こういう機会を広げて行って欲しいですね」と浴風会ケアハウスで生活する男性は話しました。また、同区立富士見丘中学校の生徒15人がボランティアとしてコート作りや審判、高齢者の誘導など運営をサポートしました。終了後、「楽しかった」「またボッチャのイベントがあったら参加したい」などと話し、体験会を盛り上げてくれました。

### ●熱戦に歓声「ブラインドサッカー・ワールドグランプリ2019」を観戦

視覚に障害のある選手が行うブラインドサッカーの「ワールドグランプリ2019」（3月21日、品川区天王洲公園）の日本対スペイン戦へ児童養護施設・聖園子供の家（神奈川県藤沢市）の児童ら33人を招待しました。日本代表の結果は第4位。観戦した児童は「選手が障害があることを感じさせず元気に動いていた」（小3女子）「ブラインドサッカーを観るのは初めて。仲間のことを信頼しているからあんなプレーができるんだと思いました」（中3女子）と話し、5月に同施設で行われる体験会を心待ちにしている様子でした。



なお、同事業は19年度も開催する予定です。児童養護施設のブラインドサッカー体験会は5月以降に東京、埼玉でも順次開催します。ボッチャ体験会は関東各地の高齢者施設で行う予定です。

## 高次脳機能障害講演会（東京・大阪） 「医療と連携、リハビリから就労へ」

事業団主催 日本脳外傷友の会、大同生命厚生事業団ほか後援

高次脳機能障害の人たちの社会復帰に向けて、医療と福祉が地域の中でどのように連携し、リハビリから就労へ向かうのかを学ぶ講演会を東京と大阪で開催しました。東京では9月30日、東京都中央区の浜離宮朝日ホールで160人、大阪では11月4日、大阪市西区の大阪YMCA会館で160人が参加して行われました。東京では台風24号の影響を受け、午後1時から4時までの予定を30分繰り上げて実施しました。

### ●東京

橋本圭司・はしもとクリニック経堂院長が「高次脳機能障害のリハビリテーション」と題し講演。高次脳機能障害は改善に年単位で時間がかかると説明、様々な症状が一人ひとり違って表れる「オリジナルブレンド」が特徴だが、回復の道筋には共通点があると指摘しました。



その後、橋本さんと北京パラリンピック金メダリストで、高次脳機能障害当事者の石井雅史さんが対談しました。「長い間のリハビリで感じたことは」という問いに、「好きな物や外に目を向け、楽しいと感じると苦にならない」と述べ、また「就労したということにどう思ったか」という質問に「今の仕事をする事で、所属先ができた社会的信頼が生まれた。それに伴う責任感も生まれた」と語りました。

最後は瀧澤学さん(神奈川県リハビリテーション支援センター・地域支援室統括主査)の進行で、シンポジウム「医療と連携、リハビリから就労へ」を開催。パネリストとして予定していた納谷敦夫さん(なやクリニック高次脳機能障害担当医)が台風の影響で参加できず、橋本さんが代役。野々垣睦美さん(クラブハウスすてっぷなな統括所長)、深津玲子さん(国立障害者リハビリテーションセンター企画・情報部・高次脳機能障害情報・支援センター長)が登壇しました。

### ●大阪

深津玲子さんが、国の高次脳機能障害支援の経緯を語り、高次脳機能障害の定義、就労の福祉サービスについて述べました。シンポジウムでは橋本圭司さんがコーディネーターを務め、パネリストとして、大阪府堺市を中心にさまざまな機関と連携している納谷敦夫さん、横浜市で生活、就労支援をしている野々垣睦美さん、全国7ヵ所に事業所をもち就労移行支援に特化して活動を行っている濱田和秀さん(特定非営利活動法人クロスジョブ代表理事)、アドバイザーとして深津さんが登壇。様々な課題とともに地域でどのような支援が行われているのかが話し合われました。

最後に橋本さんは、多岐にわたる症状をもつ高次脳機能障害だが、他の発達障害や認知症も、別の角度から見れば同じ症状。障害の枠にとらわれず本人中心の支援が必要と力説し、16—17年前に家族会が火付け役となった高次脳機能障害の福祉も次のステージに入り、何事も当事者中心で進められることが大切と結びました。



## 第35回全国高校生の手話によるスピーチコンテスト（東京）

全日本ろうあ連盟、事業団、朝日新聞社主催  
厚生労働省、文部科学省、テレビ朝日福祉文化事業団、日本手話通訳士協会、全国聾学校長会後援、  
東京都聴覚障害者連盟協力、NEC協賛

1984年から手話の普及とボランティア活動、福祉教育の推進を目的に始まった「全国高校生の手話によるスピーチコンテスト」。35回目となった今回は、8月25日に東京都千代田区の有楽町朝日ホールで開催しました。全国の応募者45人から原稿と映像の審査で選ばれた高校生10人が「手話と共に生きる社会」「私が歩む道」のいずれかからテーマを選び、手話と音声を同時に使ったスピーチを披露。日ごろの練習の成果を競いました。



1位には福島県立田村高校3年、柏原力樹さんが輝きました。柏原さんは「手話とともに」と題して、剣道に打ち込むろう者の存在を知り、あきらめずに挑戦する大切さを学んだ経験をスピーチ。「将来は特別支援学校の教諭になりたい」と約450人の来場者の前で思いを力強く述べました。2位には岐阜県・済美高校2年、大見夏鈴さん、3位には佐賀県・東明館高校2年、吉村義誠さんが選ばれました。

入賞者には賞状とトロフィー、協賛のNECからノートパソコンやタブレットなどの賞品が贈呈されたほか、参加者全員にNECからコンテストの録画DVDが贈られました。

また、当日は秋篠宮家の長女眞子さまが出席。開会式で全てのスピーチを手話を交えて行い、「みなさまが、ご自分の思いや考えを豊かな手話で表現なさるのを楽しみにしております」と高校生たちを励ますあいさつを述べました。

特別プログラムでは、絵描きの門秀彦さんが「ノンバーバルコミュニケーションとしての手話」をテーマに講演。ろう者のご両親との思い出や、コミュニケーションへの思いなどを、ライブペインティングも交えつつ表現しました。

審査員は小椋英子・日本手話通訳士協会会長、田仲教泰・厚生労働省障害保健福祉部企画課自立支援振興室長、栗野達人・東京都聴覚障害者連盟会長、石橋大吾・全日本ろうあ連盟理事、服部芳明・全日本ろうあ連盟理事、各務滋・朝日新聞論説委員のみなさんに務めていただきました。

出場者は次の通りです（敬称略、かっこ内は所属とスピーチのタイトル）

1位・柏原力樹（福島・田村高3年「手話とともに」）▽2位・大見夏鈴（岐阜・済美高2年「夢」）  
▽3位・吉村義誠（佐賀・東明館高2年「見えない溝」）▽奨励賞・徳永旭（高知・安芸高2年「手話の普及で広がる未来」）▽奨励賞・脇島愛奈（栃木・壬生高3年「手話と私～17才になった今、思うこと～」）▽比嘉琉花（沖縄・陽明高3年「実現できる未来予想図」）▽石黒亜友美（石川・田鶴浜高3年「選択ミス」）▽本間春菜（東京・大泉桜高3年「意志あるところに道は拓ける」）▽薬丸乃子（北海道・石狩翔陽高3年「『手話語』一期生として」）▽佐竹美柚（愛知・桜花学園高3年「誰もが手話を」）

# 自閉症カンファレンスNIPPON 2018 (東京)

自閉症カンファレンスNIPPON実行委員会、日本自閉症協会、事業団主催  
厚生労働省、文部科学省、日本知的障害者福祉協会後援

自閉症(ASD)の人たちへの支援の会議として国内最大級の「自閉症カンファレンスNIPPON 2018」を、本年度も8月25日・26日の2日間、東京都新宿区の早稲田大学で開催し、17回目を数える今回も全国から福祉・教育・医療関係者、家族ら約1000人が参加しました。

包括的な自閉症支援のシステム「TEACCHプログラム」実践研修の場です。世界的権威の米国ノースカロライナ大学元TEACCH部部長ゲーリー・メジボフ教授が2年ぶりに来日し、自閉症支援の基本と新しい情報を伝えました。また、同大学のTEACCH自閉症プログラム(旧TEACCH部)からローラ・クリンガー／ディレクターも来日し、幼児、学齢期から生涯を見通して高齢に至るまで、人生全般に対する支援とサービスについての実践を紹介しました。

このほか、3つのテーマ別に合計12の日本国内の実践報告を聞く分科会や、各地での実践活動を自主参加で報告し、参加者との交流を広げるポスターセッション、入門解説講座「基礎からの構造化」、「基礎からの評価」などの講義、特別講座の「コミュニケーションセミナー」、それに当事業団制作のDVD「自閉症の人が求める支援」の上映など、盛りだくさんのプログラムが行われました。

運営は例年、現場で活躍する専門家や実践家で構成する実行委員会と、延べ100人を超す若いボランティアスタッフにより支えられています。今後も「自閉症を正しく理解する」支援の輪をさらに全国に広げ、自閉症の人への支援がより一層充実することを目標に、その一助となるよう努めます。

## ●メジボフ教授講演会「自閉症を正しく理解すること」(新潟、熊本、倉敷)

ゲーリー・メジボフ教授の来日に合わせた講演会「自閉症を正しく理解すること～自閉症の支援で最も大切なこと」を、8月28日に新潟市・朱鷺メッセ国際会議場、9月1日に熊本市・ホテルメルパルク熊本、同2日に倉敷市・川崎医療福祉大学で開催。合わせて約1500人が参加し、「自閉症の人たちの学習スタイル～正しく理解する」「構造化された指導～自閉症の学習スタイルに合わせた支援」「自閉症の支援で最も大切なこと～TEACCHプログラムのコア・バリュー」の3つの講義に耳を傾けました。

当講演会は、2004年度から毎年開催しのべ29都市で開催しています。各会場では地元自閉症協会や関係の方々にご協力をいただきました。当講演会をきっかけに、自閉症の人への支援活動が地域で根を張り充実するように、今後も各地の関係者の方々と協力しながら、活動を積み重ねていきます。

＝各会場とも厚生労働省、文部科学省後援

【新潟会場】NPO法人にいがた・オーティズム、新潟自閉症協会連合、日本自閉症協会、当事業団主催、新潟県、新潟市、新潟県教育委員会、新潟市教育委員会、新潟県発達障がい者支援センターRISE、新潟市発達障がい者支援センターJOIN後援【熊本会場】熊本県自閉症協会、日本自閉症協会、当事業団主催、熊本県、熊本市、熊本県教育委員会、熊本市教育委員会、熊本県北部発達障がい者支援センターわっふる、熊本県南部発達障がい者支援センターわるつ、熊本市発達障がい者支援センターみなわ後援【倉敷会場】岡山県自閉症協会、日本自閉症協会、当事業団主催、岡山県、岡山市、倉敷市、岡山県教育委員会、岡山市教育委員会、倉敷市教育委員会、おかやま発達障害者支援センター、川崎医療福祉大学後援

## 視覚障害の大学生のための「聖明・朝日盲大学生奨学金」(東京)

事業団、聖明福祉協会主催

### ●貸与を続けて50年

視覚障害のある大学生のための「聖明・朝日盲大学生奨学金」制度は、1969年に設けられ、奨学生OBは弁護士や大学教員、社会福祉や行政などさまざまな分野で活躍しています。奨学金はこれまで212人の学生に貸与しています(今年度の2人を含む)。現在、奨学生には毎月4万円が奨学金として貸与されています。記念すべき第50期生の貸与式が5月19日、グランドヒル市ヶ谷(新宿区)で行われ、新奨学生には東京農業大学の池内風香さんと筑波技術大学の菊地かなさんが選ばれました。



式典では本間昭雄・聖明福祉協会理事長が制度が始まった経緯や50年間支えてくださった関係者へ謝辞を述べ、新奨学生には「新たな分野を切り開いて勉学に励んでください。一生懸命に頑張つて、社会に貢献してください」とお祝いの言葉を贈りました。続いて朝日新聞厚生文化事業団の是永一好事務局長が審査経過について報告しました。またリオデジャネイロ・パラリンピックの視覚障害者柔道・金メダリストの広瀬誠さん(愛知県立名古屋盲学校高等部教諭)が記念講演し、「変えられないことは受け入れる努力をする、変えられるものは変える努力をする。折れない心を持つことが大切」などと体験を交えて話し、新奨学生に励ましの言葉を贈りました。日本盲人福祉委員会の竹下義樹理事長はじめ多くの奨学生OBも駆けつけ、50年の記念の会を盛大に祝いました。

## ボッチャ体験&福祉ちょこっと相談会(東京)

中央区社会福祉法人連絡会主催(事業団も同会に参加)

東京都中央区の社会福祉法人が連携し地域社会に貢献する取り組み「ボッチャ体験&福祉ちょこっと相談会」を12月2日に中央区の月島区民センターで催しました。

ロンドンパラリンピック日本代表・秋元妙美さんや同代表監督の古賀稔啓さんを講師にお迎えし、高齢者や障がいのある方、小さい子どもを連れた家族ら138人がボッチャを体験しました。近隣の高齢者施設からは入所者がスタッフと一緒に参加。多世代の人にボッチャを楽しんでいただいた一日となりました。別の会場では日常生活の疑問に専門家がこたえる福祉相談会も実施しました。

また都内で実施された活動を紹介する「社会福祉法人の地域における公益的な取組み 実践発表会～社会福祉法人は地域と共にあります!」(東京都地域公益活動推進協議会主催)が19年2月14日、千代田区・サピアホールで開催され、当事業団も中央区社会福祉法人連絡会の一員として参加しました。ボッチャ体験会と小中学生が春休みに福祉施設で1泊2日の体験合宿をする「福祉体験合宿」について発表しました。

## 第37回肢体不自由児・者の美術展／デジタル写真展（東京、福岡ほか）

日本肢体不自由児協会など主催 厚生労働省、文部科学省、事業団など後援

肢体不自由児・者の生きがいづくりと、障害のある人に対する理解を深めることを目的に「第37回肢体不自由児・者の美術展／同デジタル写真展」が12月6日から9日まで東京芸術劇場（豊島区）の5階ギャラリーで開催されました。同展には全国の肢体不自由児・者から美術展へ645点（絵画、コンピュータアート、書）の中から特賞、優秀賞、佳作賞、努力賞の計122点、デジタル写真展は800点の中から特賞、金賞、銀賞、銅賞の計101点が選ばれました。当事業団からは特賞に朝日新聞厚生文化事業団賞を贈りました。会場には入賞作品が展示され、初日には表彰式も行われました。

同展は福岡市役所とアクロス福岡でも19年3月3日から10日まで開催しました。主な特賞は次のとおりです（敬称略）。

【厚生労働大臣賞】絵画 吉田直人（新潟県障害者リハビリテーションセンター）▽書 福島功太郎（東京都・社会福祉法人おおぞらつばさ）【文部科学大臣奨励賞】絵画 小谷中未来（埼玉県立宮代特別支援学校中学部3年）▽コンピュータアート 須永愛桜（栃木県立足利特別支援学校高等部1年）【東京都知事賞】書 入澤律（筑波大学附属桐が丘特別支援学校小学部1年）、篠埜壮太郎（東京都・あゆみの会）【朝日新聞厚生文化事業団賞】絵画 迫田野江（鹿児島県立鹿児島養護学校高等部3年）▽書 二本柳旺（青森県立八戸第一養護学校高等部1年）

## 第39回障害者歩くスキーの集い（北海道）

事業団、朝日新聞北海道支社主催、三菱電機協賛

障害のある人もない人も一緒にスキーを楽しむ「第39回障害者歩くスキーの集い」を19年1月13日に札幌市南区の滝野すずらん丘陵公園で行いました。

開会式で北海道歩くスキー協会・丸山光徳理事長が「平成最後で記念になると思う。歩きながら周りの景色を楽しんでください」とあいさつしました。



参加者は1、3、5、7キロの4コースに分かれ、164人が出場しました。市内から参加した男性（46）は7キロコースに挑戦。重症筋無力症だが市販のストックを使いやすく改造し十年近く参加している。「スキーをはくと軽い力で走る気分を味わうことができる。天気が良くて、凍った滝もきれいに見えました」と話しました。ダウン症の男児（15）は余市町から両親と参加。笑顔でスタートし、1キロを歩き切りました。また市内の知的障害者施設から参加した男性（57）は仲間と一緒に1キロを歩き「満足している。まだ行けたと思う」、伴走した職員は「しんどかったけど、季節を感じることができて、とてもいい運動になりました」と話しました。



## 第39回朝日九州車いすバスケットボール選手権大会(沖縄)

九州車いすバスケットボール連盟、事業団主催

第39回朝日九州車いすバスケットボール選手権大会が、12月1日、2日の両日、沖縄県の宜野座村総合体育館で開催され、九州・沖縄から参加した5チームがトーナメント方式で熱戦を繰り広げました。

決勝に進んだのは、「福岡breeze」(福岡)と「太陽の家スパーズ」(大分)。福岡は昨年度に悲願の初優勝を果たした躍進中のチームで、一方の太陽の家スパーズは、過去38回の大会で17回の優勝歴を誇る強豪チームです。結果は、福岡breezeが72対24で勝利。3位には地元・沖縄の「SEASIRS(シーサーズ)」が入りました。

上位3チームは、「日本選手権大会西日本予選」(19年4月、山口)への出場権を獲得し、西日本予選で3位までに入れば、「天皇杯第47回日本選手権大会」(同5月、東京)へ出場できます。今大会から1チーム2人まで健常者の参加が認められています。



## 第30回九州車いすツインバスケットボール選手権大会(熊本)

九州車いすバスケットボール連盟、九州車いすツインバスケットボール委員会、事業団主催

第30回九州車いすツインバスケットボール選手権大会は9月8、9日の両日、熊本市の県立総合体育館で開催され、福岡、佐賀、熊本、大分、長崎、沖縄の6県から9チームが参加し、トーナメントでの熱戦を展開しました。

車いすツインバスケットボールは、上半身に障害を持つ人も参加できるように日本で考案された競技で、正規のゴールに加えてフリースローサークルの中にもう一つ高さ1.2メートルの低いゴールを設置します。選手は障害の程度によって狙えるゴールが決められており、選手一人ひとりが障害の程度に応じて存在感を発揮できます。

決勝では、沖縄フェニックスが54対38で博多パトラッシュ(福岡)に競り勝ち、5回目の優勝を決めました。





# 高齢者の福祉



## C O N T E N T S

高齢者在宅ケアモデル事業 フォーラム「認知症カフェからの出発2019」(東京) …	26
高齢者在宅ケアモデル事業 認知症カフェ運営講座(宮城) ……………	28
認知症マフワークショップ(大阪) ……………	29
認知症フレンドリーキッズ授業(大阪) ……………	29
介護離職防止キャンペーンイベント(東京) ～その介護離職、おまちなさい～……………	30
高齢者のための週末特別教室(東京・大阪) ……………	30
高齢期の豊かな暮らしセミナー(大阪) ……………	31
朝日高齢者福祉セミナー2018(名古屋) ……………	31
高齢者施設訪問プログラム「ゆうゆうビジット」(全国15カ所)	32

## 高齢者在宅ケアモデル事業 フォーラム「認知症カフェからの出発2019」(東京)

フォーラム「認知症カフェからの出発2019」実行委員会、事業団主催

認知症のあるご本人やご家族のつどいの場という機能だけでなく、認知症のある人が地域で豊かに暮らすためのコミュニティづくりなど、様々な意義・目的が考えられる「認知症カフェ」の活動を通して、認知症がある人も暮らしやすい地域づくりを考えるフォーラムを、19年3月17日、東京・浜離宮朝日ホール小ホールで開催しました。約150人が集まり、各地で様々な取り組みをしている参加者のアイデアを持ち寄り意見交換をしながら、認知症カフェの「継続」「発展」「連携」を切り口に、今後の可能性やこれから地域の中で果たしていくべき役割を考えました。

18年度の開催においては、「当事者の視点」を柱に据えました。認知症のあるご本人の声を大事に今後の活動を考えていくために、オープニングでは認知症のあるお二人の方にご登壇いただきました。一人目は、50代で若年性認知症と診断されたピアノ教師の三川泰子さん。夫の一夫さんと、お二人が参加している「若年認知症交流会小さな旅人たちの会」理事長の高橋恵美子さんとともに登壇いただきました。三川さんは長年ピアノを教え、プロのピアニストとしても活動をしていましたが、病気の進行に伴い以前のように弾くことは難しくなりました。しかし大好きなピアノを「もう一度弾きたい」と、少しずつ練習を再開するようになったといいます。趣味でチェロを続けていた一夫さんと二人で練習をするようになり、様々なイベントでの共演も実現しました。このことが、一時は「生きていてもしょうがない」と思っていた泰子さんの自信につながったことや、日々の生活の中で実施している工夫について一夫さんが語りました。

続いて、東京都町田市在住の生川幹雄さんがNPO法人「ひまわりの会・まちの保健室」室長平田容子さんと一緒に登壇しました。生川さんは同会が開催している、認知症のある人の「本人会議」に参加し、認知症の人と一緒に住みやすい地域をつくる町田市のまちづくりにかかわっています。また、講座や講演で自らの体験を語る活動にも力を入れています。当日は認知症カフェの存在意義や、地域社会に望むことを平田さんとの対談形式でうかがいました。生川さんは「当事者が聞きたいこと、話したいことはいっぱいある。認知症カフェは率直に相談できる場」と話し、平田さんは「町田市のDカフェ(認知症カフェ)のようなオープンな場所で認知症のことを話していても何の苦情もない。それがカフェを続けていることの成果だと思う」とまとめました。

その後は参加者同士の意見交換から新しいアイデアを得ることを目的に、ひとづくり工房あすこ代表・ワークショップデザイナーの浦山絵里さんの進行のもと、グループディスカッション中心のプログラムを展開しました。

「認知症カフェの継続と発展、地域での連携を考える」ワークショップでは、武地一・藤田医科大学教授と服部万里子・服部メディカル研究所所長による話題提供を受けて、認知症カフェの果たす役割やこれからの可能性をイメージした



後、グループごとに、参加者が関心のあるテーマについて意見交換をしていきました。テーマは「①資金②人③場所④情報共有⑤プログラム⑥認知症のある人やその家族の参加⑦行政や他の地域資源との連携」。それぞれで出た意見を、「認知症カフェの活動を良い形で継続するための方略」として武地一さんがまとめ、これからの活動の土台となるアイデアがいくつも生まれました。

最後は、認知症カフェの活動が地域に定着していくことで、それぞれの地域社会にどのような影響を与えられるかなど、認知症カフェの先にあるものに目を向けたワークショップ。より良い地域社会をつくるために自分たちは何から始めるか、グループごとに宣言をつくり、次のステージへの出発となりました。

会場ロビーでは、事前に参加者の皆さんを通してお寄せいただいた「認知症のある人、そのご家族からのメッセージ」と、各カフェで行っている工夫を一言でまとめていただいた「私の認知症カフェネタ自慢」のカードをひとつのポスターに貼り付け、桜の木をつくり、展示しました。全国各地の皆さんの思いが詰まった桜の木が完成しました。

また特別プログラムとして「お試し認知症カフェ」を、会場隣の築地浜離宮ビルの「フルーツパーラー コリント」で昨年引き続き開催しました。



東京都中野区の若年認知症交流会「小さな旅人たちの会」が開催している若年認知症カフェ「ちーたー広場」の出張版として、認知症のある方やそのご家族、ケアの専門家など同会の皆さんが運営してくださいました。フォーラムのオープニングでもご登壇いただいた三川泰子さん、一夫さんご夫妻からもメッセージをいただき、お二人の温かさを感じた時間になりました。

フォーラムの前日、16日には当事業団の助成金贈呈団体を対象にした研修会を開催。社会福祉法人大阪ボランティア協会常務理事の早瀬昇さんを講師に招き、ミニ講座『『参加の力』を活かして活動の輪を広げよう』と、認知症カフェを継続、発展させていくうえで「大切にしたいこと」を掘り下げるワークショップを行いました。21団体の36人が参加し、活発に意見交換を行い、グループごとに目指すべき方向とそれに向かって大切にしていきたいことをまとめました。



例えば「参加者が誰でも主役になれるようにする～参加者の声を聴き運営に活かす」「地域の既存団体との連携を大切にする～広く地域の協力を得る」「認知症への抵抗感を和らげ、理解を広める～小中学生と共に学ぶ、まちのみんながサポーター」などの意見が出されました。

このフォーラムは、当事業団が16・17年度に実施した「ともにつくる認知症カフェ開設応援助成」の贈呈団体の皆さんと一緒にこうと、実行委員会を立ち上げ開催しました。参加して下さった江部乙まちづくりコミュニティ行動隊女子部(北海道)、鳩山ぽっぽ会(埼玉県)、うたせ認知症を考える会(千葉県)、青山1000人会(兵庫県)、甲佐オレンジカフェ連絡会(熊本県)の5団体とともに、企画から当日の運営までを行いました。

## 高齢者在宅ケアモデル事業 認知症カフェ運営講座(宮城県)

宮城県認知症グループホーム協議会、ひまわり会、当事業団主催  
石巻市、塩竈市、多賀城市、東松島市、松島町、七ヶ浜町、利府町後援

11月18日、宮城県多賀城市の市文化センター展示室で「認知症カフェ運営講座」を開きました。カフェの活動を長続きさせるのに必要なことや、地域の中での存在意義を周辺市町の介護・医療・行政関係者ら約60人が参加して考えました。

最初に武地一・藤田医科大学教授が「認知症カフェを地域資源に～運営のポイントとこれから大切にしたいこと～」の題で講演しました。武地さんは、認知症は予防の難しい病気で「地域で支援し、偏見をなくすことが大事」と強調。来てもらいたい住民に足を運んでもらうにはどうすればいいか、プログラムの作り方、スタッフ養成など運営で気をつけたいポイントを具体的に説明しました。

次に松島町でカフェを開いている2団体による発表がありました。

同町の観光名所、五大堂と瑞巖寺の間で月2回カフェを開いている「ひまわり会」からは会にかかわる運営者、参加者、医師がリレートークで開設からの1年を振り返りました。

代表の青木幹子さんはカフェで様々なプログラムを楽しむ様子を写真で紹介し、住民主体での運営ができたこと、来てくれる人の間で認知症への理解が進み「普通の話題」として抵抗なく出てくるようになったと報告しました。参加者の87歳の男性は、認知症カフェの名称に一瞬ドキッとしたが「あまり深刻に考えずに参加」しており、新しい体験が「年寄りにはいい刺激」と話しました。医師の櫻井広子さんは、地域と専門職の「のりしろ」をめざし、顔の見える関係が作れてきたのではといい、「認知症が怖い、なりたくないという方が、自分もなってもいいかと思えるよう」専門職として寄り添いながら活動を続けていきたいと述べました。

同町高木町の「Sakuraカフェ」は3年目。母体となっている社会福祉法人「功寿会」の内海裕さんは、カフェを開いて変わったこととして周囲で認知症への関心が高まったことをあげ、「認知症を他人事とせず自分事として考える地域社会になったらいいと思う」と、理解と啓発を続けていきたいと語りました。

最後はワークショップデザイナーの浦山絵里さんの司会による「認知症カフェのこれから」。5人ひと組のグループをつくり、話を聞いた感想から始め、それぞれが思い描いている地域の未来、その未来に向かって自分たちが何をできるのかを対話しながら考えました。

参加者からは「運営を始める前に考えなければいけないことが分かった」「自分では気づかない意見や発想に触れることができ、刺激になりました」などの感想が寄せられました。



## 認知症マフワークショップ(大阪)

事業団主催

イギリスの病院や高齢者施設では、認知症の人が「Twiddle muff (トゥイドゥル・マフ)」と呼ばれる円筒状のニット製品を利用しているのをよく見かけます。ボタンやリボンなど、様々なアクセサリがマフの内外に付けられていて、手を通したときに、このボタンやリボンに触ることで安心感が得られるそうです。このマフの普及を目的としたワークショップを2018年12月に大阪本社アサコムホールで開催、150人の参加者がありました。

講師は広島県府中町で認知症カフェを中心に活動する認知症サポートグループ「だんだん」のメンバーや連携する府中町社会福祉協議会の地域職員で、2017年からマフ作りに取り組んでいます。マフの基礎的な話から、製作方法、また高齢者施設への贈呈まで、彼らのこれまでの活動を話しました。そしてワークショップの後半は4つのグループに分かれて、実際にマフの作り方を学びました。



参加者からは認知症カフェの催しにしたり、地域の人たちに製作を協力してもらったり、マフを認知症の人を支える地域づくりに役立てることができそうだという感想が聞かれました。

## 認知症フレンドリーキッズ授業(大阪)

事業団主催

未来を担う子どもたちが認知症のことを正しく理解して、差別や偏見を持たず地域の小さな協力者に育ってくれることを目的として、2019年度から小学校高学年(4~6年生)を対象にした、認知症を正しく理解するための授業を実施します。土曜授業や総合学習の時間の利用を想定しています。

これに先がけて19年1月に大阪市住吉区の市立大空小でデモ授業を実施しました。大阪市北区社会福祉協議会のコミュニティー・ソーシャル・ワーカーに講師として協力していただきました。

最初に認知症は脳の病気であること、症状や当事者が感じている不便や、困難になることなどを説明。それからバーチャルリアリティ機器を使い、認知症の人が見る世界を体験しました。階段を前にした時の恐怖感など、文字や言葉だけではなかなか理解できない世界を、映像でわかりやすく再現したものです。児童たちは驚きながら映像を見ていました。最後にグループに分かれ、認知症の人の気持ちを考え紙に書き出して発表しました。





## 介護離職防止キャンペーンイベント（東京） ～その介護離職、おまちなさい～

介護離職のない社会をめざす会主催  
東京都、東京都社会福祉協議会後援 事業団特別協賛

仕事と介護の両立に不安や悩みをもつ人たちに向けた「介護離職防止キャンペーンイベント～その介護離職、おまちなさい～」を19年2月6日に東京国際フォーラムのロビーギャラリーで開催しました。近隣で働くビジネスパーソンを含め、より多くの人に情報を届けるため、駅の近くで人が行き交う場所で行いました。



ステージプログラム中の講演「息子介護を考える」（当事業団主催）では、東京都健康長寿医療センター研究所の平山亮さんが登壇。平山さんは、男女間のケアに関する認識差などに触れながら「男性の“あるある”を知ることも、ひとつの準備になる」と説明。誰にとっても身近な介護について「人を巻き込んだり、任せたりすることもケアの責任」と強調しました。

一日を通して、働く人や職場それぞれに向けたパネルディスカッションのほか、会場内には、仕事と介護についてのアンケート結果、相談ブースや、企業の取り組み紹介などが設けられ、さまざまな角度からメッセージが発せられました。

## 高齢者のための週末特別教室（東京・大阪）

事業団主催

高齢者にとって関心が高い2つのテーマ、「運転」と「体力維持」を同時に学ぶことができる教室を、大阪・アサコムホール（7月21日）と東京・有楽町朝日スクエア（10月7日）で開催しました。

「1時間目」は交通評論家の中村拓司さんが、高齢ドライバーが関係する事故について解説。安全運転のためには何に気をつければいいのかや、運転をあきらめた方がいい兆候などを述べました。また軽度認知障害（MCI）や認知症の早期発見のきっかけとなる、車の運転時に現れやすい状態をリストアップした「運転時認知障害早期発見チェックリスト30」も実施しました。



「2時間目」は「貯筋運動」の体験講座。講師は健康・体力づくり事業財団が認定する「貯筋運動指導士」の資格を持つ花田明子さん。筋力の衰えはバランスを崩したときに踏ん張れないなど、転倒から骨折につながり、寝たきり生活を余儀なくされる場合もあります。いざというときに役立つ筋肉を維持するための「貯筋運動」を、参加者が実際に体験しました。

## 高齢期の豊かな暮らしセミナー（大阪）

事業団主催

市民の目線に立ち高齢期の問題をとらえ、情報を提供する講演会です。18年度は、「認知症と向き合う」（5月26日、朝日新聞社アサコムホール）と、「あなたは大丈夫?!フレイル予防」（9月16日、大阪市西区・大阪YMCA会館ホール）の2つの講演会を開催しました。

「認知症と向き合う」では、認知症の予備軍と言われる「軽度認知障害」（MCI）や認知症の初期症状などの理解と、ケアをする家族の気持ちなどについて松本診療所（ものわすれクリニック）院長の精神科医松本一生さんが話しました。参加者は160人。

「あなたは大丈夫?!フレイル予防」では、高齢になることで筋力や精神面が衰える「フレイル」の予防を健康な時期から取り組むことで、健康寿命を延ばすためにはどうすればよいのかを考えました。参加者は150人。

国の施策に詳しい白澤政和・桜美林大学大学院老年学研究科教授が、「フレイル予防と地域包括ケア」の題で基調講演。その後、白澤さんをコーディネーターに、山口幸さん（光朔会オリンピック常務理事・神戸国際大学経済学部准教授）、三宅基子さん（京都学園大学健康医療学部准教授）、重信直人さん（大阪YMCA職員・日本介護予防指導者協会事務局長）によるシンポジウムを開きました。



## 朝日高齢者福祉セミナー2018（名古屋） 老後の住まいと費用負担

事業団、愛知高齢者福祉研究会、朝日新聞社主催

高齢者を支える福祉や医療を考える「朝日高齢者福祉セミナー2018」を、7月8日、名古屋市中区の朝日ホールで開催し、約150人が参加しました。

講演では、愛知高齢者福祉研究会会長の内山治夫さんが、「老後の住まいと費用負担」と題して高齢期に必要なお金の話を具体的に解説しながら、老後を豊かに過ごすために、社会参加やボランティア活動、趣味を持つことなども効果的だと話しました。

シンポジウムでは、介護の現場で活躍する方々が登壇し、参加者からの質問に事例を紹介しながら答えました。



## 高齢者施設訪問プログラム「ゆうゆうビジット」(全国15カ所)

事業団主催

日ごろ外出の機会が少ない、高齢者向け施設の入居者や利用者らを対象に、音楽家や相撲の力士らが訪問して楽しいひと時を届ける「ゆうゆうビジット」は、2018年度で9年目を迎えました。18年度は、全国の特別養護老人ホームや介護老人保健施設など15カ所を訪問しました。

10月28日、ゆうゆうビジットとは別に富田林市甘南備の知的障害者入所施設「こんごう福祉センター」で、改築工事完了を記念してクラシックコンサートを開催しました。ゆうゆうビジットに協力していただいている「ベルリントリオ」に1日2回の公演をしていただきました。高齢者に限らず、若い世代の人たちも参加された訪問プログラムになり、今後のゆうゆうビジットの活動に広がりを感じさせるものになりました。

### ●ベルリントリオ

ベルリンに音楽留学をしたピアニストの宮本聖子さん、バイオリニストの宮田英恵さん、チェリストの石田聖子さんの3人で構成する「ベルリントリオ」が5月7日、香川県高松市の特別養護老人ホーム「なでしこ香川」でミニコンサートを開きました=写真。クラシックから童謡まで12曲を披露し、リクエスト曲の「上を向いて歩こう」では、利用者らが手拍子しながら口ずさみ、会場が一体となりました。



7月8日に予定していた愛媛県新居浜市の介護老人保健施設「若水ケアセンター」でのゆうゆうビジットは西日本豪雨のため中止となりました。19年1月21日は横浜市の特別養護老人ホーム「ニューバード獅子ヶ谷」を訪問しました。

### ●高砂部屋

大相撲夏場所を終えた高砂部屋の力士らが5月28日、東京都北区のグループホーム「ほくとひまわりの家」を訪問しました。共に三段目の朝乃丈(あさのじょう)と朝虎牙(あさこが)は、土俵の代わりに用意された畳の上で相撲の技を次々に披露しました。高砂部屋マネージャーの松田哲博(元一ノ矢関)さんによる解説や相撲甚句を披露しました。その後、施設職員が力士に挑戦。格闘の末、投げ飛ばされた職員の姿に会場が大いに盛り上がりました。高砂部屋特製のちゃんこも振る舞われました。



7月23日は名古屋市の特別養護老人ホーム「なごやかハウス三条」=写真、11月26日は福岡市の特別養護老人ホーム「いと楽し」、2019年3月25日は大阪市の特別養護老人ホーム「葦」を訪問しました。

### ●福田進一

国際的に活躍するギタリストの福田進一さんが6月6日、大阪市の特養老人ホーム「ザイオン新大阪」でミニコンサートを開きました。コンサートでは、クラシックからはバッハの「プレリュード」、映画音楽からは「禁じられた遊び」「マイ・ウェイ」、日本の歌など10曲を披露しました。日本の歌「宵待草」、「出船」などでは、あちらこちらから口ずさむ声が自然に広がり会場が一つになりました。約1時間の演奏を施設の利用者や職員ら約100人が楽しみました。



6月11日は広島市の介護老人保健施設「希望の園」=写真、11月6日は福岡市の特別養護老人ホーム「あおい」、2019年3月5日は東京都渋谷区の特別養護老人ホーム「渋谷区けやきの苑・西原」を訪問しました。

### ●川島成道

国際的なバイオリニストの川島成道さんが9月27日、福岡市の「リハモール福岡デイサービスセンター」で、コンサートを開きました。施設の利用者ら約70人が優雅な音色に聞きほれました。ピアニストの山口研生さんとともに、エルガーの「愛の挨拶(あいさつ)」や、ブラームスの「ハンガリー舞曲第1番」など全10曲を披露しました。リズムにあわせて頭を軽く揺らしたり、演奏後には「ブラボー！」と叫ぶ人もいました。



6月18日に予定していた神戸市の介護老人保健施設「らぼーと」でのゆうゆうビジットは大阪北部地震のため中止となりました。11月22日は川島さんとピアニストの恵村友美子さんが、高知県香南市の特別養護老人ホーム「三宝荘」=写真、19年2月25日は川島さんとピアニストの山口研生さんが、名古屋市の特養老人ホーム「グレイスフル上前津」を訪問しました。

### ●日色ともゑ・マリオネット

俳優の日色ともゑさんと音楽ユニット「マリオネット」が8月7日、札幌市厚別区の特養老人ホーム「サポータィ・もみじ台」を訪問し、朗読や演奏を披露しました=写真。入所者ら約40人が参加し、楽しいひとときを過ごしました。



ポルトガルギターの湯浅隆さんとマンドリンの吉田剛士さんによる「マリオネット」は、オリジナル曲「南蛮渡来」など4曲を演奏。日色さんは童話「白いぼうし」(あまんきみこ作)を、声色を使い分けて表情豊かに朗読しました。最後は全員で童謡「月の沙漠」「ふるさと」などを合唱しました。目頭を押さえながら歌う人の姿も見られました。

12月10日は横浜市の通所介護施設「横浜市さつきが丘地域ケアプラザ」を訪問しました。

2010年2月に始まった「ゆうゆうビジット」は、通算で159回実施。

2018年度の全訪問先は次の通りです。

	訪問者(敬称略)	訪問日	地域	訪問先
1	ベルリントリオ	5月7日	香川県 高松市	特別養護老人ホーム「なでしこ香川」
2	高砂部屋	5月28日	東京都 北区	グループホーム「ほくとひまわりの家」
3	福田進一	6月6日	大阪市	特別養護老人ホーム「ザイオン新大阪」
4	福田進一	6月11日	広島市	介護老人保健施設「希望の園」
※	川島成道	6月18日	神戸市	介護老人保健施設「らぽーと」 ※大阪北部地震のため中止
※	ベルリントリオ	7月8日	愛媛県 新居浜市	介護老人保健施設「若水ケアセンター」 ※西日本豪雨のため中止
5	高砂部屋	7月23日	名古屋市	特別養護老人ホーム 「なごやかハウス三条」
6	日色ともゑ・マリネット	8月7日	札幌市	特別養護老人ホーム 「サポータィ・もみじ台」
7	川島成道	9月27日	福岡市	「リハモール福岡デイサービスセンター」
8	福田進一	11月6日	福岡市	特別養護老人ホーム「あおい」
9	川島成道	11月22日	高知県 香南市	特別養護老人ホーム「三宝荘」
10	高砂部屋	11月26日	福岡市	特別養護老人ホーム「いと楽し」
11	日色ともゑ・マリネット	12月10日	横浜市	通所介護施設 「横浜市さつきが丘地域ケアプラザ」
12	ベルリントリオ	1月21日	横浜市	特別養護老人ホーム 「ニューバード獅子ヶ谷」
13	川島成道	2月25日	名古屋市	特別養護老人ホーム 「グレイスフル上前津」
14	福田進一	3月5日	東京都 渋谷区	特別養護老人ホーム 「渋谷区げやきの苑・西原」
15	高砂部屋	3月25日	大阪市	特別養護老人ホーム「菫」



# 福祉啓発・公衆衛生



## CONTENTS

18年度自殺防止事業 公開講座 「自殺!? ちょっと待って!」(福岡) .....	36
「西部朝日福祉助成金」贈呈式(福岡) .....	36
アサヒベビー相談室(大阪、高槻) .....	37
第70回保健文化賞(東京) .....	37
遺贈・遺言セミナー(東京、大阪) .....	38

## 18年度自殺防止事業 公開講座 「自殺！？ ちょっと待って！」（福岡）

福岡いのちの電話、事業団主催  
朝日新聞社、九州朝日放送、福岡県、福岡市後援

11月11日、福岡市で社会福祉法人福岡いのちの電話と共催で自殺防止公開講座「自殺！？ ちょっと待って！～思いとどまってもらうために」を開催しました。講師に九州大学総長で医師でもある久保千春（くぼ・ちはる）さんを迎え、「こころと身体のかげを聴く」と題した講演を行い、聴講者200名余りと共に自殺を防ぐ方策の糸口を探りました。

日本で最初に「心療内科」の診療を開始した九州大学で、久保先生はその中心的な役割を担ってこられました。先生は、自分の医師としての経験から、「面接して話を聞くことにより、相手の感情の発散を促すことが心身のリラックスにもつながること」「相手に、より多面的な見方、柔軟な思考を持ってもらうことの大切さ」等を訴えました。

17年の自殺者数は21,321人で、自殺者の総数は8年連続での減少となりました。が、一方で15～34歳の若い世代で死因の第1位が自殺となっているのは、主要7カ国では日本のみという現状もあります。一人でも多くの貴重な命を救えるようにこの講座が役立てば、と願っています。



## 「西部朝日福祉助成金」贈呈式（福岡） 県内の「いのちの電話」など3団体に

18年度「西部朝日福祉助成金」の贈呈式を19年3月14日、朝日新聞西部本社で行い、長年、福祉活動に取り組む福岡県内3団体の代表者に助成金の目録を贈呈しました。3団体は、北九州いのちの電話（北九州市小倉北区）、福岡いのちの電話（福岡市中央区）、県交通遺児を支える会（同）の各団体で、助成金は15万円ずつです。



いのちの電話の両団体は、ボランティア相談員が年中無休の24時間体制で電話相談に応じ、さまざまな事情から自殺を思うほど精神的危機に直面した相談者が失いかけている生きる力を取り戻すのをサポートしています。福岡いのちの電話ではインターネット相談にも応じており、代表からは「若者からの相談が多く、さらに相談員を養成したい」との報告がありました。県交通遺児を支える会の代表からは「今年で発足50周年。これも皆様のご支援があってこそ」との話がありました。助成金には、事業団が年末年始に行った「朝日ふれあい募金」が充てられています。

## アサヒベビー相談室(大阪、高槻)

事業団主催

乳幼児の育児に悩む親のための無料相談室を設け、医師や栄養士などの専門家が、病気や発育、栄養などに関する相談を行っています。実施場所は、大阪府内の二つの百貨店です。

大阪・天王寺のあべのハルカス近鉄本店では、1957年に全国で初めて百貨店内に無料の相談室を開設。2014年春にリニューアルオープンし、18年度も大勢の相談者にご利用いただきました。大阪市立大学医学部附属病院小児科の医師のほか、ヨガインストラクター、小児歯科医師などさまざまな専門家が揃っており、春と秋のイベントでは、親子で参加できる保育の専門家によるパネルシアターや手遊び、父親などを対象に管理栄養士による「離乳食講習会」も行われました。



大阪府高槻市の西武高槻店(1974年開設)では、大阪医科大学の小児科医による相談のほか、社会医療法人愛仁会高槻病院の助産師による勉強会をたびたび開いており、妊娠期から育児中の方まで幅広く地元の皆さまにご利用いただきました。

今年度の各相談室の利用者数は、次のとおりです。

あべのハルカス近鉄本店 772人(1回平均12.6人)、ミニ講習会242人

西武高槻店 329人(1回平均7.7人)

## 第70回保健文化賞(東京)

第一生命保険主催 厚生労働省、事業団など後援

保健衛生分野の向上に貢献した団体と個人に贈られる「第70回保健文化賞」の贈呈式が10月10日、東京都港区の明治記念館で行われました。10団体と個人5人の計15件に、賞状と賞金(団体各200万円、個人各100万円)と朝日新聞厚生文化事業団賞などが贈られました。受賞者は翌日皇居で天皇・皇后両陛下に受賞のあいさつを行いました。受賞団体・個人は以下の通りです。



【団体】北里第一三共ワクチン(埼玉)▽アトピッ子地球の子ネットワーク(東京)▽途上国の精神保健を支えるネットワークSUMH(東京)▽ファミリーハウス(東京)▽三重いのちの電話協会▽そらいろプロジェクト京都▽インターナショナル(兵庫)▽西部在宅ケア研究会(鳥取)▽うすき石仏ねっと運営協議会(大分)▽鹿児島県助産師会

【個人】名古屋大学大学院教授・加藤昌志(愛知)▽医師・星合昊(ほしあい・ひろし)(大阪)▽カウンセラー・新庄幸子(兵庫)▽山口大学大学院教授・山根俊恵(山口)▽産業医科大学教授・松田晋哉(福岡)

## 遺贈・遺言セミナー 「良い遺言を書くために知っておくこと」(東京・大阪)

事業団主催

### ●【前期】

人生の締めくくり「老いじたく」に役立つ遺言書の書き方や、遺言に残した内容を実現してもらうために必要な準備などについて学ぶセミナー「良い遺言を書くために知っておくこと」を、朝日新聞大阪本社(5月12日、166人参加)と、東京本社(6月28日、97人参加)で開きました。両会場ともに、講師は弁護士の中山二基子(ふきこ)さんが務めました。



中山二基子さん

中山さんは、年をとるにつれて心配になることとして、①相続、②自分自身の葬儀やこれまでの入院費の支払いといった「死後の事務処理」、③認知症が出た時の対処という3点を挙げ、この3つの軸に沿って、実際に中山さんが手伝った「老いじたく」例を紹介したほか、何の準備もせず夫が亡くなったために、相続で大変な苦勞をした女性の例も紹介。中山さんは「遺言書があるとないのでは、相続の大変さは天と地ほども異なります」と遺言の大切さを強調しました。セミナー後半には、参加者からの質疑応答を行いました。

### ●【後期】

後期は朝日新聞大阪本社(10月20日、86人参加)と、東京本社(10月24日、108人参加)で開催。大阪会場の講師を務めたのは弁護士の布施憲子さん、東京会場講師は弁護士の中山二基子さんでした。

セミナーでは、約40年ぶりとなる相続法の改正内容について説明。特に大きな変更点として、自筆証書遺言の財産目録部分をパソコンで作成できるようになるほか、登記簿謄本・通帳の写しの添付が可能になる



布施憲子さん

こと(ただし、全ページに署名、捺印が必要)や、保管の難しかった自筆証書遺言を、法務局で保管できるようになることなどを挙げました。

セミナー後半の質問タイムでは「認知症になった兄弟を、同居している兄弟が面倒を見る場合、法定後見人として届け出ないと銀行預金を下ろせないのか」といった現実的な質問や「自筆証書遺言を法務局で預かってもらう場合、保管申請費、維持費は必要か」といった改正相続法に関する質問が寄せられ、参加者は、どの質問にも興味深そうに聴き入っていました。

# チャリティー事業



## C O N T E N T S

朝日チャリティー美術展(大阪・名古屋・東京) .....	40
第60回各派合同三曲演奏会(大阪) .....	41
第68回メサイア演奏会(東京) .....	42
第66回洋舞合同祭(大阪) .....	42
親子で楽しむクリスマスコンサート(東京) .....	43
第65回各流合同茶会(大阪) .....	43
第56回チャリティー大茶会(北九州) .....	44
杵勝会 第36回歳末チャリティー長唄演奏会(東京) .....	44
上野学園 第59回慈善演奏会(東京) .....	44
浦和学院高等学校吹奏楽部 第14回チャリティーコンサート(埼玉) .....	44



## 朝日チャリティー美術展(大阪、名古屋、東京)

事業団、朝日新聞社主催

全国の芸術家や著名人から寄贈された作品を販売し、収益を社会福祉事業に充てる「朝日チャリティー美術展」を大阪、名古屋、東京で開催しました。文化勲章受章者や人間国宝を含む画家、工芸・版画家、書家、宗教家、茶道家など各界の著名人ら約2700人にご協力をいただき、販売作品は日本画、洋画、工芸、版画、書、色紙など約3900点に上りました。

### ●大阪展

第92回となる大阪展は、12月27日から29日まで、大阪市中央区の高島屋大阪店で開催しました。約900人の作家から1300点余の作品を寄贈いただき、入札と即売で販売しました。

今年度は、「民芸」を志す作家約40名にも新たに協力いただき、特別コーナーを設けました。民芸の作品は、最近ではファッションや生活雑貨を販売する大手セレクトショップでも取り扱い、若いファンも増えているので、例年より多くのお客様にご来場いただくことができました。28・29日には、「民芸案内人」として各メディアで活躍中の明治大学理工学部准教授(哲学)の鞍田崇さんと、丹波焼の陶芸家柴田雅章さんを招いてギャラリートークも開催し、会場を盛り上げました。



### ●名古屋展

第65回名古屋展は、19年2月16日から18日まで、名古屋市中区栄の名古屋三越栄店で開催し、約800人から約1100点の作品をご寄贈いただきました。

名古屋展は、これまで中区の丸栄百貨店で開催してきましたが、丸栄百貨店の閉店に伴って会場を移し、初めて名古屋三越栄店での実施となりました。多くの方にご来場いただき、盛況のうちに終了しました。



### ●東京展

94回目となる東京展は、19年3月22日から25日まで東京都中央区の松屋銀座で開催し、約1000人の作家から作品約1500点をご寄贈いただき、入札と即売で販売しました。

また、合わせて「立体アート展」を開催し、立体アートやジオラマ作家40人の協力を得て作品84点を展示、入札販売しました。動物や人物をモチーフにしたユニークな造形作品や、昭和の懐かしい風景などを巧みに再現したジオラマが並び、若い世代も多く来場し興味深そうに眺め



ていました。他にも、書の作品を充実させるなど新しい作品の展示に努め、お客様に喜んでいただきました。

(チャリティー美術展に作品を出展いただいた方々のお名前は50～57ページに、立体アート展協力作家は56ページ、民芸コーナー協力作家は57ページにお名前を掲載しました)

## 第60回各派合同三曲演奏会

事業団主催



琴、三絃、尺八の世界で活躍する邦楽の各派社中が出演する演奏会が11月23日、大阪・中之島のフェスティバルホールで開催されました。

毎年出演していただいている社中に加え、18年度は60回を記念して大阪、兵庫、奈良の各高校で部活動を通じて邦楽に親しんでいる生徒たち62人が、西日本豪雨災害の復興支援のために特別に参加してくれました。観客は1100人で、次々と奏でられる優美で華やかな和の音色に浸りました。出演社中は次の通りです。

須山知行・中島警子社中「祝典箏協奏曲」▽箏曲栄琴会「千鳥の曲」▽遊琴会「鯨の城」▽菊田歌雄と琴菊会「山桜」▽当道友楽会「稚児桜」▽菊塚千秋と菊塚春秋会「花形見」▽大阪正絃社「ふるさとの風」▽新都山流近畿支部「寒砧」▽中扇喜琇鳳社中「新高砂」▽日本音楽大道派仁康中里会「富士」▽八千代会「松の寿」▽菊井松音と菊井箏楽社「いけはなの曲、春」▽菊扇弘子と琴栄会「銀色の翼にのって」▽箏曲和光会・琴古流玉川社「峠」▽都山流大阪府支部「竹吹く」▽関西「ことぶき会」酒井典彦社中「協奏曲・磔」▽中村双葉と葉風会「日本名曲集」

高校生＝市岡、大阪緑涼、河南、四天王寺、藤井寺、箕面(大阪府)、芦屋国際中等教育学校、淡路、伊丹、伊丹市立伊丹、神戸山手女子、雲雀丘学園、姫路西(兵庫県)、育英西、奈良育英(奈良県)「六段の調」

## 第68回メサイア演奏会(東京)

事業団、朝日新聞社主催  
東京藝術大学音楽学部協力 原田積善会特別協賛

チャリティーコンサート「藝大メサイア」を12月20日、東京・上野の東京文化会館大ホールで開きました。今回が68回目。

東京藝術大学教授で京都市交響楽団常任主席客演指揮者の高関健さんによる指揮で、藝大フィルハーモニア管弦楽団と同大音楽学部声楽科の学生ら約170人がヘンデルの大曲「メサイア」全曲を披露。若々しく清新な歌声に約2200人が聴き入りました。



ソリストは、吉澤淳さん(ソプラノ)、五十嵐彩香さん、横瀬まりのさん(アルト)、西山詩苑さん、寺島弘城さん(テノール)、小池優介さん(バス)のみなさんが務めました。

演奏会のポスターやプログラムのデザインは、1997年から美術学部教員の協力を得て制作しています。68回はデザイン科准教授の押元一敏さんにご協力いただきました。

## 第66回 洋舞合同祭(大阪)

事業団主催

12月25日から27日までの3日間、大阪市北区のフェスティバルホールで、モダンダンスとクラシックバレエの祭典「第66回洋舞合同祭」を開催しました。18団体22チーム(児童・混合の部15チーム、大人の部7チーム)総勢1,000人余りの出演者が日頃の成果を披露し、華やかなステージで観客を魅了しました。入場者数は4,400人。

次の団体が記念表彰を受け、舞台上で当事業団から表彰状と記念品を贈りました。

25日 65回記念表彰=江川バレエスクール

26日 55回記念表彰=高田由紀子バレエ学園、宝塚音楽学校附属宝塚コドモアテネ  
出演団体は次の通り(出演順)

【25日】児童・混合の部=法村友井バレエ学校、大阪バレエアカデミー、江川バレエスクール、波多野澄子バレエ研究所▽大人の部=法村友井ジュニアバレエ団、江川バレエスクール、波多野澄子バレエ研究所、大阪バレエアカデミー

【26日】児童・混合の部=宝塚音楽学校附属宝塚コドモアテネ、江口乙矢・須美子・満典舞踊研究所、野辺恵バレエスタジオ、下田春美バレエ教室、高田由紀子バレエ学園、▽大人の部=畑節子バレエフォーラム、スズキ・バレエアート・スタジオ

【27日】児童・混合の部=アートバレエ難波津、本田道子バレエスクール、MRB松田敏子

リラクゼーションバレエ、バレエスタジオミール、麻美バレエランド、(一社)現代舞踊協会関西支部▽大人の部＝地主黨バレエ団

## 親子で楽しむクリスマスコンサート(東京)

ソングブックカフェ、事業団主催

19回目となる「親子で楽しむクリスマスコンサート」を12月23日、有楽町朝日ホールで開催しました。

保育園や幼稚園などで絶大な人気の歌「にじ」などを作った、中川ひろたかさん率いるソングブックカフェメンバー全5組とピアニストの大友剛さんが出演。600人を超える家族連れらが集まり、クリスマスのひとときを楽しみました。



「世界中のこどもたちが」で幕を開け、会場は一気に盛り上がり、「うさぎ野原のクリスマス」など、クリスマスにまつわる歌を含め4曲を演奏。その後、絵本の朗読や、子どもたちも一緒に参加できるあそびうた、ダンスなどもあり、見どころ満載の内容でした。アンコールを含め、22種類の遊びや歌などが披露され、大盛況のうちに幕を閉じました。

出演は、中川ひろたかさん(シンガーソング絵本ライター)、鈴木翼さん(あそび歌作家)、ロケットくれよん(あそびうたデュオ)、福田翔さん(あそび歌作家)、g a a g a a S(キッズミュージックユニット)、大友剛(ミュージシャン&マジシャン&翻訳家)。

## 第65回各流合同茶会(大阪)

事業団主催

初心者でも各流派のお茶席が楽しめる恒例のチャリティー茶会を、3月9・10日に大阪美術倶楽部(大阪市中央区今橋)で開催しました。関西を中心に活動する各流派の茶道宗匠の協力を得て毎年開催しており、2日間で3000人以上が来場しました。先生に引率された制服姿の高校生や着物姿の方も多く、華やかな催しとなりました。



●懸釜担当宗匠は以下の通り(敬称略・順不同)

【9日】表千家流＝生形貴重、裏千家流＝松井宗順、武者小路千家流＝三宅真翁、藪内流＝随竹庵、宗徧流＝宗徧流大阪支部、一茶庵流＝佃一輝

【10日】表千家流＝表千家同門会大阪支部、裏千家流＝矢野宗菁、武者小路千家流＝芳野宗春、松尾流＝上田宗太、庸軒流＝柿本梅軒、松風清社猪名川支部

◆協賛宗匠

表千家流＝木村雅基、森埠加史、裏千家流＝杉本宗璋、村司宗弘、村上宗秀、武者小路千家

流＝木津露真、佐伯江南齋、蕨内流＝蕨内流大阪支部五葉会、古石州流＝本庄扇宗、遠州流茶道＝筍新会、花月菴流＝花月菴流大阪支部、習軒流＝坂田柏苑

## 第56回チャリティー大茶会(北九州)

茶道裏千家淡交会北九州支部主催 事業団など後援

茶道裏千家淡交会北九州支部によるチャリティー大茶会が、9月1、2日に北九州市小倉北区の小倉井筒屋で開かれました。社会福祉活動を応援するため毎年開かれ、今回が56回目。大茶会には、2日間で千人以上が来場しお茶やお菓子を楽しみました。後日、収益金の一部49万9060円が当事業団に寄付されました。

## 杵勝会 第36回歳末チャリティー長唄演奏会(東京)

一般財団法人杵勝会主催 事業団後援

円熟の重鎮から若手まで幅広い層の長唄三味線演奏家が集まる団体「杵勝会」が12月22日、第36回歳末チャリティー長唄演奏会を東京・有楽町朝日ホールで開催しました。収益金から10万円が事業団に寄付されました。

## 上野学園 第59回慈善演奏会 合唱の清雅

学校法人上野学園主催 事業団後援

学校法人上野学園(東京都台東区)による慈善演奏会「合唱の清雅」が12月22日、同所の「石橋メモリアルホール」で開かれました。演目はヘンデル作曲の「メサイア」(抜粋)。上野学園大学合唱団と小オーケストラによる息のあった演奏に、会場からは大きな拍手がわき起こりました。集まった20万5942円が、事業団に寄せられました。

## 浦和学院高等学校吹奏楽部 第14回チャリティーコンサート(埼玉)

浦和学院高等学校吹奏楽部主催 事業団後援

さいたま市緑区の浦和学院高校の吹奏楽部が19年1月14日、東日本大震災のチャリティーコンサートを開き、集まった12万535円を義援金としてさいたま総局を通して事業団に寄託しました。1、2年生計67人の吹奏楽部員がマーチングやアンサンブルの演奏を披露。会場には部員が手作りした被災地の資料を展示し、ステージ上からも募金を呼びかけました。



## 主な後援・協賛・協力事業一覧

(※区分は各事務所受付分)

日程	催事		主催者	会場
<b>本部事務所(東京)</b>				
4/15～17	第10回国際シニア合唱祭 「ゴールデンウェーブin横浜」	特別 後援	NPO法人ゴールデンウェーブ	横浜みなとみらい・大 ホール(横浜市)
4/16	全国盲老人福祉施設連絡協議会 創立50年記念式典	後援	全国盲老人福祉施設連絡協議会	ホテルグランドヒル 市ヶ谷(東京都新宿 区)
5/3・4	第23回ウォーキングフェスタ東京 ツデーマーチ	後援	同ツデーマーチ実行委員会	都立小金井公園など 多摩・武蔵野地域
5/18	第6回ニューヨーク合唱フェスティバル	後援	文化芸能国際交流機構 (JAEXA)	カーネギー大ホール (米国・ニューヨーク市)
5/19・20	天皇杯 第46回日本車いすバスケットボール 選手権大会	後援	日本車いすバスケットボール連 盟、日本障がい者スポーツ協会、 日本バスケットボール協会	武蔵野の森 総合スポーツプラザ (東京都調布市)
6/1・2	第34回 DPI日本会議全国集会in神奈川	後援 助成	DPI日本会議	横浜市技能文化会館
6/8	日本聾話学校チャリティー映画会	後援	日本聾話学校	よみうりホール (千代田区)
6/10	日本リウマチ友の会第58回全国大会	後援	日本リウマチ友の会	ANAクラウンプラザ ホテル米子 (鳥取県米子市)
6/30	視覚障害者囲碁大会	後援 協賛	日本点字図書館、日本福祉囲碁 協会	リフレッシュ氷川 (東京都渋谷区)
7/6・7	第67回関東聾学校陸上競技大会	後援	関東聾学校体育連盟	千葉県総合スポーツセ ンター陸上競技場 (千葉市)
7/17～22	第33回療育音楽指導者養成研修会	後援	東京ミュージック・ボランティ ア協会	小平ほか
7/26～28	第67回関東聾学校バレーボール大会	後援	関東聾学校体育連盟	所沢市民体育館 (埼玉県)
8/26～28	第69回全日本少年野球大会	後援	厚生労働省、全日本少年野球連盟、 全国児童自立支援施設協議会、 横浜市	横浜スタジアム (横浜市)ほか
9/15	光バンド結成30周年記念チャリティー コンサート 愛のサウンドフェスティ バル	後援	東京光の家	ひの煉瓦ホール (東京都日野市)
9/15・16	第25回日本自閉症協会全国大会 (広島大会)	後援	日本自閉症協会 広島自閉症協会	JMSアステールプラ ザ大ホール (広島市中区)ほか
9/16・17	リカバリー全国フォーラム2018	後援	地域精神保健福祉機構	帝京平成大学池袋 キャンパス・本館 (東京都豊島区)
9/21・22	きょうされん第41回全国大会in京都	後援	きょうされん	国立京都国際会館 (京都市)
9/25	第55回東京都老人クラブ芸能大会	後援	東京都老人クラブ連合会	文京シビック大ホール (東京都文京区)
9/27	第48回朗読録音奉仕者感謝の集い	後援	鉄道弘済会、日本盲人福祉委員会	弘済会館 (東京都千代田区)
9/28	日本点字図書館 秋のチャリティー映画会	後援	日本点字図書館	なかのZERO大ホール (東京都中野区)
10/1	第44回みんなの音楽会	後援	東京ミュージック・ボランティ ア協会	浴風会大ホール (東京都杉並区)

日程	催事		主催者	会場
10/3	第30回国民の健康会議	協賛	全国公私病院連盟	ヤクルトホール (東京都港区)
10/5～7、 12/8	第43回全日本ろう社会人軟式野球選手権大会	後援	全日本ろう社会人軟式野球連盟	万博記念公園野球場 (大阪府吹田市) ほか
10/7	第5回全国高校生手話パフォーマンス甲子園	後援	手話パフォーマンス甲子園実行委員会	米子コンベンションセンター (鳥取県米子市)
10/10～12	第45回国際福祉機器展 H.C.R.2018	協賛	全国社会福祉協議会、保健福祉広報協会	東京国際展示場 (東京都江東区)
10/20・21	第22回 全国聴覚言語障害者福祉研究交流集会	後援	東京都聴覚障害者福祉事業協会	東京学芸大学 (東京都小金井市)
11/1	第16回本間一夫記念 日本点字図書館チャリティコンサート	後援	日本点字図書館	東京文化会館小ホール (東京都台東区)
11/1～3	サイトワールド2018	後援	サイトワールド実行委員会	すみだ産業会館 (東京都墨田区)
11/2～4	第41回日本スリーデーマーチ	後援	東松山市、日本ウオーキング協会、朝日新聞社ほか	埼玉県・比企丘陵一帯
11/10	第15回本間一夫文化賞	後援	日本点字図書館	日本点字図書館オープンオフィス会場 (東京都新宿区)
11/17	第39回全国歯科保健大会	後援	厚生労働省、栃木県、日本歯科医師会ほか	宇都宮市文化会館
11/22	平成30年度全国社会福祉大会	協賛	厚生労働省、全国社会福祉協議会、中央共同募金会	メルパルクホール (東京都港区)
11/26・27	第11回全国精神保健福祉家族大会 (兵庫)	後援	全国精神保健福祉会連合会、兵庫県精神福祉家族会連合会	神戸ポートピアホテル、 神戸国際会議場 (神戸市)
12/3～5	第56回弘済学園 わたしたちが創る展	後援	鉄道弘済会、東京都社会福祉協議会	JR東京駅動輪の広場 (東京都千代田区)
12/9	第65回東京都聴覚障害者大会	後援	東京聴覚障害者総合支援機構	メルパルク東京 (東京都港区)
12/19～24	自立援助ホーム「憩いの家」資金バザー	後援	青少年と共に歩む会	日本橋高島屋 (東京都中央区)
2/4	第67回東京都社会福祉大会	協賛	東京都、東京都社会福祉協議会、東京都共同募金会	東京都庁 (東京都新宿区)
2/21	平成30年度認知症カフェフォーラム	後援	青山1000人会、姫路市	姫路キャスパールホール (兵庫県姫路市)
2/23・24	日本児童養護実践学会 総会・第11回研究大会	後援	日本児童養護実践学会	とりぎん文化会館 (鳥取市)
2/23・24	第48回耳の日記念文化祭	後援	東京都聴覚障害者総合支援機構	東京都障害者福祉会館(東京都港区)、港区立勤労福祉会館
3/1	みんなネットフォーラム2018	後援	全国精神保健福祉会連合会	帝京平成大学池袋キャンパス・沖中記念ホール (東京都豊島区)
3/2	メンタルヘルスの集い (第33回日本精神保健会議)	後援	日本精神衛生会	有楽町朝日ホール (東京都千代田区)
3/3ほか	第64回「耳の日」	後援	日本耳鼻咽喉科学会	有楽町朝日スクエア (東京都千代田区) など
<b>大 阪 事 務 所</b>				
2018/4～ 2020/3	第54期電話相談ボランティア養成講座	後援	関西いのちの電話	大阪府立羽衣青少年センター、博愛社5階会議室

日程	催 事		主 催 者	会 場
4/1～5/25	平成30年度「地域保健福祉研究助成」・「ボランティア活動助成」	後援	公益財団法人 大同生命厚生事業団	
4/1	バリアフリー2018	後援	大阪府社会福祉協議会	インテックス大阪
4/21	「全国遷延性意識障害者・家族の会」 関西ブロック講演会	後援	全国遷延性意識障害者・家族の会	兵庫県農業会館
5/27	第25回共生・共走リレーマラソン	後援	共生・共走リレーマラソン実行 委員会団体	花博記念公園
6/1	若さの栄養学 春の講演会	後援	一般財団法人若さの栄養学協会	大阪産業創造館 6階 会議室E
6/7～10	第66回ろうあ者大会in大阪付帯事業 第33回全国聴覚障害者写真コンテスト の後援使用許諾	後援	一般財団法人全日本ろうあ連盟	大阪市立生涯学習セ ンター
6/9	共に生きる22	後援	「共に生きるコンサート」 実行委員会	箕面市立メイプル ホール大ホール
6/17	第25回マインドエアロビクス	後援	マインドエアロビクス実行委員会	大阪市長居障がい者 スポーツセンター
6/17	第36回日本ライトハウス チャリティコンサート	後援	社会福祉法人 日本ライトハウス	ザ・シンフォニーホール
6/23	素のままフェスタ2018	後援	豊中市・素のままフェスタ実行 委員会	豊中市立アクア文化 ホール
7/11・12	第68回近畿児童自立支援施設野球大会	後援	奈良県・近畿児童自立支援施設 協議会	橿原市運動公園（硬 式野球場・軟式野 球場）
7/14	福祉の就職総合フェア 2018 in OSAKA	後援	大阪府	インテックス大阪 2号館
7/21・ 22・28・29	平成30年度「障がい児育成教育指導 者養成講座（夏季連続講座）」	後援	一般財団法人 子供の城協会	公文教育会館 5階会議室
7/31～8/5	第39回子どもたちの賛歌展	後援	大阪府・市教育委員会ほか	大阪市私立美術館 地下展示室1・2
8/6～11	第35回土と水と緑の学校	後援	公益社団法人アジア協会アジア 友の会	和歌山県新宮市高田 地区一帯
8/17～19	吃音親子サマーキャンプ	後援	サマーキャンプ実行委員会・異 本吃音臨床研究会	滋賀県彦根市荒神山 自然の家
8/30・31	第2回西陣工房オープンデー	後援	特定非営利活動法人 京都西陣会	就労継続支援B型事 業所 西陣工房
9/7	第68回施設従事者激励会	後援	一般財団法人 大阪民間社会福 祉事業団	新歌舞伎座（大阪市）
9/24	第24回大阪YMCAインターナシヨナル・ チャリティーラン2018	後援	大阪YMCA、ワイズメンズク ラブ国際協会西日本区阪和部・ 中西部	大阪市花博記念公園 鶴見緑地 けやき通り南西側
9/30	第59回大阪知的障がい者福祉大会	後援	社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 大阪ともだちの会	河内長野市立文化会館 ラプリーホール
10/13・14・ 20・21	第37回スポーツフェスタ2018大阪	後援	大阪知的障がい者スポーツ協会	ヤンマースタジアム長居 （長居陸上競技場）
10/28	ファインエリアフェスティバル2018	後援	大阪府立障がい者交流促進セン ター	大阪府立障がい者交 流促進センター （ファインプラザ大阪）
10/28	第46回全大阪ろうあ者文化祭	後援	公益社団法人大阪聴力障害者協 会、大阪市聴言障害者協会	大阪市立長居身体障が い者スポーツセンター
11/10	第54回肢体不自由児者を支援する チャリティーバザー	後援	大阪府肢体不自由児者父母の会 連合会	大阪府八尾市山城 一丁目第1公園 （通称：買物公園）

日程	催 事		主 催 者	会 場
11/11	第42回「福祉まつり」	後援	「第42回福祉まつり」実行委員会	社会福祉法人大阪福祉事業団城東ブロック各施設とその周辺
11/18	平成29年医療社会事業従事者講習会	後援	特定非営利活動法人 大阪医療ソーシャルワーカー協会	シキボウホール7階大ホール
11/20	若さの栄養学 春の講演会	後援	一般財団法人 若さの栄養学協会	大阪産業創造館6階
11/22	第19回大阪救護施設合同文化事業	後援	大阪救護施設合同文化事業準備委員会	「太閤園」迎賓館 3階ダイヤモンドホール
11/23・24	ヘレン・ケラー女史没後50年を偲ぶ会	後援	社会福祉法人 日本ライトハウス協会、ヘレン・ケラー女史没後50年を偲ぶ会実行委員会	大阪市中央公会堂 3階中集会室・特別室
11/30	平成30年度大阪府社会福祉大会	後援	大阪府社会福祉協議会	大阪国際交流センター・大ホール
1/14	第39回みんなでつくるコンサート	後援	みんなでつくるコンサート実行委員会	西宮市ブレラホール
1/25～29	第38回「障害のある子供に学ぶ」図工展	後援	大阪市小学校教育研究会特別支援教育部、大阪市小学校特別支援教育担当者会	インクルーシブ教育推進室
2/10	安心して長期療養ができるように！難病患者の医療・福祉を考える府民のつどい	後援	大阪府、特定非営利活動法人大阪難病連、大阪難病相談支援センター	エル・おおさか5階研修室2
2/15～17	2019国際親善女子車いすバスケットボール大阪大会	後援	一般社団法人日本車いすバスケットボール連盟、社会福祉法人大阪市障害者福祉・スポーツ協会、大阪市	大阪市中央体育館
2/23～25	第4回大美アートフェア	後援	大阪美術商協同組合	大阪美術倶楽部
2/24	認知症講演会	後援	公益財団法人大阪認知症研究会	千里ライフサイエンスセンター5F ライフホール
3/8～2019/4/3	世界ダウン症の日写真展in大阪2019	後援	日本ダウン症協会大阪支部	大阪市立中央図書館
3/9	平成30年度「福祉の就職総合フェアSPRING in OSAKA」	後援	社会福祉法人 大阪府社会福祉協議会	インテックス大阪2号館
<b>西 部 事 務 所</b>				
通年	西日本カラオケ連合協議会のチャリティー発表会（年に数回予定）	後援	西日本カラオケ連合協議会	北九州市内の生涯学習センターなど
4/8、7/8、8/19	第8回全九州ろう社会人軟式野球大会	後援	全九州ろう社会人軟式野球連盟	福岡県・大牟田市延命球場ほか
5/13、5/27	第56回北九州市障害者スポーツ大会	後援	北九州市、北九州市身体障害者福祉協会ほか	北九州市立本城陸上競技場ほか
5/26	第36回北九州精神障がい者家族会連合会総会及び記念講演会	後援	北九州精神障がい者家族会連合会	ウエルとばた（北九州市戸畑区汐井町）
6/5～10、6/20～25	第53回西部伝統工芸展	協力	日本工芸会ほか	福岡三越 熊本市・鶴屋百貨店
8/10～12	第63回在宅肢体不自由児海の療育キャンプ	共催	福岡県肢体不自由児協会ほか	福岡県立少年自然の家「玄海の家」
10/13～14	第39回脳性マヒ児のための母親研修キャンプ	後援	福岡あゆみの会	やすらぎ荘（福岡県朝倉郡筑前町）
11/10～12/10	第66回手足の不自由な子どもを育てる運動	後援	福岡県肢体不自由児協会ほか	福岡市など福岡県内主要都市
11/18	平成30年度ひとり親家庭と寡婦のふれあいスポーツ大会	協力	北九州市母子寡婦福祉会ほか	北九州市立浅生スポーツセンター

日程	催事		主催者	会場
3/4～10	第37回肢体不自由児・者の美術展	後援	福岡県肢体不自由児協会ほか	福岡市役所ほか
<b>名古屋事務所</b>				
4月～10月	第70回赤い羽根協賛 児童生徒作品コンクール	後援	愛知県共同募金会ほか	NHK名古屋 放送センタービル
4/8	第38回愛知県聴覚障害者体育大会	後援	愛知県聴覚障害者協会	豊橋市総合体育館 ほか
4/14～5/27	平成30年度愛知県障害者スポーツ大会	後援	愛知県、愛知県社会福祉協議会	名古屋市・ 星ヶ丘ポウルほか
4/26～ 11/22	第15回名古屋市障害者スポーツ大会	後援	名古屋市ほか	パロマ瑞穂スタジアム ほか
5/17～19	第21回国際福祉健康産業展 ～ウエルフェア2018～	後援	名古屋国際見本市委員会	ポートメッセなごや
6/2～3	第29回東海聴覚障害者体育大会	後援	東海聴覚障害者連盟	岡崎市中央総合公園
6/30	第56回心身障害問題を考える集い	後援	社会福祉法人あさみどりの会	ウインクあいち
7/1	第35回愛知県聴覚障害者大会	後援	愛知県聴覚障害者協会	豊田市福祉センター
7/21～8/17	第35回福祉施設絵画展	後援	名古屋市児童養護連絡協議会、 名古屋市知的障害者福祉施設連 絡協議会	名古屋市・セントラル パーク市民ギャラリー ほか
8/11～16	第35回岐阜心理リハビリテーション 療育キャンプ	後援	岐阜心理リハビリテーション部会 親の会ほか	恵那市・ 割烹民宿おおくら
8/17～23	第33回中部ブロック動作法セミナー	後援	三重県心理リハビリテーション 連合会	三重県立 鈴鹿青少年センター
8/18～23	第46回愛知心理療育キャンプ	後援	愛知心理療育親の会	蒲郡ホテル別館
9/10～ 12/10	第66回 手足の不自由な子どもを育てる運動	後援	愛知県肢体不自由児協会	愛知県内
9/30	第42回 '18愛のフェスティバル	後援	社会福祉法人名古屋手をつなぐ 育成会	名古屋手をつなぐ育 成会福祉会館
10/6	生き生き長寿フェア2018	後援	愛知県社会福祉協議会ほか	あいち健康の森公園 (大府市、東浦町)
10/6	脳外傷リハビリテーション講習会	後援	同講習会実行委員会	名古屋市中区役所 ホール
10/20	第46回医療講演会	後援	三重県重症心身障害児(者)を 守る会	プラトンホテル四日市
10/30	第66回愛知県社会福祉大会	後援	愛知県社会福祉協議会ほか	愛知県体育館
11/4	第63回名古屋市身体障害者福祉大会	後援	名古屋市身体障害者福祉連合会	名古屋市中区役所 ホール
12/9	第58回愛知県身体障害者福祉大会	後援	愛知県身体障害者福祉団体連合会	新城文化会館
2/6～11	第53回名古屋市障害者作品展示会	後援	名古屋市身体障害者福祉連合会	名古屋市博物館
3/3	第37回耳の日記念聴覚障害者と 県民のつどい	後援	愛知県聴覚障害者協会	名古屋文理大学文化 フォーラム



# チャリティー美術展に出展いただいた皆さま

(50音順、敬称略)

## 【日本画】

### (あ行)

青山博之	秋本幸一	朝比奈陽心	安達英志郎	阿部穰	荒井孝	新井陽子	安藤徹
池田夏乎	石踊紘一	石踊達哉	石崎昭三	石田幸誠	泉東臣	伊勢巧	板垣青仁
市川保道	市野晴美	市橋豊美	井上耐子	井上北斗	猪熊佳子	今井武久	岩田三枝
岩波昭彦	上村淳之	鵜飼千佐子	臼井治	内田広己	烏頭尾精	梅原幸雄	梅村愛
江川照美	蝦名芳枝	大嶋仁美	大竹紫水	大矢亮	大矢時保	大矢十四彦	大矢紀
大矢眞弓	岡信孝	小川国亜起	小倉理山	落合初美	折式田生子		

### (か行)

春日あけみ	勝田幸男	加藤厚	加藤哲男	加藤美恵子	鎌田紀子	上村俊明	亀山玲子
川合和子	川崎マリ子	川島睦郎	河村沙希	河本正(故人)		川本淑子	神林久子
菊池治子	岸野圭作	木村英史	金原保則	久芳道信	久保嶺爾	倉島重友	倉田富美
倉地千枝子	栗原幸彦	黒光茂明	小泉智英	上泉蘭一良	香野ルミ子	国府克	小島光径
後藤順一	小林济	小林裕子	小林六博	近藤守			

### (さ行)

斎藤和	斎藤宗	坂井昇	桜井敬史	佐々木経二	佐々木裕而	笹本正明	佐治満澄
佐藤晨	猿橋幸治	澤山輝彦	椎名保	重岡良子	品川成明	芝康弘	島次逸郎
清水航	清水史郎	清水信行	清水操	下島洋貫	霜鳥忍	杉谷彩光	杉山律夫
鈴木紀和子	鈴木竹柏	鈴木至夫	千住博	五月女佳織	染谷聡之		

### (た行)

高越甚	高野純子	高橋新三郎	高橋浩規	田口愛子	武市斉孝	武田州左	田島奈須美
田代邦子	伊達良	田中重造	谷井恵紅	谷口蕙香	玉井伸弥	田宮栄子	田村仁美
角田範子	道家珍彦	遠山幸男	戸田みどり	殿南直也	鳥垣英子	鳥山武弘	

### (な行)

中岡友子	中川脩	長崎莫人	中島潔	中島千波	中寫虎威	中谷温男	中庭隆晴
中村宗弘	永森一郎	名古屋剛志	那波多目功一		仁木寿美子	西岡信子	西野陽一
西松凌波	西村勝廣	西村光人	西山英子	沼本三郎	野澤朋恵	野地美樹子	野原真澄

### (は行)

長谷川郁子	長谷川喜久	秦誠	服部倫子	服部誠子	浜上俊和	浜田泰介	林真
林孝彦	林田啓江	林美枝子	日置宏輔	日比野光雄	平岩洋彦	平岡良	平尾秀明
福井江太郎	福本達雄	福本百恵	藤原祐寛	二川和之	紅山幸水	堀川えい子	本間正英

### (ま行)

前田龍一	馬瀬里子	町田泰宣	松生歩	松木秋佳	松下明生	松下勝正	松本高明
松本勝	真野尚文	三浦絵衣子	三上俊樹	三沢英伍	水江東穹	水谷勝子	水野收
三谷青子	三宅和光	宮崎観峰	宮本脩子	宮本和胡	三輪晃久	武蔵原裕二	村井玉峰
村田晴彦							

### (や行)

矢澤貞子	安川眞慈	谷中武彦	柳績	柳沢正人	山口溪華	山口義明	山田隆量
山本しず子	山本真也	山守良佳	吉岡三樹子	吉田舟汪	吉村佳洋		

### (わ行)

渡辺章雄	渡邊幸子
------	------

【洋画】

(あ行)

青江健二	浅井清貴	麻田博子	浅村理江	遊馬賢一	東弘孝	安達康夫	阿野義久
阿部晴美	安部英夫	天野吉則	荒井孝	安藤公一	飯田道嗣	池田くみ子	池田清明
池田洋子	恵俊彦	石川世始子	石阪春生	石田聖子	石野容三	石橋武夫	石原ミチオ
居島春生	磯崎みちる	板垣千鶴子	板倉美智子	伊丹重男	市村一	井手典子	伊藤和義
伊藤清和	伊藤五郎	伊藤純子	伊藤隆	伊藤秀男	伊藤弘之	伊藤文男	井藤雅博
伊藤康夫	稲垣考二	稲垣龍雄	井上慎介	井上利哉	井上よう子	井口由多可	今関アキラコ
今村价男	入江観	岩崎雄造	岩田視司	岩田知幸	岩谷康世	岩本かずえ	上嶋スミコ
上田真澄	植月正紀	上野憲一	上野千代子	臼井恵之輔	宇田喜久子	宇野孝之	宇野義行
梅村徹	栄永大治良	江上寿夫	榎本多恵子	江本繪門	王前一馬	大石つね子	大川浩市
大口邦子	大島幸夫	大谷哲生	大津英敏	大西敦子	大西生余子	大野国光	大見伸
大森祥吾	大森良三	岡貞徳	緒方洪章	岡宏	岡本正尹	岡義実	小川清子
小川幸紅	小川リエ	沖田廉平	奥田喜一	奥谷博	尾崎功	納健	小澤一正
小沢眞弓	小田島えい子		織田義郎	小野仁良	面矢元子	折本美祢子	

(か行)

加古千恵子	笠井誠一	梶浦寿布	計盛健次	片山弘明	加藤助八	加藤千太郎	加藤照
加藤トオル	加藤信子	加藤茂外次	加藤吉春	金井順子	金丸悠児	壁下孝	上所幹彦
カヤガキ久子		加覧裕子	川井一義	河野宗之蒸	川原比瑳子	河村斗世子	木浦寛治
菊池郁子	菊地正男	菊地洋二	喜澤のり子	岸田淳平	岸田夏子	岸野昭	木谷利江
北見隆	北村美枝	橘田政明	木寺淳二	鬼頭恭子	木下實之	樹林雅生	木村信之
木村正志	木村優博	木脇康一	草野直己	久世瑠璃	久野和洋	久保輝秋	倉田政子
倉持正	黒川彰夫	黒木郁朝	黒木トシ子	黒木雅彦	黒田秀方	黒田富紀子	黒田勝
黒柳弘行	桑島春彦	小池かよ	小泉元生	甲谷武	五島まさを	小瀬垣宏郎	小林千枝
小林英且	小林雅英	小林裕児	小柳晟	小柳景義	小柳幸代	小山オサム	小山成
近藤昭彦							

(さ行)

斎藤千川予	斎藤由比	酒井章帆	沙海苑子	酒井英利	坂谷和夫	坂本泰漣	坂本よしこ
櫻井孝美	桜井陽彦	櫻井幸雄	佐光亜紀子	佐々木馨	佐崎紘一	佐々木友幸	佐藤一成
佐藤泰生	佐藤富美子	佐藤義光	佐野千津子	猿渡士郎	塩川佑子	四方道夫	七里和子
芝田キク	芝芳雄	島田安雄	嶋津俊則	島村信之	清水鉄彌	下園由莉	白川順子
白山扶士子	菅沼正則	杉浦充	杉田明維子	杉本澄男	杉山英子	鈴木勝之	鈴木貞子
鈴木年	瀬尾一嘉	瀬下ゆり子	世利徹郎	園山幹生	祖父江弘幸		

(た行)

醍醐イサム	大門正忠	高梨芳実	滝沢直次	滝滋	瀧田依子	宅田忠正	竹内喜久江
竹内靖夫	竹生節男	竹下功	竹原邦樹	楯岡和子	田中仁士	田中良	谷川泰宏
谷本暁雄	千原稔	中條健史	塚田清	津川純子	津田勝利	堤慶	椿野浩二
鶴房健蔵	鶴見雅夫	鶴山好一	出口修	寺沢順子	戸狩公久	戸高明義	富澤尚美
富田伸介	友成晴雄						

(な行)

永井夏夕	長井宏之	長尾浩一	長川清悦	長澤すみ江	中嶋国博	中島千恵	中島裕司
中嶋美瑳子	中田順	長富博子	中西文彦	中西良招	中野治朗	中野洋一	長濱伶子
中村晃子	中村光幸	中村實	中山忠彦	中吉照雄	那須ゆいか	生井京子	植崎重視
名和智明	仁木雅子	西澤知江子	西田藤三郎	西野一郎	西村純子	西村壽郎	西山徹

新田ゆき子 (は行)	丹羽直子	沼尾雅代	根萩齋門	ノブ・サチ	野村亜紀子		
萩原栄文	長谷岩友	濱田進	早川勝	林孝三	原田たかし	原尚子	原秀樹
半澤満	平尾倫子	廣岡清武	広瀬範	広田和典	深津静男	福岡幸子	福岡通男
福原満江	福本弥生	藤田慶次	藤本正男	藤森悠二	布施久美子	ブライアン・ウィリアムズ	
別府忠雄	帆足ゆり	保ヶ渕静彦	保科浩一	堀井克代	堀尾一郎	堀博喜	本多しず子
本田真貴 (ま行)	本間千恵子						
前川雅幸	槇利光	牧野美代子	正木茂	柁木高	マサルW	増本憲樹	松浦正博
松浦安弘	松沢茂雄	松田貴美子	松永罇子	松永知久	松原政祐	松村和紀	松村憲一
松室重親	三浦敏和	三木義尚	水野伊津子	港信夫	源尊磨	三舛明子	宮下由夫
宮田翁輔	宮平勉	宮本裕之	宮山博司	村井洋子	村岡顕美	村瀬京平	村田伊佐夫
村田知子 (や行)	村山容子	森下ヒロ子	森田眞	森田幸宏	森文男	森本計一	森本有一
八木時子	安井啓二	安井正子	安居素子	安富信也	安福葉子	柳田晃良	柳瀬俊泰
矢萩武三志	藪崎昭	藪野健	山口隆夫	山口ひろみ	山口美佐子	山下恒子	山下毅
山下徹	山田嘉彦	山手正彦	山中のり子	山本亞稀	やまもと悦子		山本悦子
山本虎雄	山本文彦	湯山俊久	横井三郎	横山了平	吉岡耕二	吉城弘	吉田清光
吉田淳一 (わ行)	吉田敏男	吉村美令由	米田整弘				
若麻績敏隆	わたせせいぞう		渡辺明	渡邊妙法	渡辺良一	渡部香	渡紀美子

【工芸】

(あ行)

相羽鴻一郎	青木九仁博	青木挙	粟生屋東洸	青山双溪	青山鉄郎	明石朋実	赤毛敏男
秋野宏和	浅井秀子	浅蔵五十吉	浅原千代治	足利直子	東正之	安達章	安達雅一
新歓嗣	雨宮弥太郎	荒井さつき	有生礼子	有松進	有本空玄	安藤栄子	安藤工
安藤則義	安藤日出武	安藤博允	安藤良輔	飯沼耕市	井尾建二	石井視子	石田征希
石山静男	伊豆蔵幸治	伊勢崎淳	伊勢崎創	市川清鱗	市川博一	市川正美	市川勝磯
市野元和	市野信水	市野哲次	市野正大	市野勝	一宮現	一宮侑	糸井康博
伊藤敦子	伊藤憲一	伊藤優	伊東祐一	伊藤雄志	伊藤渡	稲嶺盛吉	井上萬二
井上康德	井上楊彩	今泉今右衛門		今井真正	今井政之	今西方哉	伊村徳子
井村まゆみ	岩瀬健一	岩瀬弘二	岩田溪山	上田哲也	上江田ひとみ		植田豊弐
浮田健剛	宇田川溪山	内野薫	内野都	内堀敏房	内村幹雄	内村由紀	内山政義
うら林あきお		永樂善五郎	大泉讚	大角裕二	大上巧	大河内泰弘	大川正洋
大倉貞義	大倉真汝	大塩玉泉	大塩昭山	大城一夫	大須賀選	太田和明	大谷昌拡
太田貢	大塚雅淑	大槻昌子	大野晃幹	大野耕太郎	大野昭和斎	大野誠二	大橋聰子
大場匠	大樋勘兵衛	大樋朔芳	大樋長左衛門		大樋陶冶斎	大平和正	大湾美枝子
岡崎幸徳	小形こず恵	岡田崇人	岡田親彦	岡田泰	岡田裕	岡本篤	岡本白水
小川真之助	小川長楽	小川二楽	荻原毅久	奥村公規	奥山峰石	小倉健	小椋範彦
桶谷洋	尾崎高行	小畑裕司	尾張裕峯				

(か行)

角谷英明	各見飛出記	隠崎隆一	鹿島和生	梶原茂正	春日井範之	片山雅博	勝尾青龍洞
勝尾龍彦	勝田文博	勝田保子	加藤永司	加藤錦雄	加藤溪山	加藤圭史	加藤孝造
加藤幸兵衛	加藤春定	加藤真也	加藤地彩	加藤委	加藤唐三郎	加藤土代久	加藤真雪
加藤美土里	加藤陽児	加藤嘉明	加藤亮太郎	加藤廉平	金子信彦	金重晃介	金重潤平
加納義光	樺澤健治	鎌田幸二	亀井勝	加守田太郎	川井明美	河合竹彦	河井敏孝
河上恭一郎	川北浩彦	川北良造	川口保規	川手敏雄	川端近左	川端文男	川淵直樹
神崎継春	神崎正英	神戸義憲	菊池挙子	北大路泰嗣	北岡秀雄	北口夢石	北野勝彦
北村和義	北村堅治	北村真一	北村隆	北村英昭	吉向琮斎	絹谷幸太	木村素静
木村展之	木村表恵	木村雅子	木村充良	木村盛康	九世吉向松月		清水六兵衛
久野勝生	熊本栄司	黒田正玄	桑原みさ雄	鯉江廣	小出芳弘	厚東孝明	神山清子
神山直彦	神山易久	小島憲二	小嶋太郎	小島直喜	小峠葛芳	小西陶蔵	小西朋子
小西博雄	小橋川太郎	小林一富美	小林浩	小林貢	小林淑郎	小林理恵	小南吉彦
小森邦衛	小谷内和央	小柳種圃	小山貴由	近藤精宏	近藤裕久	今野春雄	

(さ行)

斎木勲	齋藤修	斎藤裕子	西念秋生	佐伯健剛	酒井甲夫	酒井田柿右衛門	
坂井教人	酒井博司	榊原啓司	榊原勇一	阪口浩史	坂手春美	佐久間藤也	佐々木省庵
佐々木二郎	佐々木苑子	佐々木強	佐々木悠紀子		佐々木禅	佐竹一夫	佐竹巧成
佐藤和彦	佐藤巧	佐藤二三子	佐藤泰子	佐藤亮	佐野寛	寒川栖豊	寒川義崇
澤田利光	沢田豊山	篠崎英明	柴岡信義	島岡桂	島田耕園	島田緋陶志	島田文雄
清水一二	清水潮	清水潤	清水酔月	清水剛	清水千代市	志村ふくみ	志村洋子
祝嶺恭子	晶阿弥博子	白武初芳	白幡明	城間榮順	新庄貞嗣	新谷一郎	水津和之
杉江明美	杉江善次	杉本貞光	杉山ひとみ	鈴木藏	鈴木環	鈴木五郎	鈴木三成
鈴木爽司	鈴木大三朗	鈴木富雄	鈴木量	砂田正博	諏訪蘇山	関守高	瀬津純司
曾我阿嬉子							

(た行)

高岡久美子	高木廣司	高橋彰	高橋直樹	高橋榮齋	高原卓史	高見勝代	滝川幸志
滝口和男	武石和春	竹内真吾	武田敏男	竹之内彬裕	武村豊徳	竹村繁男	多田幸史
田中忍	田中清山	田中悠子	棚橋淳	谷口幸二	谷口正典	谷清右衛門 (五代)	
谷野明夫	谷本洋	田沼春二	田原陶兵衛	玉那覇有公	玉村松月	力石俊二	沈壽官
塚本治彦	塚本満	辻英芳	辻聡彦	辻常陸	土谷道仙	土田半四郎	土屋典康
筒井修	都築青峰	恒岡光興	鶴田明子	出口清廣	寺田みのる	寺本守	天坊昌彦
徳田八十吉	豊住和廣	豊場惺也	豊本信子				

(な行)

永井素懂	長江哲男	中尾彰秀	中里太郎右衛門 (十四代)	中里壽	中島卓	中嶋虎男	
中島保美	永末修策	中田一於	仲田錦玉	中田呂尚	中塚佐一	中根秀介	
中野陶痴 (五代)		中原幸治	中村眞一	中村豊	名倉鳳山	新野素子	新美吉昭
二貝清一	西浦武	西尾茂	西尾瑞舟	西尾武人	西川勝	西川實	西功一
西田真也	西端正	西端春奈	西村松逸 (優)		西村直城	二十歩文雄	納富晋
野嶋峰男	野田東山	野村絵梨花					

(は行)

萩井一司	箱瀬淳一	迫二郎	橋爪靖雄	橋本昇三	蓮善隆	長谷川文陽	波多野善蔵
波多野英生	羽田登	波多野正典	羽石修二	馬場九洲夫	馬場弘吉	羽原一晃	濱中月村
早川嘉則	林慶六	林健人	林正太郎	林美佳里	林寧彦	林亮次	原田拾六
ピーター・ハーモン		東田茂正	東直人	久田邦男	樋上千哲	平野教道	平野祐一
平野由佳	廣澤益次郎	広沢葉子	深石美穂	福井由美	福岡琢也	福田参平	藤井敬之
藤田潤	藤平寧	藤村州二	藤本智弘	冬柴文廣	古瀬堯三	古田好孝	古谷徹
古家喜義	帆足まおり	星野友幸	細江稔	堀田博門	堀川十喜	堀俊郎	堀野証嗣
堀菱子	本多亜弥						

(ま行)

前田泰昭	前端春斉	味舌隆司	眞清水藏六	増村紀一郎	松井康陽	松尾潤	松尾剛彦
松吉	松崎健	松嶋弘	松林正人	松村仁団望	松本勝哉	松本尚	松本達弥
松本政昭	松本正雄	松本良夫	馬淵弘幸	三木表悦	水野敬子	水野静仙	水野鉦一
水野教雄	水野真澄	溝上藻風	三ツ井詠一	美藤康夫	皆川隆	宮川香齋	宮川弘尚
三宅織部	宮田亮平	宮地生成	宮本直樹	美和隆治	迎里正光	椋原佳俊	向山文也
村上東市	村越風月	村瀬玄之	村田肇一	村山明	室瀬和美	モーガン・ルイス	
森一蔵	森一洋	森勝資	森克徳	森里秀夫	森陶岳	森陶山 (故人)	
森本英助	森泰司						

(や行)

屋我平尋	安田龍彦	安田道雄	柳河瀬しのぐ		山内厚可	山内一生	山岡公彦
山岡宏子	山口堅造	山口宏夢 (故人)		山口真人	山口美智江	山口みちよ	山口義博
山路和夫	山田孝三	山田孝藏	山田晋一朗	山田進二	山田正博	山田みどり	山田義明
山近泰	山出勝治	大和努	大和保男	大和祐二	大和義昌	山中辰次	山本修
山本象成	山本拓男	山本雄一	山本竜一	湯村京子	横山尚人	吉賀将夫	吉川千香子
吉川正道	吉田宏信	吉田真人	吉田美統	吉田幸央	吉田喜彦	吉富文代	吉本正
米田和	米田萬太郎						

(わ行)

若尾経	若尾圭介	若尾利貞	脇田宗孝	湧田弘	和田桐山	渡邊松華 (礼而)	
渡辺琢哉	和田一人						



**【版画】****(あ行)**

安東菜々 井川鉞之介 池上壮豊 井上勝江 浦田周社 円城寺健治 尾崎淳子 尾崎斎晃  
小原喜夫

**(か行)**

片山誓泉 河内成幸 木嶋ちさ加 木村秀樹 日下里美 國安珣琥 古賀章 小崎侃

**(さ行)**

サイトウ良 桜井貞夫 塩田みはる 志野和男 白木俊之 須田敏夫

**(た行)**

高部多恵子 田中喜一 辻憲 鶴岡さゆり 富田文雄

**(な行)**

中林忠良 乗兼広人

**(は行)**

原三佳恵 二見彰一 船坂芳助 星野美智子 堀江良一

**(ま行)**

増田陽一 望月厚介

**(や行)**

山本桂右 吉田賢治 吉田正樹 米倉泰民

**(わ行)**

渡辺達正 渡会純价

**【書】****(あ行)**

浅井機山 綾村捷子 新井光風 飯高和子 池田桂鳳 石飛博光 石本法子 江口大象  
榎倉香邨 岡美知子 小川東洲 尾崎蒼石 尾崎邑鵬

**(か行)**

加賀山香尚 檜本桑牛 角元正燦 金澤翔子 杭迫柏樹 黒田賢一 小島寿 後藤汀鶯

**(さ行)**

師村妙石

**(た行)**

高木厚人 高木聖雨 竹中青琥 田中光穂 樽本樹邨 土橋靖子 鼓芳石

**(な行)**

仲川恭司 中村秀峰 中村伸夫

**(は行)**

藤岡都逕 藤野北辰 星弘道

**(ま行)**

真神巍堂 増永広春

**(や行)**

山添鼎石 吉川美恵子

**(わ行)**

渡邊笙鶴

## 【著名人・漫画家・イラストレーターほか】

### (あ行)

藍弥生 浅田次郎 浅野ひさよ 有馬頼底 池井戸潤 石田隆 市田ひろみ 井筒啓之  
上野道善 上村貞郎 宇野亞喜良 江上泰山 蛸原あきら 王貞治 大野玄妙 小澤一雄

### (か行)

香川元太郎 片山治之 桂吉弥 かわぐちかいじ 川津祐介 姜尚中  
きたざわけんじ 北見けんいち きむらゆういち 清原なつの 隈研吾  
河野太通 小島万里子 小林太玄 小山幸容

### (さ行)

酒井駒子 狭川宗玄 佐々木啓子 佐藤邦雄 三遊亭円楽 三遊亭小遊三 下瀬翠  
千玄室 第14代家元千宗左 千宗室 千宗守 ソリマチアキラ

### (た行)

高田明浦 高橋真琴 多川俊映 竹井千佳 田島征三 田代卓 立本倫子 谷川浩司  
ちばてつや 中条春野 趙治勲 辻和雲 唐仁原教久

### (な行)

永井ひろし 中原誠 鯉江光二 成瀬國晴 野村俊夫

### (は行)

萩尾望都 長谷川大眞 長谷川義史 羽生善治 はまのゆか 林家正蔵 林家たい平 ヒサクニヒコ  
日野西光尊 藤田菜七子 古川タク 堀江恭子

### (ま行)

前川しんすけ 前田昌道 松浦俊海 松長剛山 マツモトヨーコ 松本零士  
三浦友和 美樹本晴彦 水谷八重子 水谷豊 水戸岡鋭治 南こうせつ 三好貴子 村上康成  
森清範 モンキー・パンチ (故人)

### (や行)

やくみつる 八代亜紀 安井寿磨子 安彦良和 柳家さん喬 矢吹申彦 山口哲司 山口はるみ  
山口マサル 山中伸弥 やよいとしん 吉田桂子 蓬田やすひろ

## 【立体アート展】

あいさわかずこ akatin 浅井飛人 浅木紳士郎 池田邦彦 石川宜明 伊津野雄二  
伊藤幸正 井原宏路 内林武史 大島康幸 小田伊織 亀田信子 加茂幸子 川崎広平  
かわさきみなみ 川田崇司 木村繁之 小出正義 坂本憲二 塩澤宏信  
シック・スカート 染矢義之 徂徠友香子 高木まどか 太郎 津田のぼる 都築作治  
天明里奈 東條明子 戸塚恵子 濱田成実 深津千恵子 船木大輔 牧野永美子 宮下洋一  
諸星昭弘 山尾比呂士 横田尚 綿引明浩

【民芸】

- 阿部眞士（祐工窯） 荒尾浩一（椿窯）  
 荒尾寛（有椿窯） 伊藤嘉輝（星耕硝子）  
 井上泰秋（ふもと窯） 井上尚之（ふもと窯）  
 上江洲茂生（茂生窯） 太田圭（太田哲三・圭窯）  
 太田潤（太田潤手吹き硝子工房）  
 太田哲三（太田哲三・圭窯）  
 大塚誠一（大誠窯） 尾野友彦（袖師窯）  
 掛谷康樹（惣堂窯） 河井一喜（猿子田窯）  
 川野恭和（艸茅窯） 金城定昭（あき陶器工房）  
 栗田荘平 小林孝男（牛ノ戸焼窯元）  
 坂本章（因州・中井窯） 柴田雅章  
 嶋田孝之（石州嶋田窯） 島袋常秀（常秀工房）  
 清水俊彦（俊彦窯） 出西窯  
 平良敏子（芭蕉布事業協同組合）  
 高畑伸也（一翠窯） 瀧田項一（俱門窯）  
 瀧田史宇（俱門窯） 谷口室生（室生窯）  
 田村将敏・麻衣子（田村窯）  
 七尾佳洋 登川均（なかどまり工房）  
 福岡琇士（湯町窯）  
 藤岡香奈子（陶芸工房ふじ）  
 松田共司（読谷山焼北窯）  
 松田米司・健悟（読谷山焼北窯）  
 宮城正享（読谷山焼北窯）  
 元重製陶所 森山雅夫（森山窯）  
 山下清志（延興寺窯） 山下裕代（延興寺窯）  
 山本教行（クラフト館岩井窯）  
 温泉津やきもの館  
 與那原正守（読谷山焼北窯）



## ご寄付をいただいた皆さま

2018年度に全国の皆さまから当事業団に寄せられたご寄付は、総額3億4519万9776円にのびりました（当事業団の実施する東日本大震災救援事業への寄付を含む）。当事業団の活動に賛同してくださる皆さまをはじめ、朝日新聞読者、企業、団体、グループ、学校など、多くの方々が私どもを寄託先として選んでくださいました。また、今年度からは古書を活用した募金の受け付けも開始し、こちらも多数の方々にご協力をいただきました。ご寄付いただいた皆さまに厚く御礼申し上げます。

お寄せいただいた温かいお志は、この事業報告で紹介しているさまざまな福祉事業に充てております。今後ともご支援、ご協力をくださいますよう、お願い申し上げます。

ご寄付いただいた皆さまは次の通りです（敬称略、順不同）。

※掲載スペースに限りがあるため、匿名を希望されている方、並びに東日本大震災救援事業へご寄付いただいた方のお名前は省かせていただきました。

- ▼北海道：奥寺幸子、奥寺哲哉、戸田義則、功刀和彦、高木昭一、佐々木きよ子、佐藤正顕、桜井智康、山崎悦子、山崎等、社本好明、秋元トモ子、小野弘美、森千草、清水美智子、清水隆、石川義昭、川端暢文、村上幹也、竹田勝・絹子川本まき・貴也、長内諄子、東海林勝子、発寒中央病院、番場典子、望月功次、北村マリア、本多彦雄、木村清司、淵澤茂子
- ▼青森県：佐藤祐逸、織笠イシミ、清野俊晃、名取光広
- ▼岩手県：岩手県朝日会、金子新聞販売、昆野しづ子、佐藤文夫、山口光枝、小金森勝治、小川浩彦、石川洋子、石田裕子、飯島信
- ▼宮城県：安部一美、佐々木潔、三浦七郎、松川勝、菅原裕子、奈良文子、日野克美、畑山欣二、福島史、鈴木慎二
- ▼秋田県：金田真理子、高橋正喜、須藤礼次、大盛山円通寺、大内源太、鶴田貢、藤本正孝、飯塚久雄
- ▼山形県：遠藤國勝、今野友子、成田政右衛門、高橋耕三
- ▼福島県：高梨誠一、阿部勇、安藤治、安部宮子、遠藤敏男、金澤壮一、三森タイ子、上野照男、星熊雄、樋口勇、本宮嘉代子
- ▼茨城県：安田豊、岡山伸一、海老原猛、吉田則子、駒井英子、工藤義亮、荒川一雄、佐藤正喜、佐藤忠夫、寺門南、寺澤真由美・薫子、柴田多恵子、小林栄喜、小林秀寿、川島医院、相川俊明、相馬仁禄、大石多津子、大村三樹男、大部克美、池添美都里、鳥海省吾・喜美子、藤田正三、粕谷日出夫、飯竹一広、鈴木なみえ、鈴木弘康、和地利久、澤畑栄子
- ▼栃木県：阿久津美千代、越川栄子、塩野谷信夫、鎌田正信、車田孝夫、手塚正志、新井正男、森島彰、早乙女紘一、湯浅末吉、日光市御幸町商店会、平野敬、木村克二、野田新聞店、林良郎、縣君子
- ▼群馬県：ASA前橋南橋、オカリナ小町、伊藤恵美、花岡卓二、吉田由美子、金子幸江、桑山賢、山丸幸子、山田順子、松本庄八、清水昭夫、清水明真、静雅彦、内田由喜江、矢作正夫
- ▼埼玉県：ASA小手指・狭山ヶ丘、パパクッチーナ&北浦和サッカースポーツ少年団、安河内功・弘子、伊東亮太郎、伊藤香世子、坂本哲也、引間正・弥恵子、宇田川治宣、羽石史生、浦和女声合唱団、園山晴美、遠藤ゆり、遠藤靖夫、岡崎弘子、乙部栄次郎、下司佳代子、加藤秀夫、関トシ子、関根武、吉川弘志、吉沢郁男、久嶋圭子、久保田敏、宮嶋祐一、宮本富雄、宮本眼科医院、宮崎恵子、橋本喜久雄、鏡勝弘、熊澤毅、古谷信雄、後藤恵子、荒井健次郎、高岡勲、高橋正和、高佐屋三郎、高木恒太郎、高澤正子、小室クリニック、今栄俊一郎、佐藤最子、佐藤正子、佐藤則夫、佐野マキ、

埼玉県版画家協会、山吉宣成、山根克己、山崎嘉昭、山田昭次、山田クリニック、山本貴、山本治男、山崎政枝、市川春樹、寺田英行、柴崎保子、柴田眞樹、若山みや子、酒井國雄、小金沢憲男、小池清則、小林明、松井政江、松崎繁子、松盛将三、松村松年、松田光、松本繁雄、松崎賢治、上岡悦子、上杉清秀、上杉美子、上田典男、深井勝己、神谷里子、須賀弘、杉本誠三郎、菅沼信男、世木裕子、西森幸雄、西野優子、石山正明、石川潤、たかわ会、川端こまち、川田実、浅倉良夫、船田藤三郎、前野澄子、早川悦夫、村岡美佐男、村上明子、村田みき子、村田勇、大久保潔、大島辰幸、大木まち子、大纏勝・伸子、池田久美子、中村久美・紀久子、中村良太郎、猪俣俊晴、町田金治、津田保慶、辻徹哉、田嶋なみ、田林晃、渡辺茂樹、渡辺利夫、東海林英二、湯田明美、藤高誠一郎・小葉莉、道久義美、内山豊美、内田英利子、内藤哲、馬場幸子、馬場幸子・常正、馬場常正、白石道子、発知よし子、飯能新緑ツーデーマーチ実行委員会、尾熊祐三、富原繁則・利江、福本富美子、福来義信、堀内雅子、名越啓史、茂木克己、木村義熙、野沢和佳子、矢島久夫、鈴木菊枝、鈴木孝明、和田喜久夫、澤田雅夫、齋藤淑子、高橋光代

▼千葉県：「小さな親切」運動ちばぎん支部、ASA無声映画上映会、ASA検見川西部、ASA作草部みつわ台、とみうら薬局、はっぴい・べっせる関係者一同、井原正昭、井腰茂樹、宇都宮利善、羽生マリ子、羽生敏則、横田雄峯・千代子、岡田イセ、岡田和子、岡部匡克、下野千晴、加藤温女、加藤洋子、花井徳治、鎌田隆一、岸栄輔、岸波弥栄、吉岡真利子、吉野春雄、宮原千恵子、宮本民雄、近藤洋一郎、桑島フジ子、郡司良雄、古家雅子、古川喜一郎、広田栄次郎、高橋勝、高橋巖、黒川澄夫、今裕之、今枝知、紺世初代、佐藤正年、佐藤直文、斎藤たかし、三石昭、三島隆徳、山根和子、山田和雄・恭子、山藤伸子、山野井憲司、秋山貴子、渋谷晃一、勝間田薫、小宮山良男、小川宏一、小池菊平、小林一博、松戸いづみ幼稚園、松野晴一、森弘、人見幸雄・良、須田和夫、雛形明美、杉谷道子、菅原好子、菅谷扶美雄、星野博、清古高志・裕子・依子、清藤ヒデ子、西堂道子、石井正男、石井従道、千代田走友会、千葉幸子、千葉シニアアンサンブル・それいゆ、川田雅昭、川島正治、川島敏輝、泉岡和行、増田英男、村岡百合子、大原園枝、大川佐多子、大谷洋平、大塚孝雄、大土勢子、大和均、谷亀さち子、竹内阪藏、中村謙介、中村芳昭・貴子、中野好、中野幸子、長田勝男・民恵、椎橋弓、天野昌紀、田口正治、田口泰子、田中良治、田中隆、渡辺恒夫、都丸司、土田芳孝、嶋田博子、東葛坐禅クラブ、藤谷玲子、藤田光宏、藤田康人、藤野俊文・紀美子、寅嶋千津子、内田俊介、内藤たぬ・ビス、飯塚登、富永貴子・コー太、福地美津子、平野鐵三郎、芳野宏、堀越文子・孝男、堀川栄彦、堀内國義、名取孝子、茂木和子、木村スミ、門脇幸親、柳晴宣、友成精利、立田文夫、林理重、鈴木静枝、廣瀬忠正、廣瀬和市郎、齋藤和子、高岡信男、高橋照美、高橋清

▼東京都：ASA八王子南口、ASA江古田、ASA小竹向原、ASA常盤台、ASA大泉北部、ASA府中西部、JXTGエネルギー労働組合東京支部、アイ・ビー・サプライ、アサヒメディア、ヴィス、阿久津百合子、阿古慎一郎、渥美信子、伊藤寛子、井上やす子、井上苑子、井上通子、磯貝博司、宇佐見清・勝美、宇都野さきゑ、宇野勝己、宇野眞理子、白井公子、白井清子、榎本淳子、榎本明江、遠藤イヨ、遠藤フジコ・マリコ、遠藤耳鼻咽喉科アレルギークリニック、塩沢玲子、岡和良、岡山和男、岡田肇、岡部長廣、岡部美和子、岡部隆、岡本みね子、荻原芳夫、荻原蓉子、加藤ミチ、加藤久明・貞子、加藤幸雄、加藤昭、加藤晴子、加藤正弘、加藤徹郎、加納有二、河村満智子、河部寛美、河野哲夫・弘子、河野美美江、花きゃべつ、我妻多賀子、会田富士恵、貝原侘子、角田邦明、上野学園、楽天地オアシス、笠原英一、笠原房子、鎌田直子、勘亭流書道の会、関佳子、関谷信雄、岩永康一、岩崎明生、岩楯多嘉子、菊谷都代子、菊池満美、吉森浩子、吉澤成男、吉澤忠一、橋



ダンススクール、杵勝会、宮崎亮、宮田誠志、宮澤一夫、宮澤美子、巨勢典子、境義弘・静子、境井敬昌、橋本圭子、橋本尚文、玉蟲裕子、金井邦夫、金丸昊一・祐子、金内悦子、金澤恵子、熊倉学司、仲代、見城忠夫、原田ミドリ、原嶋美雪、古寺貞夫、古川洋一、古明地幸勇、菰田稔夫、菰田由美子、後藤伝松、原田積善会、広野輝夫・茂子、荒井康博、荒井伸雄、荒牧澄子、高橋勢津子、高山雅博・なほ子、高瀬イネ、高谷進、高梨輝雄、高澤文子、黒須誠、今野丹子、佐古浩敏、佐竹芳浩、佐藤嘉子、佐藤時昭、佐藤晴男、佐藤裕久、佐藤梨恵、斎藤喜美子、細田美代子、坂井昭七、坂井則幸、坂下曜子、坂口一彦、坂口悟、坂口智恵子、坂口明子、坂田八郎、坂本敬、桜井浩子、桜井伝蔵、笹原和子、三浦利文、三上訓正、三輪良子、山岸康明・純子、山岸悠子、山岸由美子、山口八千代、山村隆雄、山中偉光、山田美江、山本雅彦、山本真一、山脇学園中学高等学校、山崎澄子、市橋幸子、市川政雄、市川泰子、志田瑛子、糸数恭子、寺田眞文、鹿野和子、実践家政科会福祉部、篠田志麻、芝原克己、若山麻美、狩野葉子、酒井珍儀、重本珊志郎、春日直也、諸橋二郎、勝田明子、勝田洋子、小関裕子、小坂郁夫、小山善生、小勝竹雄、小松妙子、小川達郎、小川洋子、小泉美英子・佑馬、小船次子、小倉真寿雄、小谷泰弘、小谷文子、小池咲子、小平三郎、小峰真紀子、小野瑛子、小野裕子、小野寺玲子、小林一正、小林一雄・育枝、小林建次、小林宏、小林俊夫、小林美江、小林優子、小林雄太、小澤さき子、小澤和男、松永喜美子、松川絹枝、松村敦子、松村明美、松尾香代子、松尾純子、沼沢良樹、上原京子、上原秀、上西美智子、上野菊枝、新生企画、新田國夫、新木功久、森重子、森昭徳、深川スミ子、真嶋信子、神谷千代子、神鳥芳男、諏訪直子、須藤サチ子、須和田幸男、水上篤・よし美、杉本淳子、杉野裕子、世田谷区池尻西町会、勢司富美枝、成松七子、成澤幸子、星野富榮、清時竹彦、清水太一、西山楨寿水、西川とし、西川仁、西谷道郎、西澤幸雄、青木恒男、青柳正夫・美智子、石井せつ子、石井寛、石井祝子、石井國昭、石原喜久子、石川儀市郎、石川暁子、石川俊幸、石川美根子、石川富士雄、石母田京子、専修クリエイト、川端章一、川島二三子、川本敏郎、泉澤友幸、浅井猛彦、浅賀登志子、染谷節雄、染谷理一、前川信朝、倉持泰雄、早崎裕幸・喜恵子、増田勝弘、蔵方宏昌、足立嘉子、村井丞子、村西卓、村田三永子、村田勇、村尾静彦、村野富貴子、多田廣道、太田美根子、大井康生、大羽富美子、大越啓次、大久保圭子、大久保哲夫、大西謙造、大竹太上・大竹信子、大竹茂仁・綾子、大鳥龍男、大塚真之、大塚隆、大島尚子、大部智洋、大房順雄、大木静江、大薮龍子、大和修、大澤利夫・玲子、炭田千賀子、知高弘、池田信三、竹中勇、竹内實昭、中山正子、中小路淑江、中庄谷康弘、中川順子、中川隆生、中村斐子、中谷徳子、中堤洋治、中島美佐子、中條依久雄、中澤隆太、昼間康子、猪忠彦、朝日トップス（株）社員会、朝日新聞東京本社販売局、町田和美、長典俊、長山明雄、長沢淳、長谷部守、長谷部信也、辻久美子、鶴来一克、天野重夫、田宮貞和、田松一之、田村宏子、田村清明、田村博、田代田鶴子、田中喜久子、田中修、田中貞和、田中龍一、田部美智子、田辺桂子、田辺明子、田辺眼科、渡部睦子、渡辺正一、渡邊伎美、渡邊康子、渡邊芳子、土屋雅幹、土田豊・あつ子、島崎芳巳、島村俊雄、東晃、東間紘、東京立正同窓会、湯浅重幸、藤田美江、内田幸子、内田哲史、内藤齊、南晴病院、二見慶子、日上操、日朝秀宜、日比野みち子、梅沢正樹、梅本益雄、萩原敦子、白石スミ子、白石みどり、畠中彰、反保康子、飛田満彦、樋口経雄、樋口良子、樋脇隆雄、樋脇隆雄、浜田隆、富村憲一、武井靖子、武居ユキ子、武藤三喜子、舞木亮三、風間久子、福井一彦、福井正行、福岡紀子、福室典夫、兵頭圭介、平賀正幸、平栗弘明・征子、平川恒久、平田多恵子、片岡史郎、豊野谷優延、望月紘一、望月蘭子、北宮満、北村満子、堀義久、堀上禮子、堀水美津子、本間明生、本浄寺、茂手木好枝、木村文治、木村正昭、野崎誠、野本好子・登、矢島伸治、矢野孝子、柳春子、友久英孝（美知子）、友田重信、有田茂登子、落合会計事務所、両角晃一、力武登美子、林貞次郎、林敦子、鈴木ユリ子、鈴木絢子、鈴木誠、鈴木洋子、鈴木和子、和角勉、

和泉屋節子、和田裕久、櫻井澄子、瀧崎勝憲、澤田稔子、眞板幸子、糀谷クリニック、萬代貢一、藪崎光子、賣問登志子、齊藤善五郎、齊藤智江子、高橋正治、高木千代子

- ▼神奈川県：常泉寺、ASA鎌倉深沢、ASA中山、ASA東林間、ASA北鎌倉店、m. m、遠藤ともえ・神野文子・杉山あき子、中山英男、コスモテック、たまなわ新聞、フミコ、A、阿部秀雄、安岡千絵里、安達きん子、安藤弘子、伊達知史、伊藤嘉知子、伊藤正孝、伊藤泰爾、伊藤禎子、伊藤登規子、井出泰子、稲川尚子、宇賀神裕子、羽島秀光、永瀬裕子、永田廣子、永田恵美子、猿田逸夫、遠藤ゆきと歌仲間、塩崎隆彦、横山田鶴子、錦台中学校、横濱かもめ倶楽部、岡村貞子、岡田康子、加瀬峰知子、加藤清二郎・富子、河原幸子、花澤武、会田秀介、貝塚薬局、梶亭、瀧永健一、エイワ、鎌田みね子、栢原和子、瓦田信彦、関千代子、丸山純一郎、丸山正子、岩下健三、岩田幸次、菊地勝男、菊地朗、菊池知子、吉永和幸、吉居浩二、吉原恵子、吉田安廣、久保田知子、及川サチ、宮下美也子、宮地紀子、桐木正子、近藤勝、近藤正行・紀子、金子才一郎・美津代、熊谷美代子、栗田敏郎、君和田正夫、犬塚初江、古宇田伸子、古屋淳子、古賀雅子、戸村隆子、工房ぼけぼうし、江口紀子、高橋博雅・玲子、高橋芳枝、高口信孝、高谷喜美子、高平孝一、今井孝一、今井美代子、今村慶子、今村準三、佐原充、佐藤アサエ、佐藤順二、佐藤正・久美子、佐藤智恵子、佐藤碧士・正史・美奈子・恒久、座間博、斎藤守弘、斎藤万寿子、斎藤隆、細山田文樹、坂井田実、坂田廣愛、作間和幸、柵木三郎、桜井祐二、三友ファスニング、三和看護婦家政婦紹介所、山家政男、山口喜一、山口千恵子、山室睦雄、山田恒史、山部快太郎、山本芳枝、山崎行夫、志村三知子、篠原福枝、篠原勇、酒井美代子、酒井峰男、重田哲也、春日廣之助、小宮玲子、小沢英雄、小田嶋麗子、小柳節子、小林清吉、小林清重、松下宏子、松元英子、松村和子、松本和枝、松野初枝、松澤有人、湘南新聞販売、上杉寿美子、上田富恵、上條洋子、讓原昇、新原啓、新川雅子、森九三八、森晃一、深松和子、神奈川県少林寺武道競技連盟、仁保紫郎、菅原八重子、菅野喜和、菅野利孝、瀬戸三雄、瀬谷淑子、星勲、清水侃、西山洋子、西富房江、青山晴世、青木良夫、斉藤経広、石井至子、石原春久、石川一彦、石川幸代、石川和子、赤津正美、赤尾由紀子、千葉茂美、川口幸博、川島富佐恵、浅沼幸恵、前山寿一、倉崎宏一、早瀬有里、増田淳子、多田梅子、代田治彦、大越政子、大橋悦子、大橋幸二、大山行徳、大川治衛、大倉文雄、大滝良雄、大庭浩子、大島靖夫、大畑一郎、大矢征、大矢妙子、丹羽邦彦、池野清、竹市義弘、中川幸子、中川美榮子、中村準良、中田宏・和美、中島千恵子、中島明高、中野清、中野泰子、中里創、中里由紀子、中里暉久江、笠本康夫、長岡勝美、長谷川公子、長南東三、椎谷元二、辻道子、堤厚士、田崎妙子、田中さわこ、田中正男、田辺幸子、渡辺喜平、渡辺孝雄、渡辺克己、渡辺当美、渡邊弘、島和子、島崎稔江、東野省司、東條由紀子、湯本英二、藤山忠、藤森研、藤田まさみ、藤田和哉、藤平光野、藤野芳郎、陶山浩、徳島はつ代、奈倉治生、内海伸子、内藤正人、内堀昌平、日高よし子、白神武男、白濱已取・カツエ、畑志津子、飯沼寿代、樋上不二子、菱沼保幸、富永ウタ子、富士茅子、富田佳志、府川謙吾、浮野都伎子、武田敏、伏屋芳春・展江、副馬駿介、福原克彦、福田稔子、平田キヨ、平本俊弘、柄澤チヨ、片山佐和子、望月節子、北村馨、北村皮膚科、堀田ひさ子、本多良子、本田昌子、名なし会、網代和枝、木村ひな子、木村一郎、木村晴信、木村直子、野沢勇造、野津紀美子、有馬巖、由井平和、葉山中学校昭和32年卒「喜寿を祝う会」、鈴木光彰、鈴木清一、鈴木潤三、恵畑欣一、濤崎恭平、澤田君代、齋藤英昭、齋藤隆、齋木和子、高橋宏之、高木信子
- ▼新潟県：ASA新発田、永見慎児、岡村一彦、栢森照夫、金子美智子、黒川博、佐藤吉子、寺崎啓一、小林町子、松岡敦子、石黒正子・明德、石田光芳、増子玲子、村山とし枝、仲川鉄衛、渡辺秀、金子一光、尾野照雄、峯島英太郎、木村操一

- ▼石川県： 高見薫、北澤和子、木場清子
- ▼福井県： 垣内泰治・楊石、吉田正美、水野扶美代、片岡一郎
- ▼山梨県： 塩谷四郎・佳子、山崎喜春、川窪陽一郎・三陽子、川上新聞店、倉沢角三、増田あきの、中沢久子、田中耕太郎、渡辺国夫・教子、藤原静男、矢沢幹夫
- ▼長野県： 藤巻芳雄、横地美智子、宮沢東洋雄、熊沢正平、佐藤ミヨ、細川彰子、山下美都子、山瀬敏郎・田鶴子、山崎英俊、師岡恒司、篠田仁宏、小坂健介、上田腎臓クリニック、新海信雄、清水もと子、清水栄治、西村緑、大橋春武・友子、中川新聞店、塚田修、堤よう子、藤原弘視、鍋谷通子、白鳥さつき、望月正子
- ▼岐阜県： 安福嘉則、丸山健一、市立岐阜商業高校市岐商デパート、高橋良二、坂田茂樹、山根長利、山田賢、瀬尾幸男、竹内明、中島弘義、朝日新聞各務原、田中真理子、渡部和子、服部弘子・圭子、朴英子、堀笑子、野田嘉則
- ▼静岡県： 佐野ヒフ科クリニック、フタバ精密、愛甲正明、宇野明彦、岡本安江、金子万里、高橋一枝、静岡県高等学校野球連盟、三島新聞堂、山下光雄、山本慶子、篠原利男、指出泌尿器科、小原勝子、小嶋睦雄、小林淳子、上杉孝次、森本善夫、菅ヶ谷純弘、菅原大介、星野茂、星野医院、星野新聞堂、西方さかゑ、石原新聞店、石田敏、浅川浩慶、多々良新聞店、中山学、朝比奈生英、長崎邦子、徳留三男、内山さわ子、日野原紀世子、馬塚江津子、富山文男、服部医院、望月保宏、本多隆成、矢部香、鈴木慎一郎、晝間登久子、齊藤和子
- ▼愛知県： アカネ基金、ヘンデル協会、レーザテック、伊藤健、伊藤智章、井上瑞穂、稲垣脩世、稲田陽三、永原鑛二、奥山富子、下山敬、加古善輝、加藤孝平、加藤信子、加藤誠・みづ江、加藤誠亮、加藤静代、夏目園子、夏目哲志、掛川五郎、笠原みどり、亀井照代、吉川龍雄、金子徹、古田明夫・ハツ子、黒谷次郎一、今村桂三、今田行信、佐治満里子、佐藤紀世子、佐藤孝一、佐藤順子、佐野和子、坂井忠夫、坂野一博、笹淵千紗、三浦勝人、三枝妙子、山中寛紀、山中康彦、山田恵子、山路良子、市川敏男、七ツ村繁、篠田豊、柴田紀作、勝田富貴男、松下義弘、松崎文雄、松本直良、松野剛士、松野辰弥、照井通夫、森安千丈、森田公代、水谷正英、水谷満子、杉本宗孝、菅原光男、星野十糸絵、清水孝一、清水緑、西雪春子、西村龍也、青島鍵一、川口澄男、川端優男、川本由美子、浅井洋子、浅野明美、浅野恵津子、前田豊子、早川七郎、早川常彦・祥子、村田浩資、村田美佐子、巽重夫、丹鷲輝男、池内良照、中田菊江、中田和義、中嶋恵子、中嶋静夫、中部女流書道会、仲瀬譲二、長尾浅吉、津田紀夫、田中真砂子、渡辺剛、藤丸勝已、藤城郁美、藤城クリニック、藤田直敏、藤本ほか子、内海紀章、南原彩稀子、楠元勲、白井友子、服部明、平手勝、平野昭一、牧田洋子、堀昌義、木村タエ子、木村多化子、野場大策、野村紘子、野田隆稔、野武二郎、林恭旨、鈴木恒裕、鈴木章二、鈴木泰子、澤田創司・みよ、高木昌子、朝日サポートセンター社員一同、名古屋深雪会、コメクトクラブ
- ▼三重県： 伊藤好一、井坂世紀子、岩崎靖子、亀井百合子、駒田和子、高井勝・梓、小河律子、新星電機、神戸道、水谷皓子、石野和子、川上真吾、浅田はみ、谷洋次、竹村八重美、中村文世、長谷川吉甫、藤田雅美、藤本恭子、富田清志、服部勇、野呂純一、柳瀬恒範、和泉優・弘子、濱口宏子、柳瀬恒範、盆栽友人趣味の会
- ▼滋賀県： 井上ミチコ、丸山百合子・洋、宮部喜代茂、金城美代、黒川進、鹿野美智子、重本ひさの、千代恒治、辻寅建設、田口敏明、北村澄子、堀良丸、堀田民、木村孝次
- ▼京都府： ASA宇治西、アサワ医院、メスプコーポレーション、井上瑞穂、井上正子、稲垣和子、右川ふみ、奥田成子、岡崎善弘、岡崎芳、吉原征子、橋屋秀夫、橋本勝彌、橋本龍哉・千津子、戸田和夫、雑

喉章子、三間寛次・倭代、山下育子、山田健一、山田文諒、山本祥子、若林香代子、重川一郎、升山春彦、小牧貫治、上羽トメヨ、上野昭英、信田尚志、西千代子、西垣成、西京極薬局、石田妙子、大西等士、大谷光真、滝川祥子、滝川正、中村善治、朝日栄太郎、辻井弘次、田上亮子、田中晃、渡辺深雪、島田得三・富子、徳田一男、内藤美子、畑一、武内秀夫、福田博幸、福田礼子、北川光夫・恵美子、鈴木正澄・育代・喜代・朋子・みどり、澤田茂夫、齋藤道子、萬木房敏、高石照子

▼大阪府：中尾サチ子、グレース幼稚園、マリオネット・マンドリンオーケストラ、阿曾桂子、安仲信子、安田吉美、安田猛、伊東英明・文子、伊藤政信、井口理、井坂良子、井上晴太郎、磯波初美、一色玄、稲向絹子、宇野成一、羽月悦子、浦西美智子、円尾クリニック、遠山奈美子、塩谷浩之、塩田眞義、横須賀昭子、岡久子、岡本義明、岡本健治、岡本幸男、岡本赳夫、恩地ヨシ子、加川和代、加藤順康、河口和代、角谷陽子、榎本智照、関口晃、館弘子、喜田充郎、義積通子、吉永由美子、吉田元也、吉田正、久保田健一、宮原壽江、宮前忠夫、京谷慶二郎、橋爪喜久子、郷司正代、玉井正光、玉谷美智子、琴谷敏治、近鉄タクシー、近藤鐵雄、金子喜昭、金銅幸夫、金澤楨、栗本透、結城邦夫、古河拓、古谷尹玖子、光安玲子、大同生命厚生事業団、溝畑伸子、甲田英行、荒木康雄、高橋誠、高橋徹、高橋良子、高田和世、今川沙陽子、今村守、今村明美、今村早智子、佐々木行雄、佐藤嘉昭、佐藤友彦、妻鹿敏弘・みわ子、斎木幸治、細川美紀、坂口博康、坂東重信、阪上義雄、阪田榮伸、阪部元重、三浦光夫、三村晃、山下岩雄、山岸健三、山口厚美・牧子、山根巖、山中守、山田栄子、山田幸子、山田実、山東利一、山本愛子、市川善博、指宿仁孝、寺中正義、次井義泰、鹿児島県人泉州桜島会、七野佳子、柴田三男、柴田千代枝、酒井俊悟、秋田仁士、出原弘之、出口孝友、出水泰男・明子・睦子、小原利博、小山博信、小山敏子、小峰聖子、小野美智雄、小野文子、小林たね子、松井富子、松岡朝生、松居世津子、松田生雄、松田敏子、松本章男、上須喜久治、上村弘、上田輝雄、上田優、上田茂、上野たかね、植坂美穂子、植田智子、植野敏子、信夫松枝、新船公江、森快三、森中央、森田千寿、森本恵子、森榮明子、真砂信三、人生道場、須藤高明、水谷泰子、水野診療所患者職員一同、杉浦幸弘、杉本房枝、菅野満子、瀬部紀美子、星翔高校生徒会、清水純子、聖愛幼稚園、西昭治・綾子、西口澄子、西山加代子、西山武志、西川正和、西村節子、西田義幸、西田成廣、西内スミエ、石城戸博子、石田昭勝、石田章、赤松益子、赤松善弘、切通良昭、千綿繁満、川見秀夫、川上綾子、泉原ちさと、前田忠俊、前田龍夫、前野博之助、総田ひろ子、増田成子、増田武司、村田俊文、大橋たづ子、大橋輝雄、大江晃弘、大阪シティ信用金庫、大阪市RR厚生会、大阪市ママさんバレーボール連盟、大阪府レクリエーション協会、大西昭、大谷志乃ぶ、大塚伸二、大槻博司、大田秀幸、大野俊彦、大矢明子、辰巳砂仁美、谷弘子、池田親永、池田清、池田美代子、池畑孝子、中屋敷清、中元順子、中上佳昌、中西昭次、中川英子、中村志津子、中田義仁、中田順造・美佐子、中島チエ子、中島正典、中島忠男、仲田實、ASAサービスアンカー茨木山手、長岡洋子、長山宏、長田浩子、長尾昌治・怜子、津野泰子、辻外科リハビリテーション病院、辻豊治、辻本常雄、辻本美佐子、天正安治、田端ひろ子、田中勝美、田中進、田中暢子、田野ヒサ子、田淵哲・多恵子、渡辺綱男、渡辺朱美、渡辺敏明、登村輝夫、土井隆、島田榮一、嶋倉宏、嶋中尚一、藤田寿郎、藤本和喜子、陶山陽子、縄井延子、楠田節子、日下敦子、日置雄毅、日比史江、日野泉哉、馬野明子、梅川邦夫、萩原永美子、白井好彦、畑中二郎、八束浩一、八木黎子、半田美子、板井清光、板垣邦彦、樋口美和子、尾田和子、百目鬼、不二製作所、富田幹夫、武居トシ子、服部昌子、服部利之、福井とみ子、福山昌生、福山章紀、福田幸子、平岡京子、片ノ坂主磨、片上清雄、芳井輝子、北村美佐子、北田利章、北之坊皓司、堀切裕行、堀田喜久、本田学、末吉武男、満井末吉、名村正勝、木下雅司、木谷瞭良、野下之男、野間明子、野口美智子、

野水二三代、友田隆、大和梱包、梨山春夫、林昭男、林敦子、林保、鈴木サヨ子、ごとう耳鼻咽喉科、鈴木七重、和久田禎三、和田綾子、和田純一、和田信矢、亘益慧、澤井奈津子、高野和浩、莫正継

- ▼兵庫県：HARVEY PAUL A. S.、阿部正史、安江和子、安田和子、伊東俊夫、井上知子、井上壽子、稲川幸子、永田敏一、塩見優子、横山貢、岡巖・八千代、沖塩眞一郎、夏目美紀夫、河原田円三、河村美智子、花井彩、外山妙子、笠原千義、梶岡悟、基英城、吉田テイ、吉田軍治、吉田元恵、久野壬豊、久野聡子、宮本孝行、宮本美智子、宮脇克司、橋本壽明、玉置歌子、古河崎隆夫、高橋明美、高福誠・憲子、合唱団ロビーの歌声、佐藤幸子、坂元紀子、阪本洋子、崎ダイ、笹田滋男、山下元公、山口守、山口恵子、山崎敏明、山田真知子、山田都子、山田博司、寺田秀子・宏貴、寺本躬久、重吉愛子、重松貞夫、重内皋月、勝村美和子、小笠原順子、小渕孝子、松井卓生、松山春子、松本正義、松本裕司、上山和子、城玲子、植松靖博、植田涼子、新免篤司、森泰子、森本教司、水谷修子、水嶋幸江、水落吉彦、杉山美和子、杉本力、菅村和弘、清水勤、西岡浩人・千穂・知奈美、西山伸司、西川一、西川雅則・朋子・美空・峻・峻、西田宏、齊藤博、石井日出夫、蟬川勝己、川戸龍男、川上信男・廣子、川端二四雄、浅岡芳司、前田美知子、村居哲、村上信子、待田順治、袋布健二郎、大西英子、大西正信、大石京二、大田隆三、谷政敏、池田和歌子、中垣勲、中原康弘、中原征人、中野多可子、ASAサービスアンカー売布、長谷川喜、長田はな子、田中幸雄、田中尚子、田中貞子、田仲久雄、桃原久枝、藤岡賢子、梅田啓人、畑尾雅子、八木実、飯塚信男、尾崎久枝、富島祥二、福西秀信、堀川法之・登喜子、木村修、木村武弘、野村妙、油谷卓雄、脇坂正之、佛立寺婦人会、廣辻逸郎、濱田明美、高野麗子
- ▼奈良県：井上美晶、延山絹子、宮田和枝、橋本忠一、桜井中学校1969年卒業生同窓会、山岡秀一、山崎賢、山中肇、山野昌子、東大寺、小林弘、松居良、清水ノブ子、西塔輝男、赤澤慶文、村尾美恵子、大西和子、池田登美子、竹森洋子、中江作郎、中川憲夫、中之瀬文代、中牟田智子、田治見穰三、東山忠男、二木伸生、平恵子、木本千津子、野村進、櫻井重成、濱川利郎
- ▼和歌山県：ASA打田、貝川好延、吉田賢治・三希子、久世哲央、高村眞知子、市ノ瀬伊久男、青松会職員、川上廣章、竹中信夫、東谷好子、南出佳伸、福井一彦、県立紀央館高校
- ▼鳥取県：丸谷信夫、松本智恵子、西尾茂子、組藤弼郎、足立仁、福嶋佑二、米原章喜、國頭暉一郎
- ▼島根県：寄藤信子、山根武・愛子、澄川雅是
- ▼岡山県：橋目敏行、原田格二・雄一、向畑宣秀、黒川勝利、黒川和子、細見由美子、三秋尚、若林和子、出原完治、杉本英子、川上和夫、谷村昌枝、中村淳一、中村裕子、徳山孝義、日向美恵子、白井智久、明石年正、木村俊夫、柚木一男、高橋辰雄
- ▼広島県：安井博義、後迫裕子、佐藤嘉展、佐藤昭雄、坂上ルミエ、支那そば処たんぽぽ、小田直樹、松本淳、青木和彦、石井美智子、石田泰正、村野靖子、中村好江、中村耕也、中島澄夫、辻村益子、藤井成行・照子、藤原紀男、内田信一郎、柏葉義明・幸枝、板谷鉄弥、浜田春之、福井ヨウ子、平野恭子、矢野清、福山元町通商店街振興組合
- ▼山口県：井本芳宣、河上和洋、河本眞龍、岩崎保則、吉見ラジオ体操おはよう会、吉村礼子、宮本俊明、宮本甫子、兼石薫子、原田巖・(初称)、古賀明友、山岡邦雄・恵美子、おおどの診療所、松田博雄、松崎浩司、明林寺、深本良一、神田正美、神徳翁甫、石橋キヨ子、村田美代子、朝日新聞下関販売、潮浩、田島佳子、渡邊おでみ、武居稔博、福山道義、片岡逸、末次百合子、有久善道・操枝
- ▼徳島県：阿部啓三、溝部登久美、泉公允、田上泰子
- ▼香川県：穴吹勇人、市原晴穂、市村照子、寺山和彦・文子、上杉石松
- ▼愛媛県：井上紀乃、越智睦美、河野チエ子、笠原正直、近藤幸雄、桑村勝久、高津久美子、松井完治、曾我幸弘、池下祐輔



▼高知県：市川幹男、尾崎善博、北岡照平

▼福岡県：ASA引野、ASA糸田店チャリティゴルフ大会、ボランティアの店OASC、メンバーズ椿、やずや、阿部由利、鮎川正幸、安村茂男、安藤正幸、伊東直子、井上雅美、井上敬子、井上静子、井上敦子、一森軍生、永田泰徳、奥平成男、岡田幸子、岡島十三子、梶務、鴨川隆彦、苅田ロータリークラブ一同、岩田光雄、吉永正人・郁子、宮本産商、宮良紀子、協栄コンサルタント、橋爪淳二、桐明桂一郎、金光教若松教会ニコニコバザー、金田浩・敬子、熊谷新、熊本五年、桑原俊治・しのぶ、桑原純、原田礼子、古海スミエ、古庄三喜男、古川和則、戸次玖美子、戸田三七生、向笠洋三、工藤五六、恒富誠、江本邦夫、溝上ミヨ子、溝部忠増、高田たゆみ、国際ソロプチミスト北九州一東会、今村寿和、今本久美子・文徳、佐久間紘一・充子、佐々木愛子、佐々木清、佐藤百代、佐藤武美、佐藤保子、三宅志津香、山下幸子、山下新一郎、山家輝美子、山口俊紀、山川明洋、山田初子、山本賢輔、山本哲夫、師井義清、取違芳弘、手嶋秀子、周望社交ダンスOB会、秋成府左治、小さな版画美術館三輪、行橋クリニック、小熊坂公千、小原秀俊、小山田秀子、OZUMIクリニック、小石純也、小倉弘孝、小嶋房江、松井和弘、松岡順之介、松岡順之介・彰子、松下徹、松下美智恵、松中祐二、松本寛美、城戸さつき、城島伸介、植田朋子、植木隆導・恵子、新山政夫、新名恵子、森靖子、森脇巖、吹原正子、成重博美・まり子、西生寺護持会、西村四郎、西田影乃、西日本カラオケ連合北九州歌謡研究会、西日本カラオケ連合藤井教室、石橋大海、川関富美子、川元忠男、川原義守、川野淳次、浅海一隼、前田奉一郎、倉本恵美子、増留純人、蔵永知彦、其阿彌孝子、村上啓子、村上葉子・靖子、村上歯科医院スタッフ一同、村田純治、多川洋子、大西克己、大西純一、大村公人、大塚保人・明子、大淵深、大野クミ子、大野憲一、大林るり子、大和ひろみ、大澤慧子、谷口由美子、段野晝雄、池園芙美子、池尻直幹、池田綾子、池田暁彦・加寿子、池田知光、池野美都子、竹中久、中川一能、中村悦子、中村寿、中村進一、中島乃婦子、中島與志行、朝日新聞海老津販売店、朝日新聞福岡販売、椎野千代子、ツジ胃腸科医院、的場恒孝、天満紀子、田原敬士、田村龍夫・末子、田中時雄、田尾美智代、渡邊美津子、土居麗子、藤井美恵子、藤巻隆男、藤原東、藤好三千代、藤崎、藤田雅之、藤島八重、内山健治、日名子忠士、馬場武、梅田勇、白石徹、白木元助、白濱洋子、飯塚聖母幼稚園、肥田政敏、尾尻義博、風師山早朝登山会、姫路秀明、福岡春子、福井義雄、福岡国税局一同、福吉未紀子・三代子・新、福山悦子、平良喜照、並波真、本村良次、末森佳子、牟田芳子、木下京子、木戸繁美、木村賢示・勝子、木村幸隆、野崎恵美子、野田満記子、矢嶋和樹、油絵屋大哲、友井滋、有田和徳・雅子、有馬護宏、青山整形外科医院、立部孫義、林成寺、和田康彦、實藤正利・さかゑ、栢淵義光、高嶋康年

▼佐賀県：吉竹雅子、草野正雄、林田隆雄、磯谷誠一

▼長崎県：そのぎ新聞販売センター、俵町浜野病院、浦川諄之、下山高生、原村嘉子、後田敏子、酒井謙次、須磨律子、赤木輝子、川口房子、大川一明、田中慎一

▼熊本県：宇野洋一、吉村和一、宮田和子、荒木鎮雄、佐藤堯、山本博昭、松田斉・鈴子、松本勵子、上杉隆樹、樽海友希、竹中研治、鈴木一臣

▼大分県：加藤幸俊、岩永知子、久保田秀子、原隆、今永清治、佐藤トシ子、山崎福男、手嶋兵衛、石橋弘行、中谷一美、美登吉亮、美登公希、本田和子、野上和恵、澤本友良

▼宮崎県：井上清美、黒木ミサ、松山広子、石田信康、石田實、赤池義昭、前田淳、矢野光子

▼鹿児島県：阿久根亨、陽春堂内科診療所、久木田康、脇本病院、春山雅美、上山陸三、蔵屋一枝、田原睦郎、迫田久二、木村龍一郎・理

## 中期計画2020 ～新しい福祉のカタチをめざして～

### はじめに

近年の社会情勢の変化、とくに社会福祉の領域における変化は、かつてないほど急激なものとなっています。格差の広がりによって地域に要援護者が拡大し、それらに対応していくための地域を育み、福祉を支える人を育むことが、時代の要請となっています。

そのような環境の中、社会福祉法人の経営、運営に対しては非常に厳しい批判が社会から向けられています。2017年4月に本格施行された改正社会福祉法はまさに、財務規律やガバナンスの強化、運営の透明性を社会福祉法人に強く求めています。

事業団はこれまでも、寄付者のみなさまや福祉の担い手の方々とともに歩み、社会のニーズに応える事業を展開してきました。ガバナンス強化や運営の透明性の向上への取り組みは、事業団の運営を改めて見直し、これからの福祉を担うユニークかつ先進的な法人として確固とした運営基盤づくりをするにあたっては、よい機会であるともいえます。

このため事業団は、16年度半ばに、事業戦略検討チーム（通称：コアチーム）をつくり、中期計画づくりに着手しました。職員全員が参加する（参加できない人はメールなどで意見をよせる）「みらい会議」を招集して議論し、おおむね2020年までの理念、人、事業、財務、情報についての基本的な方向性をまとめました。

今回は、私たちの社会的使命（ミッションステートメント）を明確にかかげました。これまで事業推進の3本柱としてすえてきた児童、高齢者、障害者という枠組みを超え、次代の福祉に対応させるべく「地域づくりへの貢献」「福祉を支える人づくり」、それを支える「社会的な支援の輪の拡大」を事業団の新たな三つの軸とし、あらゆる事業をその実現に向けて展開する形に、理念や方針を整理いたしました。

この枠組みにより、各分野を横断するような事業が立ち上げやすくなると思います。積立金も事業推進の理念にそって組み替え、その用途を明確にしました。さらに事業団の大切な資産である職員の能力やモチベーションがいつそう高まるよう、スキルアップの場を増やし、働きやすい職場づくりに力を入れます。ソーシャルメディアも積極的に活用します。

ミッションステートメントを軸に構築された今回の計画は、これからの事業団を次代の福祉を担う組織に進化させるものと確信しています。

### 1. 事業団の社会的使命

#### ① ミッションステートメント

自らの方向性を定め、常に自らを刷新していく指針とすべく事業団の「ミッションステートメント」を職員で共有します。

朝日新聞というブランドを効果的に活用し、地域と人を育み、支援の輪をつなぐなかで、誰もが自分らしく安心して

#### 私たちの使命

先駆的に取り組んできた歴史をふまえて未来を見すえ、地域と人を育み、支援の輪をつなぎ、お互いに支え合いたれもが安心して暮らせる社会をつくる

暮らしていける社会の実現を、多くの団体や支援者と連携しながらめざしていきます。ミッションステートメントには、旧来の児童、障害者、高齢者という枠組みでは対応しきれない、介護者（ケアラー）の支援や貧困問題への対応など、新しい福祉問題に積極的に対応していきたいとの思いが込められています。

## ②職員モットー（事業への向き合い方）

次代の福祉を担う組織となっていけるよう、職員モットーをかかげます。新聞メディアの特性「信頼」「発信力」「情報力」をいかし、福祉ニーズへの対応やその解決に、これまで以上にスピーディーに取り組みます。その際には公正・中立な立場を堅持します。立場の異なる意見や新たな発想に謙虚な姿勢で対応し、独りよがりの考え方に陥ることなく、事業をすすめます。

## 活動モットー

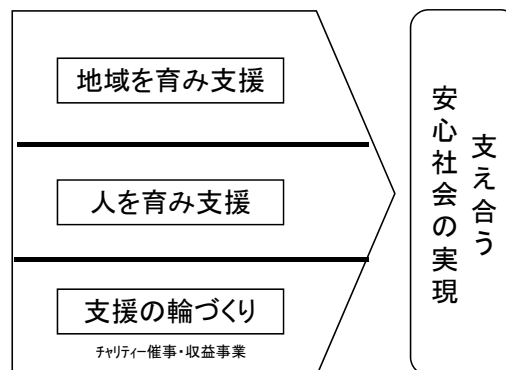
- ・時代に必要とされる仕事をめざす
- ・社会的な視点を意識する
- ・新たな課題の発見に努める
- ・スピード感をもって仕事にあたる
- ・効果、効率を追求する
- ・質の高い仕事をめざす
- ・常に仕事を刷新する
- ・持続可能な形をめざす
- ・当事者を尊重する
- ・支援者、寄付者の視点を尊重する

## 2. 事業展開

### ①新「三つの軸」

事業は社会的使命の達成に向けた手段として位置づけます。各事業については、職員モットーでかかげたように、より当事者、そして支援者の思いを大切にし、また、絶えず刷新していくことで、すぐれた事業体としての運営を担保していきます。

2017年度からの新規事業は、この三つの軸の考え方をもとに着手することになります。旧来の児童、高齢者、障害者といった福祉領域のサービスもこうした概念を取り込み、発展的に展開します。



### ②地域にも積極的に貢献

地域で新たな福祉事業を始められるかどうかについて、勉強会を設けて探っていきます。地域公益事業についても、責任をもって運営にあたっていきます。すでに多彩な事業を展開していますが、より充実させ地域に発信していきます。

### 3. 拠点と要員

#### ①全国規模で対応

事業団は朝日新聞各本社に事務局をもち、全国規模で事業を展開しています。今後も全国に目配りをする姿勢をもちつつ、東京と、西部、名古屋を含む大阪の「2極」体制を続けていきます。大きな災害などのリスクに備える一方で、人、事業を分散させ、効率的な事業展開ができるようつとめます。また、異動などを含めた職員の交流により、広い視野をもち、グローバルな視点で事業をすすめることができるようなキャリアアップへの道筋も整えます。



#### ②適正な人数配置

全国展開をする一方で、それぞれの事情に応じたきめ細かい事業展開を両立させるため、各事業所に必要な人員を配置していきます。

いまの地域別の事業費ベースでの内訳は、東京が約70パーセント、西部事務所と名古屋事務所を含む西日本事業部で約30パーセントとなっています。当面はこうした割合を念頭におき、それに必要な人員配置をしていきます。それぞれの事業所は、本部事務所と連携しつつ、事業所レベルでの財務的に安定した運営をめざしていきます。

#### ③職員のスキルアップ

質の高い福祉事業の展開には、職員の質の向上が不可欠です。福祉のスペシャリストを招いての勉強会といった職員研修を充実させるほか、常に新しい視点で取り組む福祉活動を客観的に評価検討し、イノベートしていきます。

多様な働き方ができるよう、育児や介護時の就業を支えるフレックスタイム制の導入などについて今後検討し、環境整備に取り組みます。

### 4. 財務戦略・ガバナンス強化

#### ①「次世代型積立金」に組み替え

近年の福祉は、貧困の問題に象徴されるように、問題が複雑化しています。児童、障害者、高齢者という旧来の枠組みだけでは対応しづらい状況が生まれつつあります。

これに対応するために積立金を「児童支援」「地域支援」「人材支援」「東日本震災復興支援」

積立金名称	積立金の趣旨	主な充当先
1. 児童福祉振興基金 (含む山岡基金) 7億2千万円	社会的支援を必要とするすべての子どもたちに夢と希望を与えるための基金。	・進学応援金 ・子どもの貧困助成
2. 地域福祉振興基金 4億4千万円	誰もが、年を重ねても安心して暮らすことのできる地域づくりに寄与する基金	・認知症プロジェクト ・認知症カフェ開設応援助成
3. 福祉人材育成 啓発交流基金 2億7千5百万円	次代の福祉を担う人材を育み、その交流と福祉の啓発に寄与する基金	・手話スピーチコンテスト ・朝日夏季保育大学 ・ゆうゆうビジット
4. 東日本大震災 地域支援基金 3億793万円	東日本大震災で被災した地域の復興に寄与する基金	・朝日のあたる家 ・被災地訪問プログラム

の4つに分けて設定します。さらに、それぞれに該当する事業を仕分けします。今後は各積立金から各事業に、計画的かつ適切にお金を使っていきます。児童、高齢者、障害者という会計的な枠組みに収まらない事業に柔軟に対応していきます。

## ②新しい収入源の確保に注力

現在の年間事業規模は4億円程度で推移しています。金額的には妥当なスケールであると思われます。しかしながら、寄付金収入やチャリティー事業の収入が今後落ち込むおそれがあり、安定的な資金的な裏づけのない事業団にとっては、収益源をまかなう収益事業をあらたに開拓する必要性が出てきます。

ネット空間を使った新たな寄付受け入れ手法の導入や、新しい視点でのチャリティー事業づくりなどに、全力をあげて取り組んでいきます。

## ③財務情報の透明化と管理の徹底

社会福祉法人に対するガバナンス徹底などの要請が強まっています。事業の収支については、各事業のフローバランスを注視、全体的収入に応じた支出規模となるように、これまで以上に厳密な管理をしていきます。事業の妥当性、会計の透明性を確保するため、一定の外部組織等による監査も導入します。

## ④柔軟なマネジメント

たとえ、実施することを年度当初に決めた事業であっても、ガバナンスの徹底、リスク低減の努力などがなされていなければ、直前であっても実施を見送ります。

事業を進める際には上司と部下が緊密に連絡、意見交換を交わしつつ、おおいに前向きな議論をしながら、最新のニーズにそった、意義のある事業を手がけていきます。

また朝日のあたる家のように、他団体を通じて支援している施設の老朽化に対応するメンテナンス費用などについても適切な金額の積み立てを考えておく必要があります。つねに数年先の将来像を描きながら、運営してまいります。

## 5. 広報展開

### SNS（ソーシャルネットワーク）を積極的に活用

SNSの社会的な影響力は高まる一方です。事業団は法人独自のホームページをもち、その更新につとめ、催しなどの広報をしています。SNSの影響力が大きくなるなか、それらへの適応が急務となりつつあります。本格的な導入に向けてしっかりとした態勢をつくり、催しのいくつかでインスタグラム、ツイッター、フェイスブックなどを活用した実験的な取り組みをはじめます。

また、ウェブマーケティング（グーグルアドワーズを使った広告など）を一部の事業で活用し始めていますが、これらの活用も積極的に模索していきます。

## おわりに

今、社会福祉法人の制度改革がすすめられています。この中期計画も、この法改正に対応する内容になっています。この度の改革の趣旨は、社会福祉法人の存在意義を問うものであり、私たちはこの要請にしっかりと応えていくべきと考えます。この計画は、新しく求められる社会福祉法人としての社会的役割、そして事業団としてのこれからの社会的使命を方向づける、重要な役割を果たすものと考えています。

今回、おおむね2020年までの方向性ということでまとめましたが、最新の福祉ニーズに対応するために修正が必要であれば、期中であっても速やかに変更していきます。常に時代に対応した事業を展開していく姿勢を貫きます。職員各自の、またご支援ご協力いただいている方々の思いが、本計画をもとに統合され、新しい福祉のカたちをつくっていけるよう、努力してまいります。



## 障害者就労支援の取り組み

### 体験実習の受け入れやパン販売を始めました

18年度から始めた障害者就労支援事業は、障害者が仕事を通じて生きがいや誇りを感じ、より充実した生活を送ることを応援します。

初めてとなる今年は、事業団本部に近い東京都中央区内の就労支援事業所への作業委託と体験実習、朝日新聞東京本社内でのパン販売を行いました。

作業委託では、中央区内の3カ所の就労支援事業所に計8回、文書類の印刷やチラシの封入・封緘作業などを依頼し、合計して約7万円の作業料をお支払いしました。

また体験実習は計4回行い、データ入力といった軽作業や、事業団の実施するイベントでスタッフとしてお手伝いをしていただきました。事業所以外の場所で働くことで、就労への意欲向上につながったと喜んでいただきました。

パン販売は朝日新聞東京本社の社員食堂内のスペースを借りて計4回行い、毎回パンが完売で好評でした。併せて布製のポーチやヘアアクセサリなどの自主生産品の販売も行い、売り上げが事業所での作業の活力につながったというお声をいただきました。



18年度は以下の事業所に依頼しました。

アイビー、さわやかワーク中央、リバーサイドつつじ（作業委託）、レインボーハウス明石（パン販売）

## 朝日福祉ガイド DVD・本のご案内

### ◆朝日福祉ガイドDVD◆

※価格は税込み。別途梱包送料がかかります。7巻まで510円（8巻以上は800円）

<p>『自閉症の人が求める支援』 ～よくわかる自立のためのアイデア～ 全3巻セット価格 10,692円 各巻 4,320円</p>	<p>自閉症の人、それぞれの個性に合わせた支援の基本である「構造化」を映像化した画期的なDVDです。第1巻「基本編 基礎からわかる構造化」(60分)・第2巻「実技編 構造化と再構造化のしかた」(85分)・第3巻「実践編 自立のための構造化」(112分)。</p>
<p>『自閉症の人が見ている世界』 ～自閉症の人を正しく理解する～ 全3巻セット価格 10,692円 各巻 4,320円</p>	<p>自閉症の人の考え方や感じ方の「違い」について、自閉症の人自身が語る言葉と映像は、自閉症を正しく理解する原点です。第1巻「自閉症の人の学習スタイル」(63分)・第2巻「自閉症の人が好むこと」(39分+全3巻のダイジェスト21分)・第3巻「13人のエピソード」(85分)。</p>
<p>『自閉症の子どもの評価 生活スキル編』 全4巻セット価格 18,144円 各巻 4,860円</p>	<p>自閉症の人たちを正しく支援する上で、すべての基礎となる評価を詳しく、具体的に、分かりやすく映像化。第1巻「評価のしかた」(65分)・第2巻「評価のポイント」(48分)・第3巻「評価と課題設定」(86分)・第4巻「自立のための評価」(71分)。</p>
<p>『自閉症の子どもの自立課題』 全3巻セット価格 13,608円 各巻 4,860円</p>	<p>「自分ができる」という感覚を養い、いろいろなことに取り組む意欲を育て、将来の自立した活動につながる「自立課題」を詳しく紹介。第1巻「自立課題の選び方」(64分)・第2巻「自立課題の作り方」(59分)・第3巻「自立課題のできあがり」(49分)。</p>
<p>TEACCHプログラムシリーズ～米国ノースカロライナ州にみる自閉症教育 各巻3,024円</p>	
<p>『自閉症児の明日のために －TEACCHのねらいと考え方－』</p>	<p>プログラムの全体像をセラピストの立場から紹介、自閉症の人たちを援助する上で何が必要かを示唆(49分)。</p>
<p>『親のためのTEACCHプログラム』</p>	<p>親が実践できるように、家庭での援助の実際を具体的に分かりやすく紹介(67分)。</p>
<p>『教師のためのTEACCHプログラム』</p>	<p>教室やスケジュールの設定、親との連携など、教師や指導員の参考に(69分)。</p>
<p>『青年期・成人期のTEACCHプログラム』</p>	<p>学校卒業後の就職・居住・余暇など青年期・成人期向けの援助法を紹介(55分)。</p>

### ◆お申し込み・お問い合わせ◆

ご希望の方は電話かファクス、電子メール (guide@asahi-welfare.or.jp)  
で下記までお申し込みください。

(タイトル名、数量、お名前、電話番号を明記してください)

ホームページ (<http://www.asahi-welfare.or.jp/>) からもお申し込みができます。

朝日新聞厚生文化事業団 朝日福祉ガイドブック・DVD係

〒104-8011 東京都中央区築地5-3-2

tel:03-5540-7446 fax:03-5565-1643

## ◆朝日福祉ガイドブック◆

※価格はいずれも税込み。別途梱包送料がかかります。

1冊180円、2-3冊250円、4-5冊300円（6冊以上はお問い合わせ下さい）

### 『生き方、逝き方 ガイドブック』

1,296円

どうすれば本人らしい「逝き方」ができるのか。タブー視されがちだったこの命題を新田國夫医師とともに考え、整理しました。



### 『自閉症のひとたちへの 援助システム』

540円

TEACCHプログラムの実践事例を豊富な写真とイラストで紹介しながら、プログラムを日本でいかに生かすかを提案。



### 『なるほど高次脳機能障害』

1,296円

高次脳機能障害を、その障害の理解に始まり、発症から診断、リハビリ、社会参加まで、豊富な事例で解説しています。



### 『100%あらかくん』

648円

自閉症のあらかくんの大活躍を、母親が描いた4コママンガ。自閉症の子どもと、その家族の日常が理解できます。



### 『みんなのうつ』

1,080円

うつ病の「分かりにくさ」を整理し、正しく理解するための入門書。治療法や対処法も解説。監修は精神科医の大野裕さん。



### 『くるまいす-第3改訂版』

324円

車いすの種類や構造、介助の基本的な方法やポイントを分かりやすく解説、公共交通機関の利用についても触れています。



### 『認知症とともに』

1,080円

認知症の人や、その家族のために、診断から治療・ケア・介護サービス、施設への入所や看取りまでイラスト入りで解説。



### 『新・川崎病がわかる本 改訂増補版』

540円

乳幼児を中心に発病する原因不明の「川崎病」について症状や特色、療養上の注意、相談窓口などの情報を加えて解説。



### 『自閉症の人たちを支援する ということ』

864円

TEACCHプログラムの最高責任者、ゲーリー・メジボフ教授が自閉症の障害とプログラムの内容を分かりやすく解説。



## 朝日新聞厚生文化事業団のあゆみ

### 社会福祉 常に時代の先を見すえて

朝日新聞厚生文化事業団の設立のきっかけは、1923（大正12）年9月1日の関東大震災の被災者救援活動です。朝日新聞社は全国から寄せられた義援金や食糧、生活用品を被災者に配り、震災の翌年末には「歳末同情週間」（現在の「歳末助け合い」）を主催し、紙面キャンペーンや街頭募金を始め、美術家や作家などの協力を得た「色紙・短冊即売会」（現在の「朝日チャリティー美術展」）を催しました。これらの寄金を食糧や衣料品にかえて生活に困る人々に贈りました。

その後、世界的な経済恐慌で生活困窮者が増え、社会問題が続発したため、28年1月に「社団法人朝日新聞社会事業団」を大阪朝日新聞社に創設しました。「歳末同情週間」の寄金で生活困窮者に慰問袋や無料診察券、常備白米券を配り、困窮者への「出世資金」の貸し出しや農繁期託児所の開設、水上生活者のための無料診療船巡航などを実施しました。学校に弁当を持参できない子どもたちの「欠食児童給食運動」キャンペーンは、現在の学校給食のきっかけとなりました。大阪に公衆衛生訪問婦協会を設立し、保健・育児など多岐にわたる活動は日本の保健師制度の基礎を築きました。



第二次大戦後は、戦災者や引き揚げ者への家庭常備薬や医療品の配布、傷病兵慰問などの援護事業から始まりました。廃墟の中での明るい話題は、49年9月にインドのネル首相から贈られた象「インディラ」の「移動動物園」でした。半年間で東日本18都市を回り、子どもたちの笑顔を取り戻しました。



52年に社会福祉事業法が制定され、朝日新聞社の東京・大阪・西部各本社にそれぞれ独立の社会福祉法人を設け、「朝日新聞厚生文化事業団」と改称しました。63年には大阪事業団の名古屋支部が独立し、全国展開事業とともに地域福祉事業の推進に着手しました。

戦後の復興とともに本格的な社会福祉事業への取り組みが始まり、児童福祉法施行5周年を記念して大阪に「アサヒ生駒山キャンプセンター」を開設、児童養護施設の中学生修学旅行や福祉施設で暮らす高齢者の温泉旅行も始まりました。54年8月に第1回の「朝日夏季保育大学」が開かれ、56年2月から始まった「この子たちの親を探そう」運動は、戦争で生き別れた親子



146組の対面を実現しました。ハンセン病の正しい理解と患者支援のために「大阪ハンセン病協力会」を設立し、「アサヒベビー相談室」を大阪・名古屋のデパートで開設したほか、大学医学部による全国の無医地区診療など、医療と公衆衛生事業にも力を注ぎました。59年9月の伊勢湾台風、64年6月の新潟地震では被災地に朝日診療車が出動して被災者救護にあたり、全国からの救援物資を配布しました。



高度経済成長と共に事業を拡大しました。三重県多徳島の「アサヒ志摩キャンプセンター」、愛知県梶島の「アサヒキャンプセンター」、千葉県保田海岸の「朝日臨海福祉センター」、大分県九重町の「朝日高原福祉センター」を開設し、福祉施設の子どもや障害のある子どもが参加するキャンプ事業が始まりました。また、激増する交通遺児家庭への支援活動を始め、視覚障害の学生のための奨学金制度も創設しました。

障害のある人や難病患者への支援も本格化し、電動タイプライター・電動車いすの贈呈や普及キャンペーンを展開。福祉のまちづくりを進める「車いす市民交流集会」や、福祉先進国を訪ねる「車いすヨーロッパの旅」も始まりました。「ヨーロッパの旅」は障害のある人の海外旅行の先駆けとして注目され、これらの集会や旅の参加者の多くが、障害のある人の



自立生活運動の中心となりました。また、「朝日ボランティア奨励金」「朝日福祉設備助成金」(86年に「朝日福祉助成金」に統合)を相次いで創設、各地でボランティア講座を開くなど、草の根福祉活動の支援を進め、認知症など介護の必要な高齢者の問題に対応する「アサヒ老人家族相談室」も開設しました。

81年の国際障害者年には「障害者の自立を考えるシンポジウム」を全国で開催し、ノーマライゼーションの理念を基に、コミュニケーション・プリンターや手書き電話、福祉電話装置「ふれあい」などの贈呈運動を展開しました。精神障害者の医療や福祉の先進国である欧米5カ国に視察団を派遣し、日中平和友好条約締結10周年を記念した「日本・中国車いす市民友好相互交流」も実施しました。

また、自閉症の支援システム「TEACCH(ティーチ)プログラム」に着目、米国ノースカロライナ大学から講師を招いて研修会を開き、ガイドブックやビデオを制作・頒布するなど、本格的な普及活動を開始。2002年からはその実践者千人余りが集う「自閉症カンファレンスNIIPPON」を開催しています。同時に学習障害児(LD)の理解を進める公開相談会や、深刻な社会問題となった青少年の「ひきこもり」問題を考えるシンポジウムも各地で開きました。手話の普及とボランティア活動・福祉教育の推進をはかる「全国高校生(大学生)の手話によるスピーチコンテスト」は84年にスタートしました。91年からの「アジア障害者の10年」にあたり、全国の障害者施設・団体と協力して、タイ・ベトナム・カンボジア・フィリピンなどに車いすを贈る

運動を展開、障害のある現地の人が車いすを制作・修理する工場を開設しました。

一方、83年のアフリカ飢餓救援キャンペーンをはじめ、国内外で起こった災害に対応して、救援募金を呼びかけてきました。91年には「チェルノブイリに光を」キャンペーンを開始、広島・長崎の赤十字病院で被災地の子どもを診療し、現地の医師が被曝（ひばく）治療の研修を受けました。95年1月の阪神淡路大震災では、救援拠点として「朝日ボランティア基地」を開設し、高齢者・障害のある人への緊急援助や仮設住宅世帯、アジアからの留学生、被災児への支援など多岐にわたって活動。2004年の新潟県中越地震では、被災者の心のケアをはかる事業を展開しました。この実績は11年3月の東日本大震災でも生かされ、両親を失った子どもに一時金を贈る「こども応援金」や、岩手県陸前高田市のコミュニティーハウス「朝日のあたる家」の開設など、独自の救援事業に取り組んでいます。

東京・大阪・西部・名古屋で独立して活動してきた各事業団は01年4月1日に合併して、「社会福祉法人朝日新聞厚生文化事業団」となり、18年には創立90周年を迎えました。新聞社の福祉事業として、常に社会の変化やニーズを先取りし、社会意識を高めるための取り組みを続けています。

### 「朝日新聞の福祉～厚生文化事業団の90年」展

18年に90周年を迎えた事業団の歴史を紹介する展示を、8月18日～30日に朝日新聞東京本社コンコースギャラリーで実施しました。

大正末期から現在に至るまでの写真パネルや出版物を中心に、災害救援に始まり救貧事業や公衆衛生、児童福祉など幅広い分野で先駆的な事業を行ってきた歴史をたどりました。昭和初期に貧困家庭に配られた「白米引換券」や「お歳暮」を入れた袋、文化施設「大阪朝日会館」で戦前に開かれた資金づくりのための演奏会のパンフレットなど、倉庫にあった珍しい品も並べました。また元職員の遺族宅で見つかった、ヘレン・ケラーが初来日した時につづった手紙も展示。通りがかった人たちも興味深そうに見入っていました。





## 2018年度 事業活動計算書より抜粋

(2018年4月1日～2019年3月31日)

単位:円

サービス活動収益	488,083,120	サービス活動費用	504,020,979
事業収益	12,260,839	事業費用	248,773,047
児童福祉事業	2,513,340	児童福祉事業	62,282,918
障害者福祉サービス等事業	16,350,150	障害者福祉サービス等事業	37,287,519
老人福祉事業	501,485	老人福祉事業	43,141,629
チャリティー事業	115,884,935	チャリティー事業	101,583,627
医療と公衆衛生	2,940,000	医療と公衆衛生	537,789
朝日福祉ガイド(DVD他)	4,670,864	福祉啓発推進	1,532,349
		朝日福祉ガイド(DVD他)	2,407,216
経常経費寄附金収益	345,199,746		
その他の収益	22,600		
		人件費	197,326,895
		事務費	56,601,482
		減価償却費	1,299,282
		徴収不能額	20,273
サービス活動外収益	693,845	サービス活動外費用	0
受取利息配当金収益	693,845		
		経常増減差額	△15,244,014
合計	488,776,965	合計	488,776,965

詳細は、当事業団のホームページをご覧ください。

## 理事・監事・評議員名簿

2019年3月31日現在

社会福祉法人 朝日新聞厚生文化事業団／理事・監事・評議員

(理事 6人 監事 2人 評議員 7人) 敬称略・順不同

---

理事長	飯田 真也	朝日新聞社相談役
業務執行理事	鈴木 健	朝日新聞厚生文化事業団理事
理事	炭谷 茂	社会福祉法人恩賜財団済生会理事長 元環境事務次官
同	早瀬 昇	社会福祉法人大阪ボランティア協会常務理事
同	越村佳代子	元社会福祉法人こどもの国協会常勤理事・副園長
同	服部万里子	服部メディカル研究所所長
監事	亀岡 保夫	公認会計士 大光監査法人理事長
同	狩野 信夫	社会福祉法人けやき福祉会常務理事(業務執行理事)
評議員	石川 到覚	大正大学名誉教授
同	杉村 全陽	社会福祉法人テレビ朝日福祉文化事業団事務局長
同	大塚 晃	一般社団法人日本発達障害ネットワーク副理事長
同	大谷 泰夫	社会福祉法人日本保育協会理事長
同	小林 秀樹	社会福祉法人東京都社会福祉協議会事務局長
同	水野 雅生	ミズノプリテック株式会社社長
同	小原 洋	朝日新聞社CSR担当補佐

## ご寄付の方法

### ●郵便振替

口座番号「00130・1・9166」（加入者名＝朝日新聞厚生文化事業団）で受け付けております。通信欄に「寄付」とお書きください。またお名前の朝日新聞紙上への掲載が不要な場合は「匿名」、領収書不要の場合は「領収書不要」と明記した上でご送金ください。

当事業団専用の「寄付専用」郵便振替用紙をお使いいただければ、払込料金が不要となります。お手元にない場合は事業団にご請求ください。

### ●銀行振り込み・クレジットカード

事業団ホームページからご寄付の手続きができます。

### ●現金受付

朝日新聞本社内の厚生文化事業団窓口（平日午前10時～午後5時30分）

朝日新聞の各総局などでお受けします。

### 税制上の優遇措置について

事業団へのご寄付は次のような寄付金控除を受けることができます。

#### ▽個人所得税

所得控除と税額控除のうち、いずれか有利な方をお選びいただけます。この優遇を受ける場合、確定申告を行う必要があります。

〈所得控除〉 寄付金の合計額※－2000円＝所得控除額

※総所得金額の40％に相当する額が上限

〈税額控除〉 (寄付金の合計額※－2000円) × 40％＝税額控除額※

※総所得金額の40％に相当する額が上限

※※所得税額の25％が上限

#### ▽個人住民税

東京都にお住まいの方は、個人住民税から控除の適用を受けることができます。

(寄付金額※－2000円) × 4％＝税額控除額

※総所得金額等の30％が上限

#### ▽法人の場合

当事業団に対するご寄付は、その寄付金の合計金額と寄付金の損金算入限度額のいずれか少ない金額が損金に算入されます。詳細はお近くの税務署、税理士にご確認ください。

#### ▽相続税についての優遇措置

相続で取得した財産の一部または全部をご寄付された場合、一定の要件を満たせばご寄付された財産について相続税は課税されません。また、遺贈については信託銀行と提携しご紹介も行っていきます。

### 古本募金

皆さまから読み終えた本やDVD等をご提供いただき、古書として買い取った査定金額が事業団に寄付される取り組みです。引き取り・査定換金・募金送金の運営を嵯峨野株式会社（サービス名称「きしゃぼん」）に委託して実施しています。詳しくはWEBサイト (<https://www2.kishapon.com/asahi-welfare/>) をご覧下さい。

## お問い合わせ・職員名簿

### ■本部

〒104-8011 東京都中央区築地5-3-2  
TEL03(5540)7446 FAX03(5565)1643

### ■大阪事務所

〒530-8211 大阪市北区中之島2-3-18  
TEL06(6201)8008 FAX06(6231)3004

### ■西部事務所

〒812-8511 福岡市博多区博多駅前2-1-1  
TEL092(477)6930 FAX092(477)6931

### ■名古屋事務所

〒460-8488 名古屋市中区栄1-3-3  
TEL052(221)0307 FAX052(221)5453

### 朝日新聞厚生文化事業団職員名簿（2019年3月31日現在）

#### ■本部（東京）

事務局長 是永 一好  
事業部長 野崎 貴士  
管理担当部長 大羽 淳一  
広報担当部長 河田 有子  
落合 すが子  
勝見 文子  
北村 美樹  
小倉 玲子  
古屋 厚子  
富岡 信幸  
藤田 祐子  
松岡 百合  
宮前 賢

#### ■大阪事務所

西日本事業部長兼大阪事務所長  
山本 雅彦  
福本 昌宏  
古市 真弓  
森田 英恵

#### ■西部事務所

事務所長 上原 啓  
専門委員（西部在勤）  
福田 年之

#### ■名古屋事務所

中村 宣人

THE ASAHI SHIMBUN SOCIAL WELFARE ORGANIZATION

朝日の社会福祉

2018

平成30年度

事業  
報告

ホームページ・facebookで福祉情報を発信しています

<http://www.asahi-welfare.or.jp/>

<https://www.facebook.com/asahiwelfare/>

2018年度 事業報告

2018年4月 1日から

2019年3月31日まで



朝日新聞厚生文化事業団